

第3章 事業実施想定区域及びその周囲の概況

事業実施想定区域及びその周囲における自然的状況及び社会的状況について、環境要素の区分ごとに事業特性を踏まえ、計画段階配慮事項を検討するに当たり必要と考えられる範囲を対象に入手可能な最新の文献その他の資料により把握した。

3.1 自然的状況

3.1.1 大気環境の状況

1. 気象の状況

事業実施想定区域及びその周囲は日野川流域であり、「日野川水系河川整備計画【国管理区間】」（国土交通省中国地方整備局、平成28年）によると、流域の気候は、梅雨期・台風期のほか、冬季に降水量が多い日本海側気候に属している。

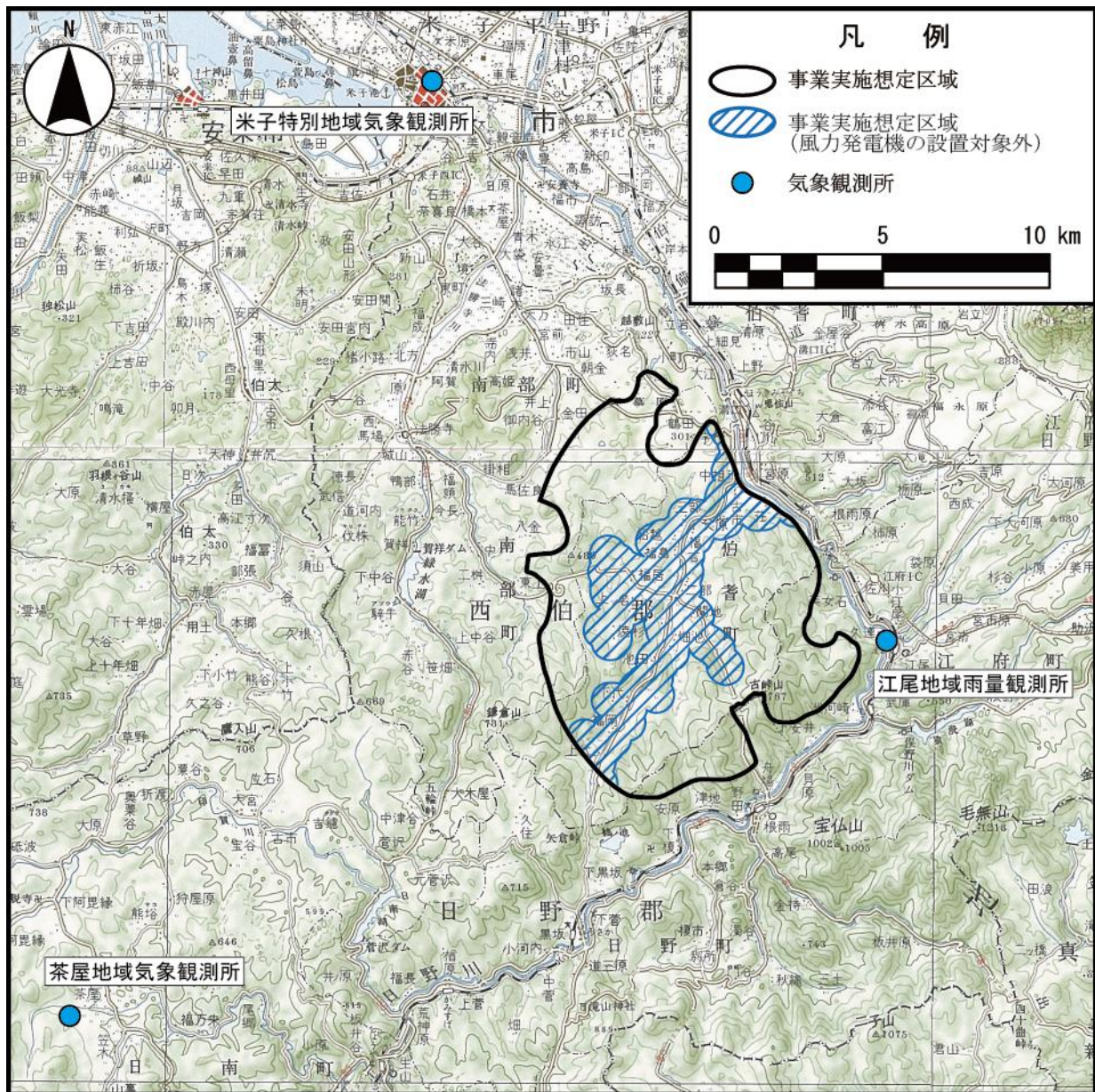
事業実施想定区域の近傍における気象観測所は第3.1-1表及び第3.1-1図のとおりである。

第3.1-1表 事業実施想定区域及びその周囲における気象観測所

観測所名	所在地	緯度経度	海面上の 高さ	風向・風速 計の高さ	観測種目				
					気温	風	降水量	日照	積雪
米子 特別地域気象 観測所	米子市博労町	緯度 35° 26.0' 経度 133° 20.3'	7m	18.1m	○	○	○	○	○
茶屋 地域気象観測所	日野郡日南町茶 屋大ジャフ田	緯度 35° 11.2' 経度 133° 13.8'	490m	10.0m	○	○	○	○	—
江尾 地域雨量観測所	日野郡江府町小 江尾	緯度 35° 17.3' 経度 133° 29.0'	155m	—	—	—	○	—	—

注：「○」は観測が行われていること、「—」は観測が行われていないことを示す。

「地域気象観測所一覧（平成29年7月11日現在）」（気象庁、平成29年）
「鳥取県内の気象観測所」（鳥取地方気象台HP、閲覧：平成29年7月）より作成



〔「鳥取県内の気象観測所」(鳥取地方気象台 HP、閲覧：平成 29 年 7 月) より作成〕

第 3.1-1 図 気象観測所位置

米子特別地域気象観測所における平年値及び平成 28 年の気象概況は第 3.1-2 表、平成 28 年の風向頻度及び風向別平均風速は第 3.1-3 表、風配図は第 3.1-2 図のとおりである。平成 28 年の年平均気温は 16.1℃、年間降水量は 1,843.0mm、年平均風速は 2.7m/s、日照時間は 1,732.8 時間である。また、平成 28 年の風向出現頻度は、春季、夏季及び秋季では南南東及び北北東～北東が高く、冬季は南南東が高い。年間の頻度は南南東が最も高く 16.0%、次いで北東の 11.2%である。

第 3.1-2 表(1) 米子特別地域気象観測所の気象概況（平年値）

要素名	年	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月
平均気温 (℃)	15.0	4.4	4.8	7.7	13.0	17.7	21.5	25.6	26.9	22.6	17.0	11.8	7.1
日最高気温の平均 (℃)	19.4	8.0	8.7	12.2	18.1	22.6	25.6	29.7	31.3	26.7	21.7	16.4	11.2
日最低気温の平均 (℃)	11.0	1.1	1.1	3.2	7.8	12.9	17.8	22.4	23.3	18.9	12.5	7.5	3.4
平均風速 (m/s)	2.8	3.0	2.9	3.0	2.9	2.8	2.6	2.6	2.7	2.6	2.6	2.6	2.9
最多風向	南南東	南南東	南南東	南南東	南南東	南南東	北東	南南東	南南東	北東	南南東	南南東	南南東
日照時間 (時間)	1,732.3	74.2	84.9	134.8	180.6	206.2	164.4	171.9	208.9	146.5	159.7	114.5	89.2
降水量 (mm)	1,772.0	145.3	126.3	130.0	104.9	122.9	181.2	240.1	125.2	209.2	129.8	128.6	128.5
降雪の深さ (cm)	合計	133	55	44	11	0	---	---	---	---	---	0	24
	日合計の最大	21	15	12	6	0	---	---	---	---	---	0	11
最深積雪 (cm)	25	18	16	6	0	---	---	---	---	---	---	---	10

注：1. 「---」は該当現象、または該当現象による量等がないことを示す。

2. 平年値は 1981～2010 年の 30 年間の観測値をもとに算出した。ただし、最多風向については 1990～2010 年の 21 年間の観測値をもとに算出した。

〔「気象統計情報 平年値」（気象庁 HP、閲覧：平成 29 年 7 月）より作成〕

第 3.1-2 表(2) 米子特別地域気象観測所の気象概況（平成 28 年）

月	降水量(mm)				気温(℃)						風向・風速(m/s)				日照 時間 (時間)	雪(cm)		
	合計	日 最大	最大		平均			最高	最低	平均 風速	最大風速		最大瞬間風速			降雪 の 合計	日降 雪の 最大	最深 積雪
			1 時間	10 分間	日 平均	日 最高	日 最低				風速	風向	風速	風向				
1	195.0	36.5	7.0	2.5	4.6	8.1	1.7	16.3	-5.8	2.6	13.8	西	23.3	西	58.6	28	14	18
2	148.5	33.5	5.5	2.0	5.6	10.4	1.5	19.0	-2.1	2.9	11.2	西	21.2	西	105.8	20	6	7
3	58.0	18.5	3.5	1.5	9.2	14.3	4.4	23.4	-0.6	2.7	10.0	西北西	14.8	西	157.5	2	2	5
4	126.0	36.5	9.5	2.0	14.6	19.8	9.6	26.8	2.1	2.8	11.8	南	21.3	南南西	175.3	--	--	--
5	75.0	24.0	6.0	2.5	19.1	24.4	13.8	32.0	8.2	2.9	15.0	南南東	25.8	南南西	223.3	--	--	--
6	212.0	44.5	23.5	11.0	22.7	27.2	19.0	31.2	10.4	2.6	9.5	西	19.4	南	156.1	--	--	--
7	73.0	35.0	20.0	5.5	26.9	31.3	23.5	36.3	20.1	2.5	8.8	西北西	14.6	南西	189.1	--	--	--
8	153.5	47.5	24.0	8.0	27.1	32.2	23.0	37.1	19.0	2.7	8.4	南	15.3	南	270.9	--	--	--
9	347.5	91.5	24.0	10.0	23.4	26.8	20.5	33.7	15.1	2.4	10.9	北北東	21.0	北東	93.0	--	--	--
10	108.0	30.0	16.5	4.5	18.6	22.7	14.6	31.4	7.5	2.7	13.3	南西	24.0	南南西	109.9	--	--	--
11	135.0	29.0	11.0	3.5	12.2	16.6	8.4	22.5	3.3	2.4	8.0	北北東	14.8	北北東	100.6	--	--	--
12	211.5	55.5	10.5	2.5	8.7	12.8	4.9	21.6	1.0	2.6	10.1	南	17.5	南	92.7	--	--	--
年間	1,843.0	91.5	24.0	11.0	16.1	20.6	12.1	37.1	-5.8	2.7	15.0	南南東	25.8	南南西	1,732.8	50	14	18

注：「--」は該当現象、または該当現象による量等がないことを示す。

〔「気象統計情報」（気象庁 HP、閲覧：平成 29 年 7 月）より作成〕

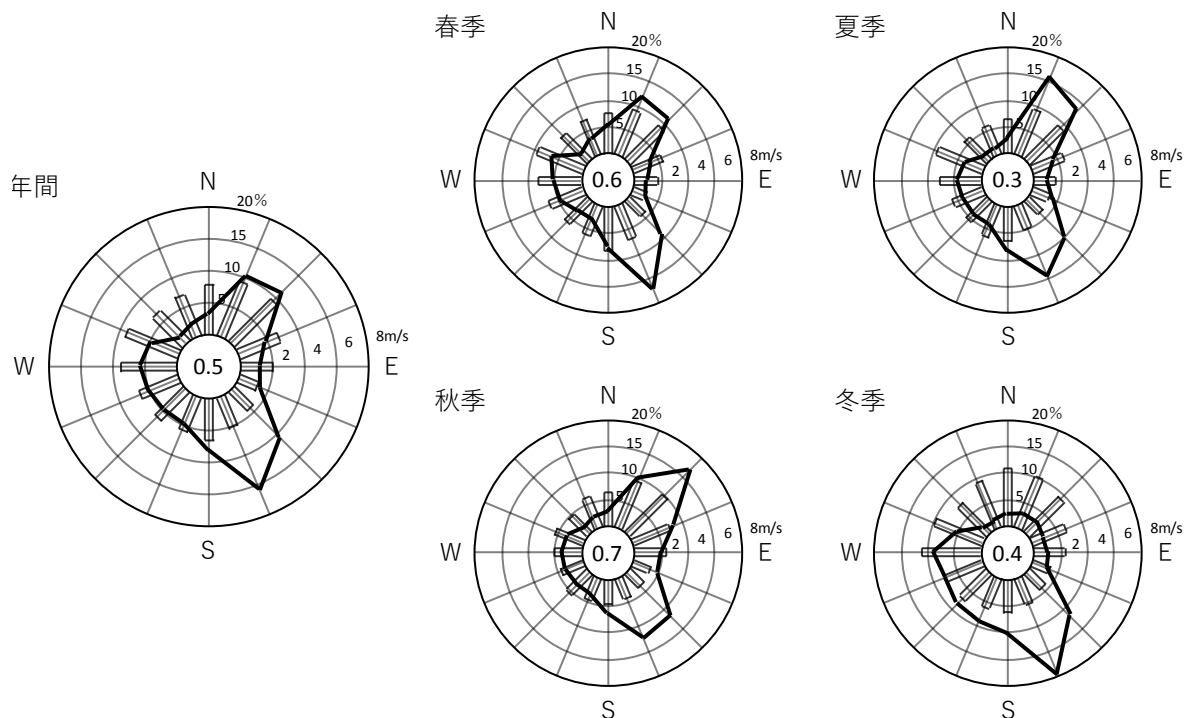
第 3.1-3 表 米子特別地域気象観測所の風向頻度及び風向別平均風速（平成 28 年）

季節 風向	春季（3～5 月）		夏季（6～8 月）		秋季（9～11 月）		冬季（1,2,12 月）		年間	
	風向頻度 （ % ）	平均風速 （ m/s ）	風向頻度 （ % ）	平均風速 （ m/s ）	風向頻度 （ % ）	平均風速 （ m/s ）	風向頻度 （ % ）	平均風速 （ m/s ）	風向頻度 （ % ）	平均風速 （ m/s ）
北	5.3	3.1	2.8	2.6	2.5	2.6	2.2	4.4	3.2	3.1
北北東	12.1	3.6	16.0	3.7	10.0	3.8	2.9	4.1	10.3	3.7
北東	11.4	3.6	13.7	3.6	16.8	4.0	3.0	3.7	11.2	3.7
東北東	3.7	2.4	4.5	2.5	8.2	3.0	2.4	2.7	4.7	2.7
東	2.4	1.7	2.6	1.6	5.0	2.4	2.7	2.3	3.2	2.0
東南東	2.9	1.0	4.4	1.3	5.1	1.3	3.0	1.4	3.9	1.3
南東	9.3	1.6	10.3	1.4	11.7	1.5	11.8	1.7	10.8	1.6
南南東	17.1	2.7	14.6	1.9	12.5	1.7	19.8	2.1	16.0	2.1
南	7.7	3.3	8.3	2.6	6.6	1.9	10.1	2.5	8.2	2.6
南南西	3.0	2.4	3.9	2.5	3.5	1.8	8.9	2.4	4.8	2.3
南西	3.1	2.4	4.0	2.2	3.4	2.2	8.4	2.8	4.7	2.5
西南西	4.8	2.7	4.0	2.4	3.6	1.8	7.5	3.0	5.0	2.6
西	5.3	3.2	4.4	3.1	3.6	2.1	8.8	4.4	5.5	3.5
西北西	6.4	3.7	3.6	3.7	3.2	2.3	5.1	3.9	4.6	3.5
北西	1.7	2.8	1.2	2.4	1.3	1.9	1.6	3.1	1.4	2.6
北北西	3.2	2.9	1.3	2.3	2.0	2.4	1.4	3.7	2.0	2.8
静穏	0.6	0.1	0.3	0.2	0.7	0.2	0.4	0.2	0.5	0.2
合計・平均	100.0	2.9	100.0	2.6	100.0	2.5	100.0	2.7	100.0	2.7

注：1. 静穏は 0.2m/s 以下である。

2. 風向頻度は四捨五入を行っているため、個々の項目の合計と総数は一致しない場合がある。

〔「気象統計情報」（気象庁 HP、閲覧：平成 29 年 5 月）より作成〕



注：1. 風配図の実線は風向出現頻度(%)、棒線は平均風速(m/s)を示す。

2. 風配図の円内の数字は、静穏率（風速 0.2m/s 以下、%）を示す。

〔「気象統計情報」（気象庁 HP、閲覧：平成 29 年 7 月）より作成〕

第 3.1-2 図 米子特別地域気象観測所の風配図（平成 28 年）

茶屋地域気象観測所における平年値及び平成 28 年の気象概況は第 3.1-4 表、平成 28 年の風向頻度及び風向別平均風速は第 3.1-5 表、風配図は第 3.1-3 図のとおりである。平成 28 年の年平均気温は 12.1℃、年間降水量は 2,008.5mm、年平均風速は 1.4m/s（参考値）、日照時間は 1,409.8 時間である。また、平成 28 年の風向出現頻度は、静穏を除くと年間及び季節別ともに北が最も高く、年間の頻度は 14.0%である。

第 3.1-4 表(1) 茶屋地域気象観測所の気象概況（平年値）

要素名	年	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10月	11月	12月
平均気温（℃）	10.9	-0.3	-0.1	3.4	9.5	14.6	18.6	22.5	23.1	18.7	12.4	7.0	2.2
日最高気温の平均（℃）	16.3	3.7	4.5	9.0	16.2	20.9	24.1	27.3	28.4	24.0	18.6	12.9	7.0
日最低気温の平均（℃）	5.8	-4.6	-5.0	-2.1	2.7	8.3	13.6	18.4	18.7	14.2	6.8	1.6	-2.3
平均風速（m/s）	1.4	1.2	1.3	1.5	1.8	1.7	1.4	1.4	1.4	1.2	1.1	1.2	1.1
最多風向	北	北北西	北北西	北北西	北	北	北	南南西	北	北	北	北	北北西
日照時間（時間）	1,473.8	68.2	82.4	120.2	160.2	171.4	137.8	135.6	158.4	115.1	135.2	104.3	81.8
降水量（mm）	1,886.3	135.0	126.3	143.0	118.8	137.9	205.8	259.9	153.0	220.3	134.6	121.3	133.3

注：平年値は 1981～2010 年の 30 年間の観測値をもとに算出した。ただし、日照時間については 1985～2010 年の 26 年間の値をもとに算出した。

〔「気象統計情報 平年値」（気象庁 HP、閲覧：平成 29 年 7 月）より作成〕

第 3.1-4 表(2) 茶屋地域気象観測所の気象概況（平成 28 年）

月	降水量(mm)				気温(℃)						風向・風速(m/s)					日照 時間 (時間)
	合計	日最大	最大		平均			最高	最低	平均 風速	最大風速		最大瞬間風速			
			1 時間	10 分間	日平均	日最高	日最低				風速	風向	風速	風向		
1	161.5	33.5	5.0	1.5	0.1	3.9	-3.5	14.0	-9.8	0.8]	5.8]	北	14.6]	北	49.7	
2	135.5	35.5	6.0	2.5	0.7	5.7	-4.8	14.0	-14	1.3	8.6	南南西	15.3	南西	98.1	
3	75.0	25.0	5.5	1.5	5.0	11.2	-0.7	19.4	-7.6	1.6)	7.0)	南南東	18.4)	南南東	143.3	
4	140.0	40.5	12.5	3.0	11.3	18.2	4.1	24.8	-2.9	1.9)	10.4)	南南東	20.6)	南南東	160.2	
5	111.5	36.0	9.5	4.0	16.1	22.9	9.2	28.5	2.2	1.7	10.0	南	22.3	南南東	192.4	
6	247.5	45.0	12.0	11.5	19.3	24.3	14.7	29.6	3.3	1.4	7.8	南南西	19.8	西南西	112.3	
7	162.5	46.5	24.5	13.5	23.4	28.4	19.6	31.7	15.8	1.4	7.7	南南西	14.9	南南西	129.1	
8	115.5	54.5	24.0	6.5	23.1	29.2	18.2	33.2	13.2	1.2	6.8	南南西	13.2	南西	198.9	
9	399.5	90.5	30.0	9.0	20.2	24.4	17.1	30.4	12.4	1.2	7.7	北	15.2	北北東	69.1	
10	109.5	27.5	11.5	4.5	14.7	19.9	10.3	28.8	2.6	1.3	9.9	南西	21.9	西南西	85.0	
11	113.0	17.5	4.5	1.5	8.0	13.1	3.4	18.4	-2.9	1.2	7.5	北	13.3	北	96.2	
12	237.5	54.5	14.0	5.5	3.8	8.8	-0.7	16.3	-6.5	1.3]	9.9]	南南西	18.5]	南南西	75.5	
年	2,008.5	90.5	30.0	13.5	12.1	17.5	7.2	33.2	-14	1.4]	10.4]	南南東	22.3]	南南東	1,409.8	

注：1. 「」は統計を行う対象資料が許容範囲で欠けているが、上位の統計を用いる際は一部の例外を除いて正常値（資料が欠けていない）と同等に扱うもの（準正常値）を示す。必要な資料数は、要素または現象、統計方法により若干異なるが、全体数の 80%を基準とする。

2. 「」は統計を行う対象資料が許容範囲を超えて欠けているもの（資料不足値）を示す。値そのものを信用することはできず、通常は上位の統計に用いないが、極値、合計、度数等の統計ではその値以上（以下）であることが確実である、といった性質を利用して統計に利用出来る場合がある。

〔「気象統計情報」（気象庁 HP、閲覧：平成 29 年 7 月）より作成〕

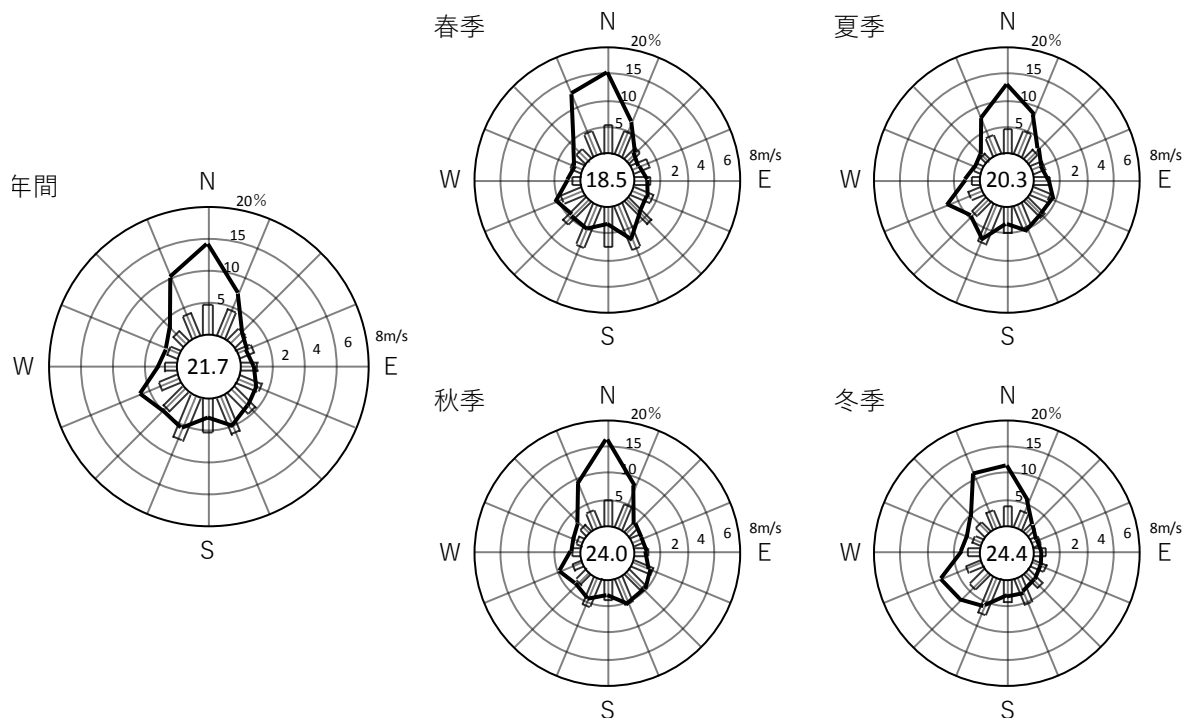
第 3.1-5 表 茶屋地域気象観測所の風向頻度及び風向別平均風速（平成 28 年）

季節 風向	春季（3～5 月）		夏季（6～8 月）		秋季（9～11 月）		冬季（1,2,12 月）		年間	
	風向頻度 （ % ）	平均風速 （ m/s ）	風向頻度 （ % ）	平均風速 （ m/s ）	風向頻度 （ % ）	平均風速 （ m/s ）	風向頻度 （ % ）	平均風速 （ m/s ）	風向頻度 （ % ）	平均風速 （ m/s ）
北	15.0	2.2	13.0	1.9	16.2	2.0	11.4	1.5	14.0	1.9
北北東	6.7	1.9	8.4	1.8	8.5	1.9	5.5	1.3	7.3	1.8
北東	2.3	1.2	3.5	1.0	2.4	1.0	2.1	0.7	2.6	1.0
東北東	1.6	1.3	2.0	1.0	1.9	0.8	1.1	0.6	1.7	1.0
東	2.6	1.2	2.9	1.2	2.4	1.0	1.5	0.9	2.4	1.1
東南東	3.3	1.6	4.5	1.4	3.7	1.6	1.9	1.1	3.4	1.5
南東	3.9	2.5	4.3	1.7	5.0	1.7	2.5	1.5	4.0	1.9
南南東	7.2	3.5	5.3	1.8	5.5	2.1	3.2	2.1	5.3	2.5
南	3.3	3.0	3.2	2.0	3.0	1.5	3.2	1.7	3.2	2.1
南南西	4.9	3.3	7.1	3.1	4.4	2.3	5.9	3.0	5.6	2.9
南西	4.5	2.5	4.6	1.5	3.3	1.1	7.4	1.6	4.9	1.7
西南西	5.6	1.7	7.2	1.0	4.5	0.8	8.3	1.2	6.4	1.2
西	2.5	0.7	2.8	0.6	1.7	0.6	3.4	0.9	2.6	0.7
西北西	1.6	0.9	1.4	0.6	1.8	0.5	2.8	0.7	1.9	0.7
北西	3.8	1.0	1.9	0.7	2.7	0.7	4.3	1.0	3.2	0.9
北北西	12.4	1.8	7.6	1.5	8.9	1.3	11.1	1.4	10.0	1.5
静穏	18.5	0.1	20.3	0.1	24.0	0.1	24.4	0.1	21.7	0.1
合計・平均	100.0	1.7	100.0	1.3	100.0	1.2	100.0	1.1	100.0	1.3

注：1. 静穏は 0.2m/s 以下である。

2. 風向頻度は四捨五入を行っているため、個々の項目の合計と総数は一致しない場合がある。

〔「気象統計情報」（気象庁 HP、閲覧：平成 29 年 5 月）より作成〕



注：1. 風配図の実線は風向出現頻度(%)、棒線は平均風速(m/s)を示す。

2. 風配図の円内の数字は、静穏率（風速 0.2m/s 以下、%）を示す。

〔「気象統計情報」（気象庁 HP、閲覧：平成 29 年 7 月）より作成〕

第 3.1-3 図 茶屋地域気象観測所の風配図（平成 28 年）

江尾地域雨量観測所における雨量の平年値及び平成 28 年の値は第 3.1-6 表のとおりであり、年間降水量は平年値が 1,652.4mm、平成 28 年の値が 1,579.0mm である。

第 3.1-6 表 江尾地域雨量観測所における降水量

(単位：mm)

月	平成 28 年				平年値
	合計	日最大	最大		
			1 時間	10 分間	
1	117.0)	33.5)	5.5)	1.5)	108.6
2	126.0	36.0	12.0	6.0	107.8
3	61.0	24.5	5.0	1.5	121.3
4	98.5	32.0	8.5	2.0	94.0
5	96.0	36.5	13.5	5.0	125.7
6	213.0	39.0	19.5	8.0	168.8
7	115.0	28.0	11.5	9.5	242.1
8	84.0	47.0	24.0	11.0	132.1
9	291.0	63.0	24.5	6.5	199.5
10	104.5	29.5	19.0	5.5	117.5
11	73.5	17.5	4.0	2.0	106.3
12	199.5	47.0	13.0	3.5	113.2
年	1,579.0	63.0	24.5	11.0	1,652.4

- 注：1. 「) 」は統計を行う対象資料が許容範囲で欠けているが、上位の統計を用いる際は一部の例外を除いて正常値（資料が欠けていない）と同等に扱うもの（準正常値）を示す。必要な資料数は、要素または現象、統計方法により若干異なるが、全体数の 80% を基準とする。
2. 平年値は 1982～2010 年の 29 年間の観測値をもとに算出した。

2. 大気質の状況

鳥取県における大気質の状況として、平成 27 年度は一般環境大気測定局（以下「一般局」という。）4 局及び自動車排出ガス測定局（以下「自排局」という。）2 局の計 6 局で大気汚染防止法に基づく常時監視測定を実施している。

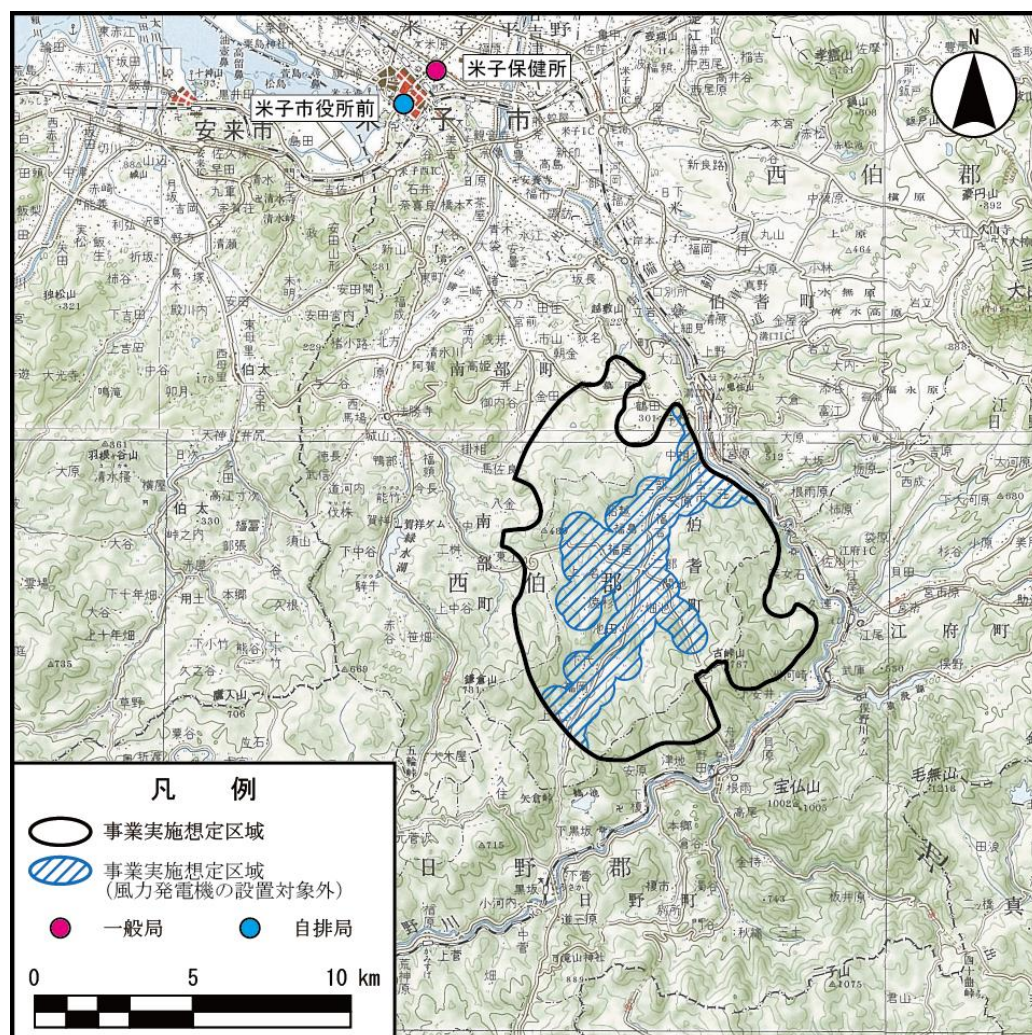
事業実施想定区域の近傍では、米子市に一般局が 1 局、自排局が 1 局設置されており、各測定局の概要及び測定項目は第 3.1-7 表、位置は第 3.1-4 図のとおりである。

第 3.1-7 表 測定局の概要及び測定項目（平成 27 年度）

区分	測定局	住 所	測定項目					
			二酸化 いおう (SO ₂)	一酸化 炭素 (CO)	浮遊粒子 状物質 (SPM)	窒素酸化 物 (NO ₂)	光化学オキ シダント (Ox)	微小粒子 状物質 (PM _{2.5})
一般局	米子保健所	米子市東福原 1-1-45	○	—	○	○	○	○
自排局	米子市役所前	米子市加茂町 1-1	—	○	○	○	—	—

注：「○」は測定が行われていること、「—」は行われていないことを示す。

〔「平成 27 年度大気汚染調査結果報告書」（鳥取県、平成 28 年）より作成〕



〔「平成 27 年度大気汚染調査結果報告書」（鳥取県、平成 28 年）より作成〕

第 3.1-4 図 大気測定局の位置

(1) 二酸化いおう

平成 27 年度の米子保健所における二酸化いおうの測定結果は第 3.1-8 表のとおりであり、環境基準を達成している。

また、過去 5 年間における年平均値の経年変化は、第 3.1-9 表及び第 3.1-5 図のとおりである。

※環境基準とその評価

環境基準：日平均値が 0.04ppm 以下であり、かつ、1 時間値が 0.1ppm 以下であること。

短期的評価：日平均値が 0.04ppm 以下であり、かつ、1 時間値が 0.1ppm 以下であること。

長期的評価：日平均値の年間 2% 除外値が 0.04ppm 以下であること。ただし、日平均値が 0.04ppm を超えた日が 2 日以上連続しないこと。

第 3.1-8 表 二酸化いおうの測定結果（平成 27 年度）

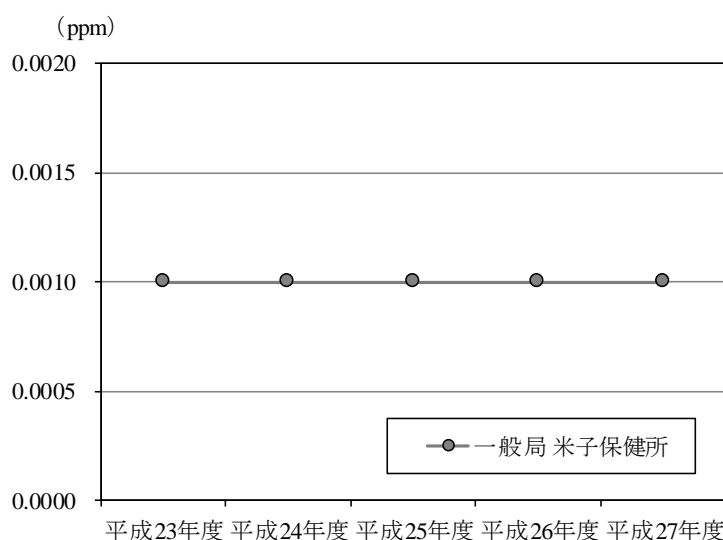
区分	市	測定局	有効測定日数	年平均値	1 時間値が 0.1ppm を超えた時間数とその割合		日平均値が 0.04ppm を超えた日数とその割合		1 時間値の最高値	日平均値の年間 2% 除外値	日平均値が 0.04ppm を超えた日が 2 日以上連続したことの有無	環境基準の長期的評価による日平均値が 0.04ppm を超えた日数
			日	ppm	時間	%	日	%	ppm	ppm	有×・無○	日
一般局	米子市	米子保健所	364	0.001	0	0	0	0	0.029	0.003	○	0

〔「平成 27 年度大気汚染調査結果報告書」（鳥取県、平成 28 年）より作成〕

第 3.1-9 表 二酸化いおうの年平均値の経年変化

区分	市	測定局	年平均値 (ppm)				
			平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
一般局	米子市	米子保健所	0.001	0.001	0.001	0.001	0.001

〔「平成 27 年度大気汚染調査結果報告書」（鳥取県、平成 28 年）より作成〕



〔「平成 27 年度大気汚染調査結果報告書」（鳥取県、平成 28 年）より作成〕

第 3.1-5 図 二酸化いおうの年平均値の経年変化

(2) 一酸化炭素

平成 27 年度の米子市役所前における一酸化炭素の測定結果は第 3.1-10 表のとおりであり、環境基準を達成している。

また、過去 5 年間にわたる年平均値の経年変化は、第 3.1-11 表及び第 3.1-8 図のとおりである。

※環境基準とその評価

環境基準：1 時間値の 1 日平均値が 10ppm 以下であり、かつ、1 時間値の 8 時間平均値が 20ppm 以下であること。

短期的評価：1 時間値の 1 日平均値が 10ppm 以下であり、かつ、1 時間値の 8 時間平均値が 20ppm 以下であること。

長期的評価：年間にわたる 1 時間値の 1 日平均値のうち、高い方から 2% の範囲にあるものを除外した値が 0.10ppm 以下であること。ただし、1 日平均値が 10ppm を超える日が 2 日以上連続しないこと。

第 3.1-10 表 一酸化炭素の測定結果（平成 27 年度）

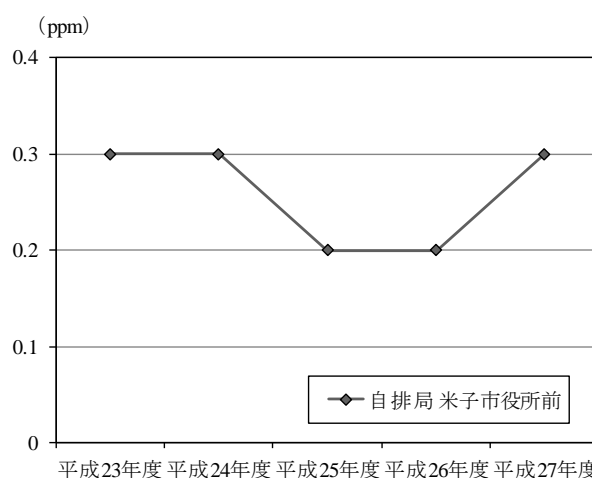
区分	市	測定局	有効測定日数	年平均値	8 時間値が 20ppm を超えた回数とその割合		日平均値が 10ppm を超えた日数とその割合		1 時間値の最高値	日平均値の年間 2% 除外値	日平均値が 10ppm を超えた日が 2 日以上連続したことの有無	環境基準の長期的評価による日平均値が 10ppm を超えた日数
			日	ppm	回	%	日	%	ppm	ppm	有×・無○	日
自排局	米子市	米子市役所前	363	0.3	0	0	0	0	4.1	0.5	○	0

〔「平成 27 年度大気汚染調査結果報告書」（鳥取県、平成 28 年）より作成〕

第 3.1-11 表 一酸化炭素の年平均値の経年変化

区分	市	測定局	年平均値（ppm）				
			平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
自排局	米子市	米子市役所前	0.3	0.3	0.2	0.2	0.3

〔「平成 27 年度大気汚染調査結果報告書」（鳥取県、平成 28 年）より作成〕



〔「平成 27 年度大気汚染調査結果報告書」（鳥取県、平成 28 年）より作成〕

第 3.1-6 図 一酸化炭素の年平均値の経年変化

(3) 浮遊粒子状物質

平成 27 年度の各測定局における浮遊粒子状物質の測定結果は第 3.1-12 表のとおりであり、いずれの測定局も環境基準を達成している。

また、過去 5 年間ににおける年平均値の経年変化は、第 3.1-13 表及び第 3.1-7 図のとおりである。

※環境基準とその評価

環境基準：日平均値が $0.10\text{mg}/\text{m}^3$ 以下であり、かつ、1 時間値が $0.20\text{mg}/\text{m}^3$ 以下であること。
 短期的評価：日平均値が $0.10\text{mg}/\text{m}^3$ 以下であり、かつ、1 時間値が $0.20\text{mg}/\text{m}^3$ 以下であること。
 長期的評価：日平均値の年間 2% 除外値が $0.10\text{mg}/\text{m}^3$ 以下であること、ただし、日平均値が $0.10\text{mg}/\text{m}^3$ を超えた日が 2 日以上連続しないこと。

第 3.1-12 表 浮遊粒子状物質の測定結果（平成 27 年度）

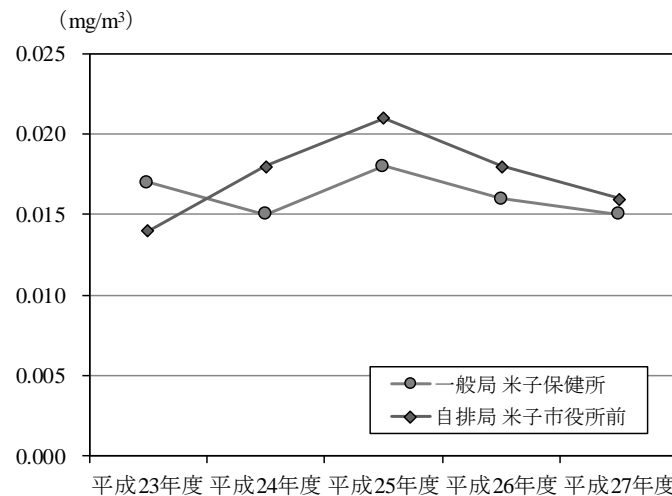
区分	市	測定局	有効測定日数	年平均値	1 時間値が $0.20\text{mg}/\text{m}^3$ を越えた時間数とその割合		日平均値が $0.1\text{mg}/\text{m}^3$ を超えた日数とその割合		1 時間値の最高値	日平均値の 2% 除外値	日平均値が $0.10\text{mg}/\text{m}^3$ を超えた日が 2 日以上連続したことの有無	環境基準の長期的評価による日平均値が $0.1\text{mg}/\text{m}^3$ を超えた日数
			日	mg/m^3	時間	%	日	%	mg/m^3	mg/m^3	有×・無○	日
一般局	米子市	米子保健所	364	0.015	0	0	0	0	0.107	0.04	○	0
自排局	米子市	米子市役所前	358	0.016	0	0	0	0	0.171	0.042	○	0

〔「平成 27 年度大気汚染調査結果報告書」（鳥取県、平成 28 年）より作成〕

第 3.1-13 表 浮遊粒子状物質の年平均値の経年変化

区分	市	測定局	年平均値 (mg/m^3)				
			平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
一般局	米子市	米子保健所	0.017	0.015	0.018	0.016	0.015
自排局	米子市	米子市役所前	0.014	0.018	0.021	0.018	0.016

〔「平成 27 年度大気汚染調査結果報告書」（鳥取県、平成 28 年）より作成〕



〔「平成 27 年度大気汚染調査結果報告書」（鳥取県、平成 28 年）より作成〕

第 3.1-7 図 浮遊粒子状物質の年平均値の経年変化

(4) 二酸化窒素

平成 27 年度の各測定局における二酸化窒素の測定結果は第 3.1-14 表のとおりであり、いずれの測定局も環境基準を達成している。

また、過去 5 年間に於ける年平均値の経年変化は、第 3.1-15 表及び第 3.1-8 図のとおりである。

※環境基準とその評価

環境基準：日平均値が 0.04ppm から 0.06ppm までのゾーン内またはそれ以下であること。

長期的評価：日平均値の年間 98% 値が 0.06ppm を超えないこと。

第 3.1-14 表 二酸化窒素の測定結果（平成 27 年度）

区分	市	測定局	有効測定日数	年平均値	1 時間値の最高値	1 時間値が 0.2ppm を超えた時間数とその割合		1 時間値が 0.1ppm 以上 0.2ppm 以下の時間数とその割合		日平均値が 0.06ppm を超えた日数とその割合		日平均値が 0.04ppm 以上 0.06ppm 以下の日数とその割合		日平均値の年間 98% 値
			日	ppm	ppm	時間	%	時間	%	日	%	日	%	ppm
一般局	米子市	米子保健所	364	0.006	0.035	0	0	0	0	0	0	0	0	0.013
自排局	米子市	米子市役所前	358	0.008	0.044	0	0	0	0	0	0	0	0	0.017

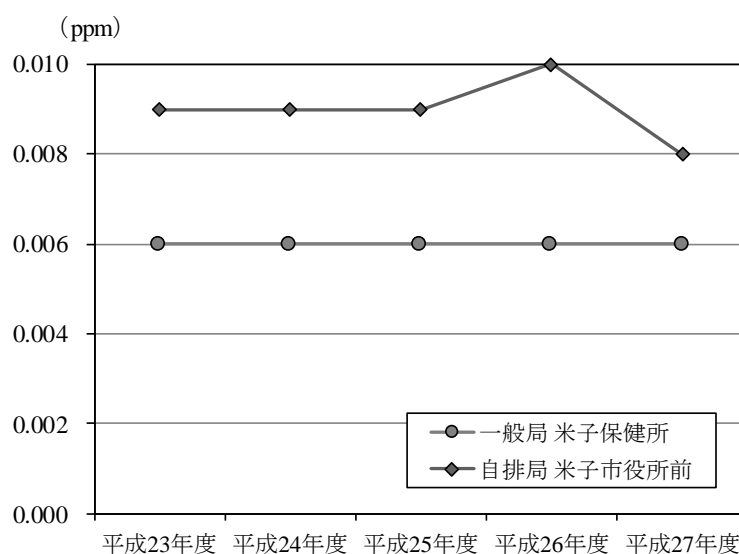
注：環境基準の長期的評価は、年間にわたる日平均値の測定値の低い方から 98% に相当するもので行う。

〔「平成 27 年度大気汚染調査結果報告書」（鳥取県、平成 28 年）より作成〕

第 3.1-15 表 二酸化窒素の年平均値の経年変化

区分	市	測定局	年平均値 (ppm)				
			平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
一般局	米子市	米子保健所	0.006	0.006	0.006	0.006	0.006
自排局	米子市	米子市役所前	0.009	0.009	0.009	0.01	0.008

〔「平成 27 年度大気汚染調査結果報告書」（鳥取県、平成 28 年）より作成〕



〔「平成 27 年度大気汚染調査結果報告書」（鳥取県、平成 28 年）より作成〕

第 3.1-8 図 二酸化窒素の年平均値の経年変化

(5) 光化学オキシダント

平成 27 年度の米子保健所における光化学オキシダントの測定結果は第 3.1-16 表のとおりであり、環境基準を達成していない。

また、過去 5 年間における昼間の 1 時間値の年平均値の経年変化は、第 3.1-17 表及び第 3.1-9 図のとおりである。

※環境基準とその評価

環境基準：1 時間値が 0.06ppm 以下であること。

環境基準の評価：昼間（5 時～20 時まで）の時間帯において、1 時間値が 0.06ppm 以下であること。

第 3.1-16 表 光化学オキシダントの測定結果（平成 27 年度）

区分	市	測定局	昼間 測定 日数	昼間の 1 時間値の 年平均値	昼間の 1 時間値 が 0.06ppm を超 えた日数と時間		昼間の 1 時間値 が 0.12ppm を超 えた日数と時間		昼間の 1 時間値 の最高値	昼間の日最 高 1 時間値 の年平均値
			日	ppm	日	時間	日	時間	ppm	ppm
一般局	米子市	米子保健所	362	0.036	59	408	0	0	0.110	0.047

注：1. 昼間とは、5 時から 20 時までの時間内をいう。

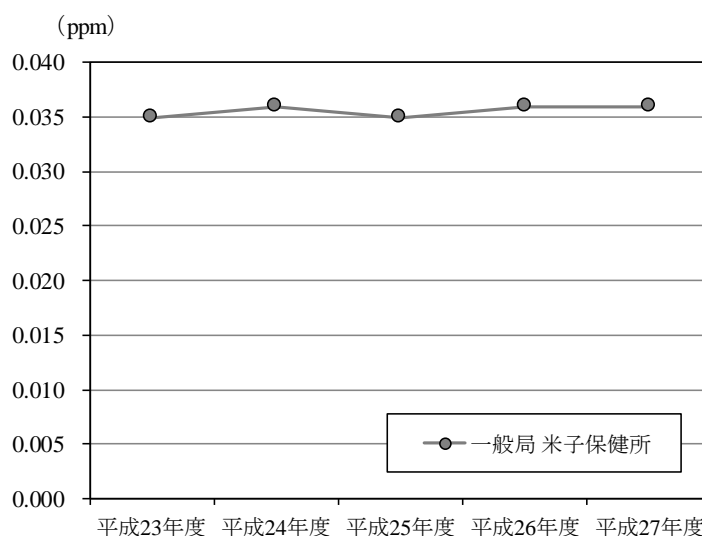
2. 大気汚染防止法第 23 条の「大気の汚染状況が著しくなり、人の健康又は生活環境に係る被害が生ずるおそれがある場合」として緊急時の措置を行う基準は、1 時間値が 0.12ppm 以上である大気の汚染の状態になった場合である。

〔「平成 27 年度大気汚染調査結果報告書」（鳥取県、平成 28 年）より作成〕

第 3.1-17 表 光化学オキシダントの昼間の 1 時間値の年平均値の経年変化

区分	市	測定局	昼間の 1 時間値の年平均値（ppm）				
			平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
一般局	米子市	米子保健所	0.035	0.036	0.035	0.036	0.036

〔「平成 27 年度大気汚染調査結果報告書」（鳥取県、平成 28 年）より作成〕



〔「平成 27 年度大気汚染調査結果報告書」（鳥取県、平成 28 年）より作成〕

第 3.1-9 図 光化学オキシダントの昼間の 1 時間値の年平均値の経年変化

(6) 微小粒子状物質

平成 27 年度の米子保健所における微小粒子状物質の測定結果は第 3.1-18 表のとおりで、環境基準を達成している。

また、過去 5 年間における年平均値の経年変化は、第 3.1-19 表及び第 3.1-10 図のとおりである。

※環境基準とその評価

環境基準：年平均値が $15\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下であり、かつ、日平均値が $35\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下であること。

長期基準：年平均値が $15\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下であること。

短期基準：日平均値のうち年間 98 パーセンタイル値が $35\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下であること。

第 3.1-18 表 微小粒子状物質の測定結果（平成 27 年度）

区分	市	測定局	有効測定日数	年平均値	日平均値の最高値	日平均値が $35\mu\text{g}/\text{m}^3$ を超えた日数とその割合		一時間地の最高値	日平均値の 98% パーセンタイル値	98% 値評価による日平均値が $35.0\mu\text{g}/\text{m}^3$ を超えた日数
			日	$\mu\text{g}/\text{m}^3$	$\mu\text{g}/\text{m}^3$	日	%	$\mu\text{g}/\text{m}^3$	$\mu\text{g}/\text{m}^3$	日
一般局	米子市	米子保健所	364	11.4	41.4	2	0.5	58	29.2	0

注：環境基準の評価は、測定値の 1 年平均値を長期基準（1 年平均値）と、1 日平均値の年間 98 パーセンタイル値を短期基準（1 日平均値）と比較し、両方を満足した場合に「達成」と評価する。

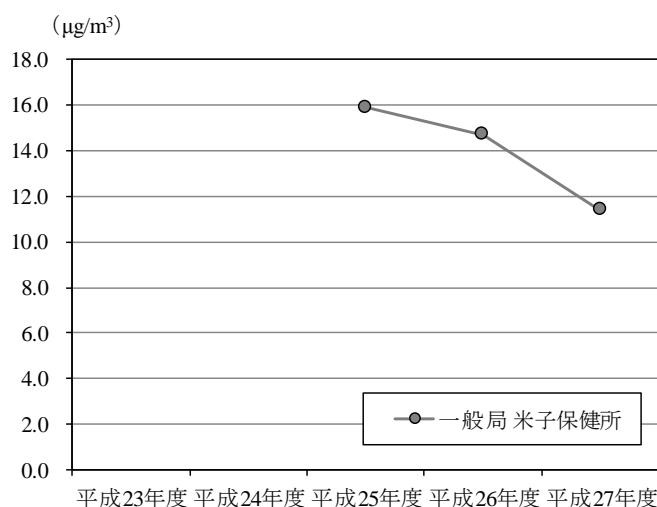
〔「平成 27 年度大気汚染調査結果報告書」（鳥取県、平成 28 年）より作成〕

第 3.1-19 表 微小粒子状物質の年平均値の経年変化

区分	市	測定局	年平均値（ $\mu\text{g}/\text{m}^3$ ）				
			平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
一般局	米子市	米子保健所	—	—	15.9	14.7	11.4

注：「—」は測定が行われていないことを示す。

〔「平成 27 年度大気汚染調査結果報告書」（鳥取県、平成 28 年）より作成〕



注：測定は平成 25 年から開始されている。

〔「平成 27 年度大気汚染調査結果報告書」（鳥取県、平成 28 年）より作成〕

第 3.1-10 図 微小粒子状物質の年平均値の経年変化

(7) 大気汚染に係る苦情の発生状況

大気汚染に係る公害苦情の受理件数は、鳥取県へのヒアリング（平成 29 年 7 月）によると、平成 28 年度は伯耆町、江府町、日野町及び南部町ともに 0 件である。

3. 騒音の状況

(1) 環境騒音の状況

事業実施想定区域及びその周囲における一般環境騒音の状況について、鳥取県が公表する測定結果はない。

(2) 自動車騒音の状況

鳥取県では騒音規制法第 18 条に基づき自動車騒音の常時監視が行われおり、平成 27 年度は区間延長 1,034.6km、区間数 212 区間（平成 21～26 年度評価分を含む。）で評価を実施している。事業実施想定区域及びその周囲における自動車騒音常時監視の面的評価結果は第 3.1-20 表、評価区間は第 3.1-11 図のとおりである。一般国道 181 号で 1 戸が昼間・夜間ともに環境基準値を超過しているほかは、すべて昼間・夜間とも基準値以下となっている。

(3) 騒音に係る苦情の発生状況

騒音に係る公害苦情受理件数は、鳥取県へのヒアリング（平成 29 年 7 月）によると、平成 28 年度は伯耆町、江府町、日野町及び南部町ともに 0 件である。

4. 振動の状況

(1) 環境振動の状況

事業実施想定区域及びその周囲における環境振動の状況について、鳥取県において公表された測定結果はない。

(2) 道路交通振動の状況

事業実施想定区域及びその周囲における道路交通振動の状況について、鳥取県において公表された測定結果はない。

(3) 振動に係る苦情の発生状況

振動に係る公害苦情受理件数は、鳥取県へのヒアリング（平成 29 年 7 月）によると、平成 28 年度は伯耆町、江府町、日野町及び南部町ともに 0 件である。

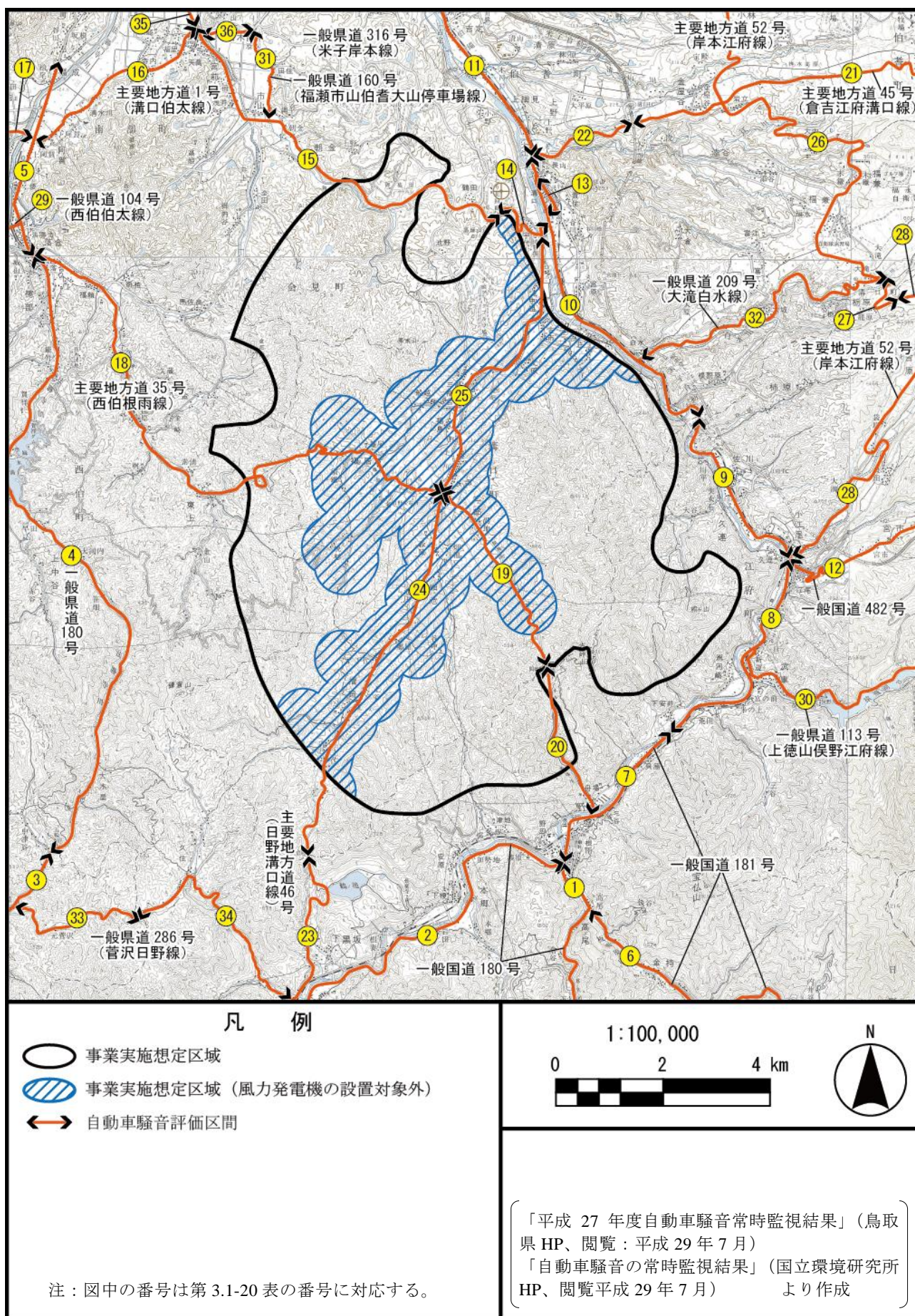
第 3.1-20 表 自動車騒音常時監視の面的評価結果（平成 27 年度）

番号	路線名	車線数	評価区間の 始点の住所	評価区間の 終点の住所	評価区間の 延長 (km)	評価対象住居 等戸数 (戸)	評価結果			
							昼間・夜間とも基準値以下 (戸)	昼間のみ基準値以下 (戸)	夜間のみ基準値以下 (戸)	昼間・夜間とも基準値超過 (戸)
1	一般国道 180 号	2	日野町門谷	日野町根雨	10.7	56	56	0	0	0
2		2	日野町高尾	日野町上菅	15.0	103	103	0	0	0
3		2	日南町菅沢	日南町菅沢	5.7	24	24	0	0	0
4		2	南部町大木屋	南部町落合	13.0	87	87	0	0	0
5		2	南部町落合	南部町福成	4.0	143	143	0	0	0
6	一般国道 181 号	2	日野町板井原	日野町高尾	10.3	55	55	0	0	0
7		2	日野町高尾	日野町貝原	3.3	108	108	0	0	0
8		2	江府町武庫	江府町江尾	4.7	137	137	0	0	0
9		2	江府町江尾	江府町柿原	3.8	79	78	0	0	1
10		2	伯耆町根雨原	伯耆町溝口	6.2	77	77	0	0	0
11		2	伯耆町溝口	伯耆町大殿	4.9	232	232	0	0	0
12	一般国道 482 号	2	江府町宮市	江府町江尾	4.7	206	206	0	0	0
13	溝口伯太線	2	伯耆町溝口	伯耆町溝口	1.0	165	165	0	0	0
14		2	伯耆町宇代	伯耆町宇代	1.5	13	13	0	0	0
15		2	南部町池野	南部町天萬	7.6	159	159	0	0	0
16		2	南部町天萬	南部町阿賀	3.9	201	201	0	0	0
17		2	南部町阿賀	南部町猪小路	3.2	10	10	0	0	0
18	西伯根雨線	2	南部町落合	南部町東上	8.5	188	188	0	0	0
19		2	伯耆町福居	伯耆町二部	7.7	104	104	0	0	0
20		2	日野町舟場	日野町根雨	3.1	37	37	0	0	0
21	倉吉江府溝口線	2	伯耆町大内	伯耆町金屋谷	5.6	77	77	0	0	0
22		2	伯耆町金屋谷	伯耆町溝口	2.4	6	6	0	0	0
23	日野溝口線	2	伯耆町福岡	伯耆町畑池	8.1	58	58	0	0	0
24		2	日野町黒坂	日野町下黒坂	2.9	2	2	0	0	0
25		2	伯耆町畑池	伯耆町溝口	6.3	171	171	0	0	0
26	岸本江府線	2	伯耆町小林	伯耆町大瀧	10.3	155	155	0	0	0
27		2	伯耆町大瀧	伯耆町栃原	1.2	9	9	0	0	0
28		2	江府町吉原	江府町小江尾	7.8	180	180	0	0	0
29	西伯伯太線	2	南部町法勝寺	南部町伐株	4.7	83	83	0	0	0
30	上徳山俣野江府線	2	江府町俣野	江府町武庫	8.3	272	272	0	0	0
31	福頼市山伯耆大山停車場線	2	南部町市山	南部町諸木	2.2	41	41	0	0	0
32	大滝白水線	2	伯耆町大瀧	伯耆町白水	6.0	75	75	0	0	0
33	菅沢日野線	2	日南町菅沢	日南町菅沢	3.0	4	4	0	0	0
34		2	日野町久住	日野町下菅	5.9	25	25	0	0	0
35	米子岸本線	2	南部町天満	南部町天萬	1.0	6	6	0	0	0
36		2	南部町天萬	南部町諸木	0.9	47	47	0	0	0

注：1. 番号は第 3.1-11 図中の番号に対応する。

2. 評価は過年度データ（平成 21～26 年度分）を含めて行われている。

〔「平成 27 年度自動車騒音常時監視結果」（鳥取県 HP、閲覧：平成 29 年 7 月）より作成〕



第 3.1-11 図 自動車騒音常時監視の評価区間

3. 1. 2 水環境の状況

1. 水象の状況

(1) 河川

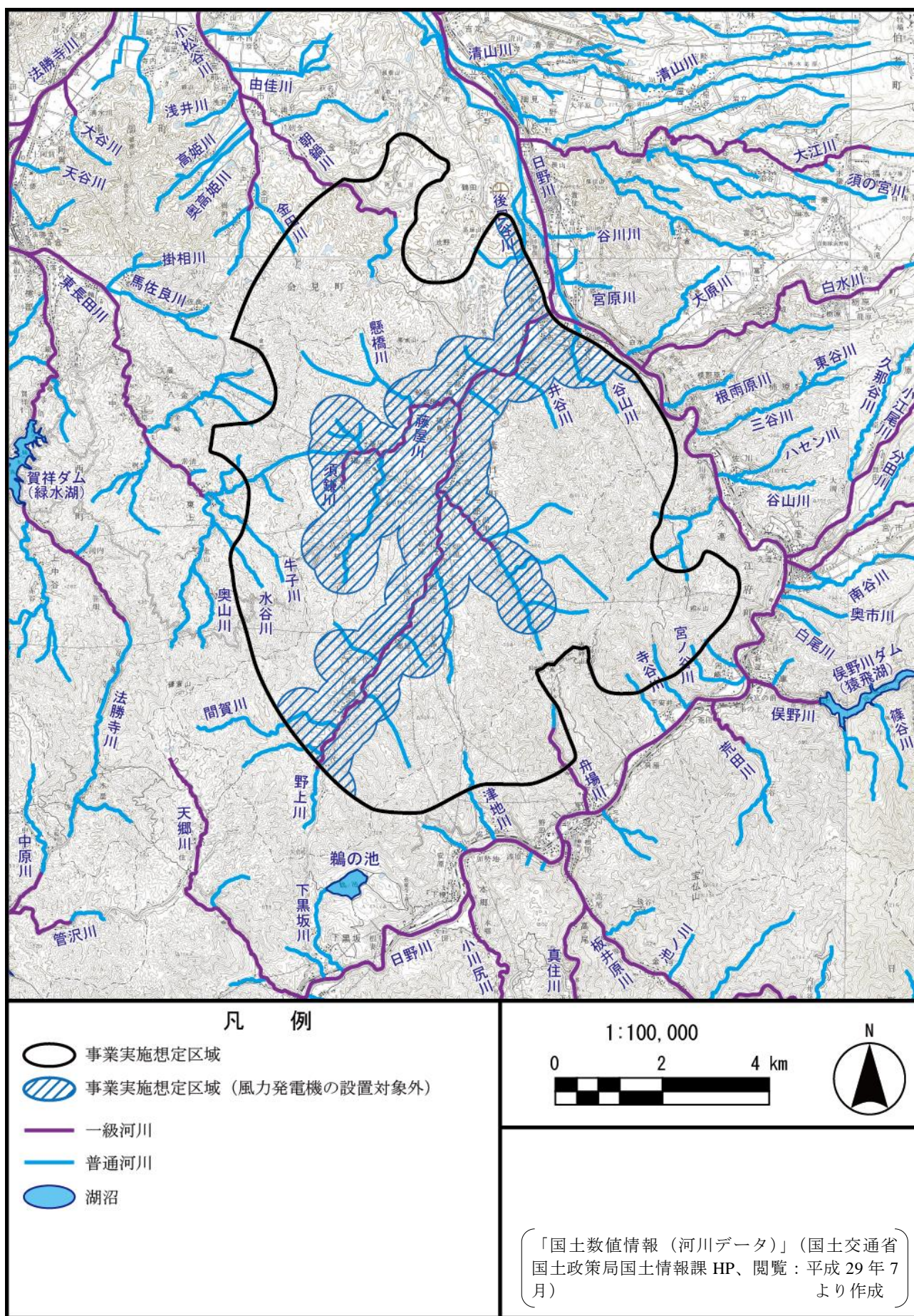
事業実施想定区域及びその周囲の主要な河川の状況は第 3.1-12 図のとおりである。事業実施想定区域及びその周囲は一級河川である日野川の流域であり、事業実施想定区域には日野川の支川である野上川や藤屋川等が流れている。

(2) 湖沼

事業実施想定区域及びその周囲における主な湖沼の状況は第 3.1-12 図のとおりであり、賀祥ダム（緑水湖）、俣野川ダム（猿飛湖）及び鶴の池がある。

(3) 海域

事業実施想定区域及びその周囲に海域は存在しない。



第 3.1-12 図 主要な河川及び湖沼の状況

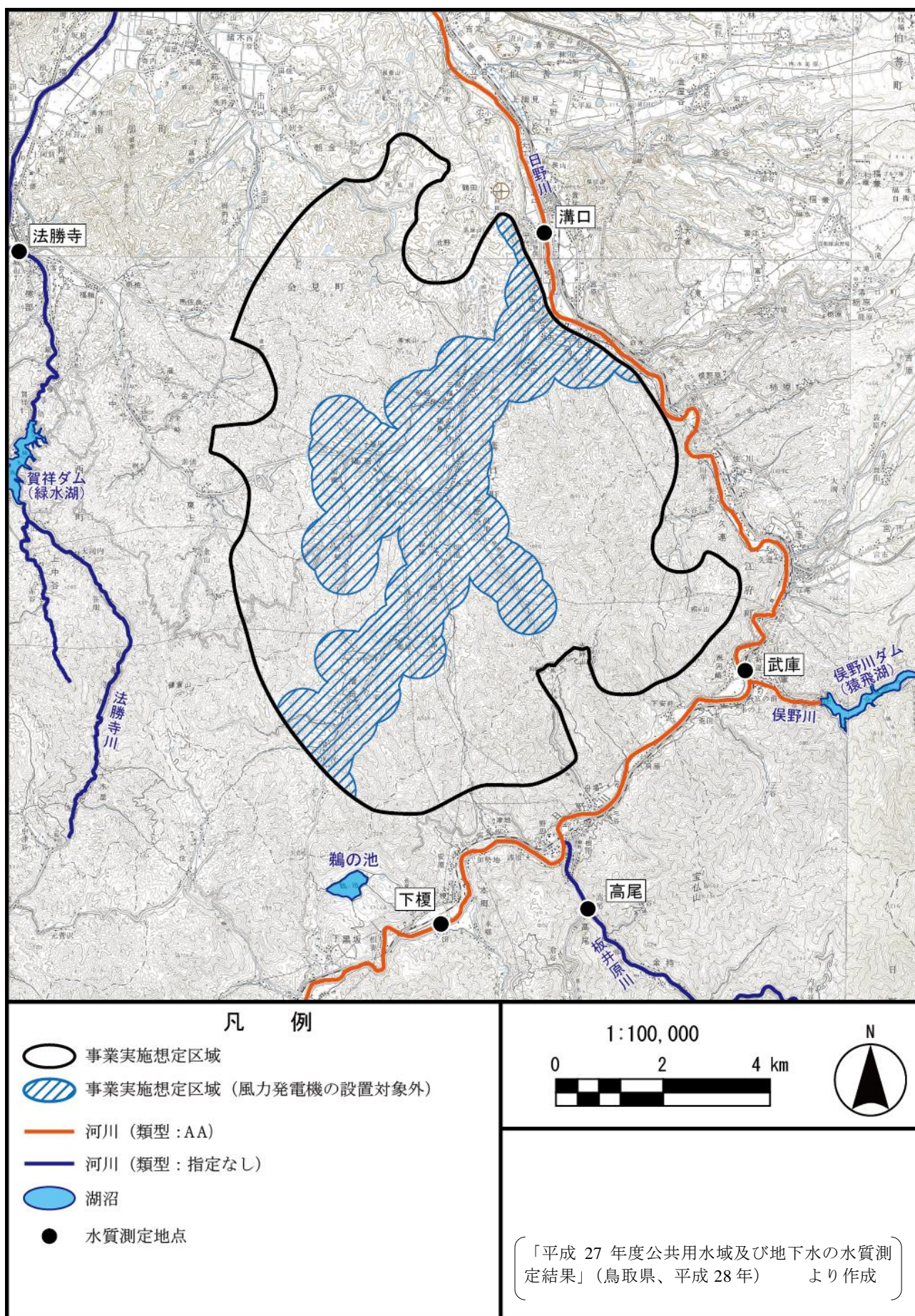
2. 水質の状況

(1) 河川の水質

事業実施想定区域及びその周囲における河川の水質の状況として、日野川、法勝寺川及び板井原川で水質測定が行われている。平成 27 年度の水質測定地点は第 3.1-13 図、水質測定結果は第 3.1-21 表のとおりである。

生活環境項目については、大腸菌群数が全地点で環境基準 AA 類型相当に適合していない。その他の項目は全地点で環境基準 AA 類型相当に適合している。

健康項目は全地点で全項目が環境基準に適合している。



第 3.1-13 図 水質測定地点

第 3.1-21 表(1) 河川の水質測定結果（生活環境項目）

水域名	地点名	類型	水素イオン濃度(pH)				溶存酸素量(DO) (mg/L)					生物化学的酸素要求量(BOD) (mg/L)					
			最小 値	最大 値	m	n	最小 値	最大 値	m	n	日間平均値 平均値	日間平均値					
												最小 値	最大 値	x	y	平均値	75%値
日野川 上流	溝口	AA	7.3	8.0	0	12	8.8	13	0	12	10	<0.5	0.8	0	12	0.6	0.6
	武庫	AA	7.2	8.1	0	12	8.7	12	0	12	10	<0.5	0.8	0	12	0.6	<0.5
	下榎	AA	7.0	7.8	0	12	8.7	12	0	12	10	<0.5	0.8	0	12	0.6	0.7
法勝寺川	法勝寺	—	7.0	8.2	—	12	8.7	12	—	12	10	<0.5	1.5	—	12	0.7	0.8
板井原川	高尾	—	7.0	7.9	—	12	8.7	12	—	12	10	<0.5	<0.5	—	12	<0.5	<0.5
環境基準値		AA	6.5 以上 8.5 以下				7.5 以上					1 以下					

水域名	地点名	類型	浮遊物質質量(SS) (mg/L)					大腸菌群数 (MPN/100mL)				
			最小値	最大値	m	n	日間平均値 平均値	最小値	最大値	m	n	日間平均値 平均値
日野川 上流	溝口	AA	<1	5	0	12	2	79	7,900	12	12	2,000
	武庫	AA	<1	5	0	12	2	79	17,000	12	12	2,600
	下榎	AA	<1	4	0	12	2	11	13,000	9	12	2,300
法勝寺川	法勝寺	—	1	5	—	12	2	170	28,000	—	12	5,300
板井原川	高尾	—	<1	1	—	12	1	11	11,000	—	12	2,000
環境基準値		AA	25 以下					50 以下				

注：1. 「<」は定量下限値未満であることを示す。

2. 「—」は該当がないことを示す。

3. 「m」は環境基準値を超える検体数、「n」は総検体数、「x」は環境基準に値しない日数、「y」は総観測日を示す。

「平成 27 年度公共用水域及び地下水の水質測定結果」（鳥取県、平成 28 年）
 「水質汚濁に係る環境基準について」（昭和 46 年環境庁告示第 59 号）

より作成

第 3.1-21 表(2) 河川の水質測定結果（健康項目・最大値）

（単位：mg/L）

水域名 地点名	日野川上流			法勝寺川	板井原川	環境基準
	溝口	武庫	下榎	法勝寺	高尾	
カドミウム	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	0.003 mg/L 以下
全シアン	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	検出されないこと
鉛	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	0.01 mg/L 以下
六価クロム	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	0.05 mg/L 以下
砒素	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	0.01 mg/L 以下
総水銀	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	0.0005 mg/L 以下
アルキル水銀	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	検出されないこと
PCB	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	検出されないこと
ジクロロメタン	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	0.02 mg/L 以下
四塩化炭素	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	0.002 mg/L 以下
1,2-ジクロロエタン	<0.0004	<0.0004	<0.0004	<0.0004	<0.0004	0.004 mg/L 以下
1,1-ジクロロエチレン	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	0.1 mg/L 以下
シス-1,2-ジクロロエチレン	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004	0.04mg/L 以下
1,1,1-トリクロロエタン	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	1 mg/L 以下
1,1,2-トリクロロエタン	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	0.006 mg/L 以下
トリクロロエチレン	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	0.01 mg/L 以下
テトラクロロエチレン	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	0.01 mg/L 以下
1,3-ジクロロプロペン	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	0.002 mg/L 以下
チウラム	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	0.006 mg/L 以下
シマジン	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	0.003 mg/L 以下
チオベンカルブ	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	0.02 mg/L 以下
ベンゼン	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	0.01 mg/L 以下
セレン	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	0.01 mg/L 以下
硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	0.6	0.3	0.2	0.5	0.8	10 mg/L 以下
ふっ素	<0.08	<0.08	<0.08	0.09	0.09	0.8 mg/L 以下
ほう素	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	1 mg/L 以下
1,4-ジオキサン	<0.005	<0.005	<0.005	—	<0.005	0.05 mg/L 以下

「平成 27 年度公共用水域及び地下水の水質測定結果」（鳥取県、平成 28 年）
 「水質汚濁に係る環境基準について」（昭和 46 年環境庁告示第 59 号）

より作成

(2) 湖沼の水質

事業実施想定区域の周囲の湖沼において、水質測定は実施されていない。

(3) 地下水の水質

事業実施想定区域及びその周囲における地下水の水質の状況として、平成 24 年度に南部町、平成 25 年度に江府町、平成 26 年度に伯耆町及び日野町において年に 1 回概況調査が行われている。測定結果は第 3.1-22 表、調査が行われた井戸がある範囲は第 3.1-14 図のとおりであり、全地点、全項目で環境基準に適合している。

第 3.1-22 表(1) 地下水水質の測定結果（概況調査）

年度		平成 24 年度	平成 25 年度		環境基準
町		南部町	江府町		
地区		三崎	佐川①	佐川②	
用途区分		生活用水井戸	生活用水井戸	生活用水井戸	
カドミウム	mg/L	<0.0003	<0.0003	<0.0003	0.003mg/L 以下
全シアン	mg/L	<0.1	<0.1	<0.1	検出されないこと
鉛	mg/L	<0.005	<0.005	<0.005	0.01 mg/L 以下
六価クロム	mg/L	<0.005	<0.005	<0.005	0.05 mg/L 以下
砒素	mg/L	<0.005	<0.005	<0.005	0.01 mg/L 以下
総水銀	mg/L	<0.0005	<0.0005	<0.0005	0.0005 mg/L 以下
アルキル水銀	mg/L	<0.0005	<0.0005	<0.0005	検出されないこと
PCB	mg/L	<0.0005	<0.0005	<0.0005	検出されないこと
ジクロロメタン	mg/L	<0.002	<0.002	<0.002	0.02 mg/L 以下
四塩化炭素	mg/L	<0.0002	<0.0002	<0.0002	0.002 mg/L 以下
塩化ビニルモノマー	mg/L	<0.0002	<0.0002	<0.0002	0.002mg/L 以下※
1,2-ジクロロエタン	mg/L	<0.0004	<0.0004	<0.0004	0.004 mg/L 以下
1,1-ジクロロエチレン	mg/L	<0.002	<0.002	<0.002	0.1 mg/L 以下
1,2-ジクロロエチレン	mg/L	<0.004	<0.004	<0.004	0.04mg/L 以下
1,1,1-トリクロロエタン	mg/L	<0.0005	<0.0005	<0.0005	1 mg/L 以下
1,1,2-トリクロロエタン	mg/L	<0.0006	<0.0006	<0.0006	0.006 mg/L 以下
トリクロロエチレン	mg/L	<0.002	<0.002	<0.002	0.01 mg/L 以下
テトラクロロエチレン	mg/L	<0.0005	<0.0005	<0.0005	0.01 mg/L 以下
1,3-ジクロロプロペン	mg/L	<0.0002	<0.0002	<0.0002	0.002 mg/L 以下
チウラム	mg/L	<0.0006	<0.0006	<0.0006	0.006 mg/L 以下
シマジン	mg/L	<0.0003	<0.0003	<0.0003	0.003 mg/L 以下
チオベンカルブ	mg/L	<0.002	<0.002	<0.002	0.02 mg/L 以下
ベンゼン	mg/L	<0.001	<0.001	<0.001	0.01 mg/L 以下
セレン	mg/L	<0.002	<0.002	<0.002	0.01 mg/L 以下
硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	mg/L	1.0	0.8	0.8	10 mg/L 以下
ふっ素	mg/L	<0.08	<0.08	<0.08	0.8 mg/L 以下
ほう素	mg/L	<0.1	<0.1	<0.1	1 mg/L 以下
1,4-ジオキサン	mg/L	<0.005	<0.005	<0.005	0.05 mg/L 以下

注：1. 「<」は報告下限値未満であること（検出されないこと）を示す。

2. 「※」のクロロエチレン（別名塩化ビニル又は塩化ビニルモノマー）の環境基準は平成 29 年 4 月 1 日から適用されており、水質測定時には適用されていない。

「平成 24 年度公共用水域及び地下水の水質測定結果」（鳥取県 HP、閲覧：29 年 7 月）
「平成 25 年度公共用水域及び地下水の水質測定結果」（鳥取県、平成 27 年）
「水質汚濁に係る環境基準について」（昭和 46 年環境庁告示第 9 号）より作成

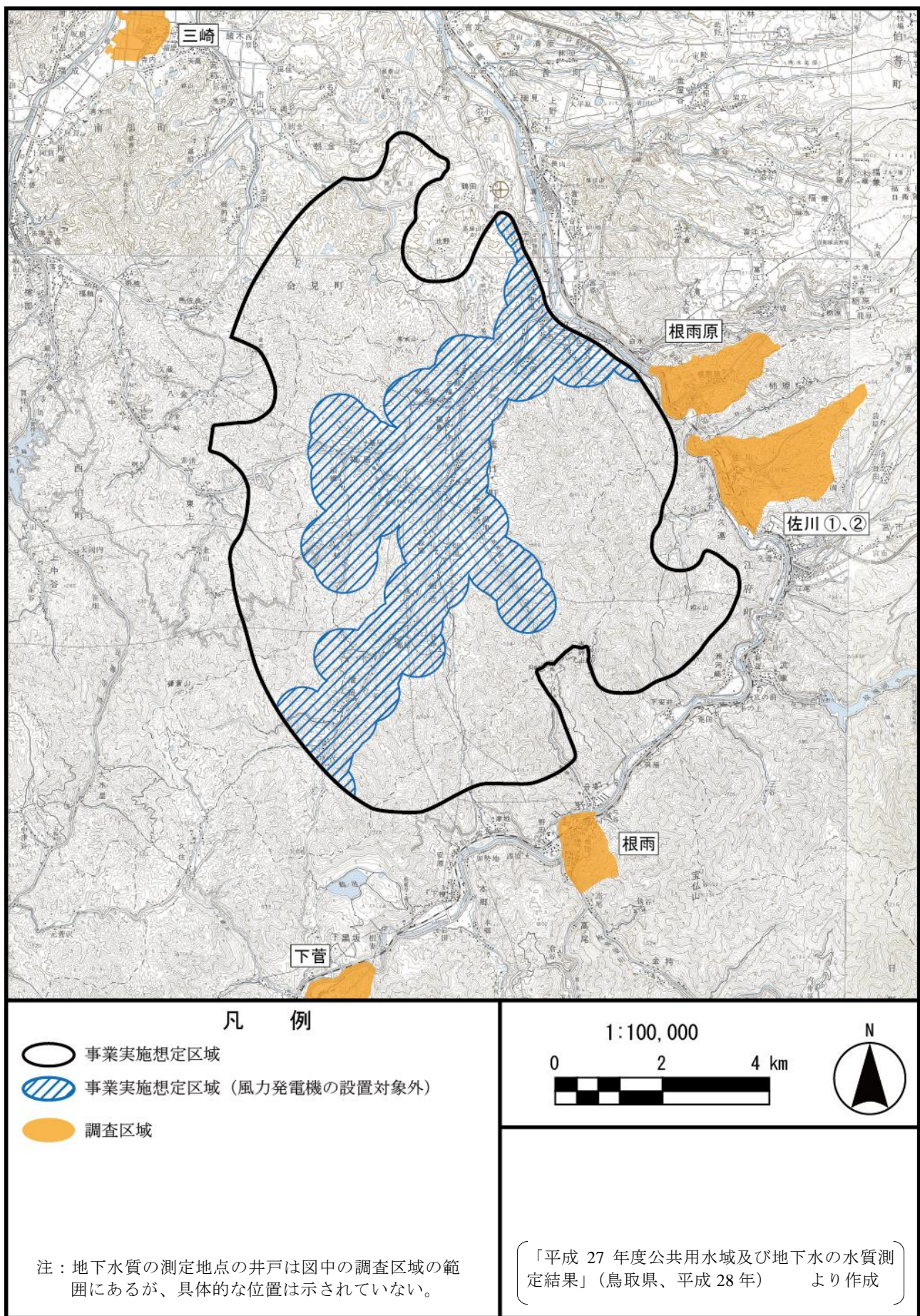
第 3.1-22 表(2) 地下水水質の測定結果（概況調査）

年度		平成 26 年度			環境基準
町		伯耆町	日野町		
地区		根雨原	根雨	下菅	
用途区分		生活用水井戸	生活用水井戸	生活用水井戸	
カドミウム	mg/L	<0.0003	<0.0003	<0.0003	0.003mg/L 以下
全シアン	mg/L	<0.1	<0.1	<0.1	検出されないこと
鉛	mg/L	<0.005	<0.005	<0.005	0.01 mg/L 以下
六価クロム	mg/L	<0.005	<0.005	<0.005	0.05 mg/L 以下
砒素	mg/L	<0.005	<0.005	<0.005	0.01 mg/L 以下
総水銀	mg/L	<0.0005	<0.0005	<0.0005	0.0005 mg/L 以下
アルキル水銀	mg/L	<0.0005	<0.0005	<0.0005	検出されないこと
PCB	mg/L	<0.0005	<0.0005	<0.0005	検出されないこと
ジクロロメタン	mg/L	<0.002	<0.002	<0.002	0.02 mg/L 以下
四塩化炭素	mg/L	<0.0002	<0.0002	<0.0002	0.002 mg/L 以下
塩化ビニルモノマー	mg/L	<0.0002	<0.0002	<0.0002	0.002mg/L 以下※
1,2-ジクロロエタン	mg/L	<0.0004	<0.0004	<0.0004	0.004 mg/L 以下
1,1-ジクロロエチレン	mg/L	<0.002	<0.002	<0.002	0.1 mg/L 以下
1,2-ジクロロエチレン	mg/L	<0.004	<0.004	<0.004	0.04mg/L 以下
1,1,1-トリクロロエタン	mg/L	<0.0005	<0.0005	<0.0005	1 mg/L 以下
1,1,2-トリクロロエタン	mg/L	<0.0006	<0.0006	<0.0006	0.006 mg/L 以下
トリクロロエチレン	mg/L	<0.002	<0.002	<0.002	0.01 mg/L 以下
テトラクロロエチレン	mg/L	<0.0005	<0.0005	<0.0005	0.01 mg/L 以下
1,3-ジクロロプロペン	mg/L	<0.0002	<0.0002	<0.0002	0.002 mg/L 以下
チウラム	mg/L	<0.0006	<0.0006	<0.0006	0.006 mg/L 以下
シマジン	mg/L	<0.0003	<0.0003	<0.0003	0.003 mg/L 以下
チオベンカルブ	mg/L	<0.002	<0.002	<0.002	0.02 mg/L 以下
ベンゼン	mg/L	<0.001	<0.001	<0.001	0.01 mg/L 以下
セレン	mg/L	<0.002	<0.002	<0.002	0.01 mg/L 以下
硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	mg/L	0.8	1.0	1.0	10 mg/L 以下
ふっ素	mg/L	<0.08	0.10	0.08	0.8 mg/L 以下
ほう素	mg/L	<0.1	<0.1	<0.1	1 mg/L 以下
1,4-ジオキサン	mg/L	<0.005	<0.005	<0.005	0.05 mg/L 以下

注：1. 「<」は報告下限値未満であること（検出されないこと）を示す。

2. 「※」のクロロエチレン（別名塩化ビニル又は塩化ビニルモノマー）の環境基準は平成 29 年 4 月 1 日から適用されており、水質測定時には適用されていない。

「平成 26 年度公共用水域及び地下水の水質測定結果」（鳥取県、平成 28 年）
 「水質汚濁に係る環境基準について」（昭和 46 年環境庁告示第 9 号）より作成



第 3.1-14 図 地下水水質の測定地点（概況調査）

(4) 水質に係る苦情の発生状況

水質汚濁に係る公害苦情受理件数は、鳥取県へのヒアリング（平成 29 年 7 月）によると、平成 28 年度は伯耆町、江府町及び日野町では 0 件、南部町では 1 件である。

3. 水底の底質の状況

鳥取県における水底の底質の調査としては、「平成 27 年度ダイオキシン類常時監視結果報告書」（鳥取県、平成 28 年に）によると、ダイオキシン類対策特別措置法第 27 条第 1 項に基づき、ダイオキシン類による汚染の状況を調査しており、一級河川（千代川、天神川、日野川）・中海は毎年調査、その他地点は概ね 3 年に 1 回のローリング調査を実施している。平成 27 年度における河川、湖沼、海域の底質中のダイオキシン類濃度は 0.066～23 pg-TEQ/g（全地点の平均値 4.3 pg-TEQ/g）であり、すべての地点で環境基準（150 pg-TEQ/g 以下）を達成している。

なお、事業実施想定区域及びその周囲に毎年調査及びローリング調査の調査地点はない。

3.1.3 土壌及び地盤の状況

1. 土壌の状況

(1) 土壌

事業実施想定区域及びその周囲における土壌の状況は第 3.1-15 図のとおりである。

事業実施想定区域は主に褐色森林土壌、乾性褐色森林土壌、褐色森林土壌（黄褐色系）及び乾性褐色森林土壌（黄褐色系）からなっている。

(2) 土壌汚染

「土壌汚染対策法に基づく要措置区域・形質変更時要届出区域」（環境省 HP、閲覧：平成 29 年 7 月）によると、平成 29 年 6 月 30 日現在、事業実施想定区域が位置する伯耆町、江府町、日野町及び南部町において、「土壌汚染対策法」（平成 14 年法律第 53 号）に基づく要措置区域及び形質変更時要届出区域の指定はない。

(3) 土壌汚染に係る苦情の発生状況

土壌汚染に係る公害苦情受理件数は、鳥取県へのヒアリング（平成 29 年 7 月）によると、平成 28 年度は伯耆町、江府町、日野町及び南部町ともに 0 件である。

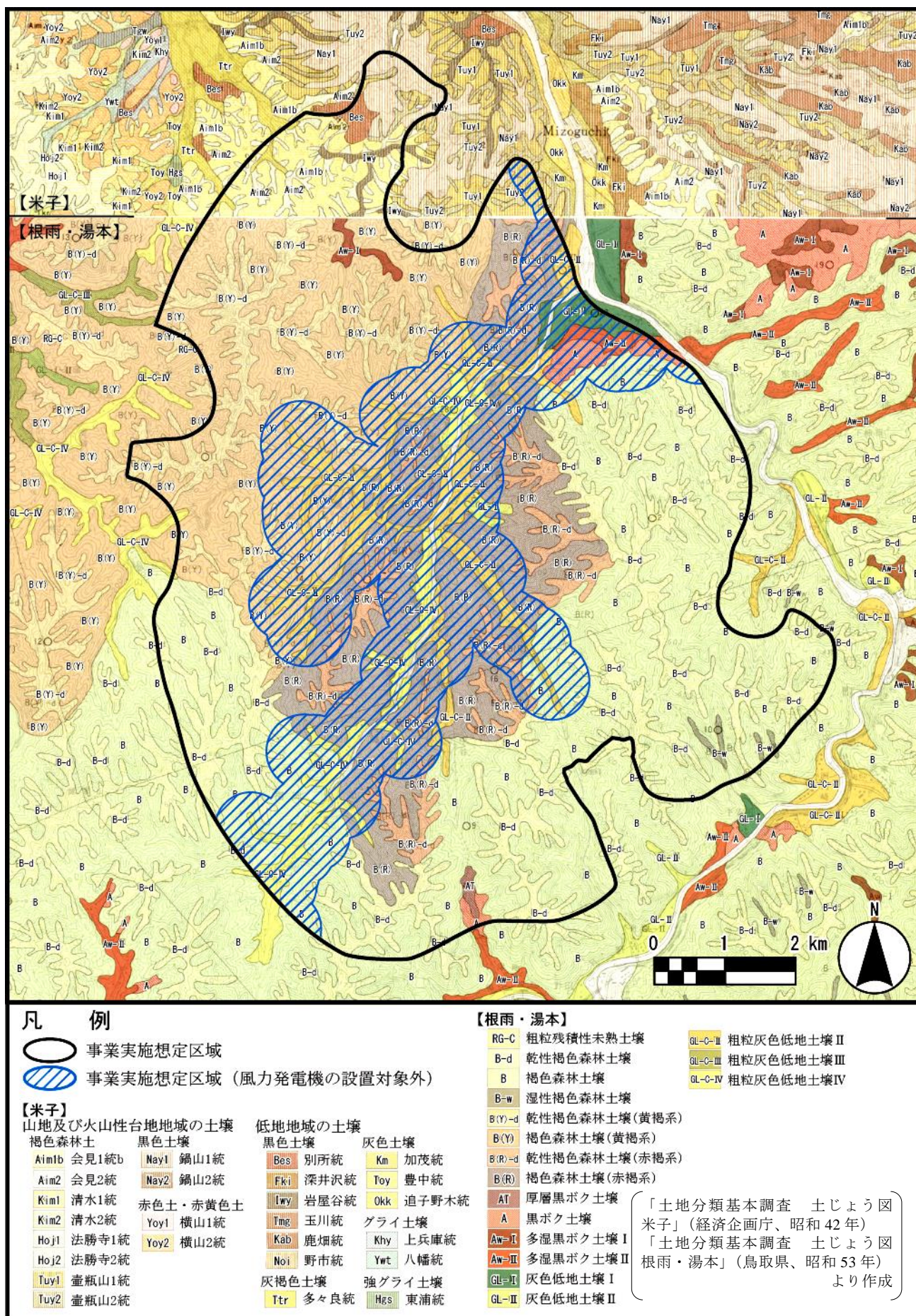
2. 地盤の状況

(1) 地盤沈下の状況

「平成 27 年度 全国の地盤沈下地域の概況」（環境省、平成 28 年）によると、事業実施想定区域が位置する伯耆町、江府町、日野町及び南部町において地盤沈下は確認されていない。

(2) 地盤沈下に係る苦情の発生状況

地盤沈下に係る公害苦情受理件数は、鳥取県へのヒアリング（平成 29 年 7 月）によると、平成 28 年度は伯耆町、江府町、日野町及び南部町ともに 0 件である。



第 3.1-15 図 土壌図

3.1.4 地形及び地質の状況

1. 地形の状況

事業実施想定区域及びその周囲における地形の状況は第 3.1-16 図のとおりであり、事業実施想定区域は、主に中起伏山地及び小起伏山地からなっている。また、「日本の典型地形」（（財）日本地図センター発行、平成 11 年）によると、第 3.1-23 表及び第 3.1-17 図のとおり、事業実施想定区域及びその周囲に「金花山※の奇岩群」や「古市付近」等が存在する。

第 3.1-23 表 事業実施想定区域及びその周囲における地形の状況（典型地形）

地形項目		名称	所在地	備考
地質を反映した地形	奇岩怪岩・巨石群	金花山※の奇岩群	西伯郡南部町	集塊岩よりなる
河川の作用による地形	河岸段丘及び段丘崖	古市付近	日野郡伯耆町	日野川
	沖積錐	下安井付近	日野郡江府町	
その他の地形	隆起準平原	日野高原	日野郡日南町・日野町	

〔「日本の典型地形」（（財）日本地図センター、平成 11 年）より作成〕

2. 地質の状況

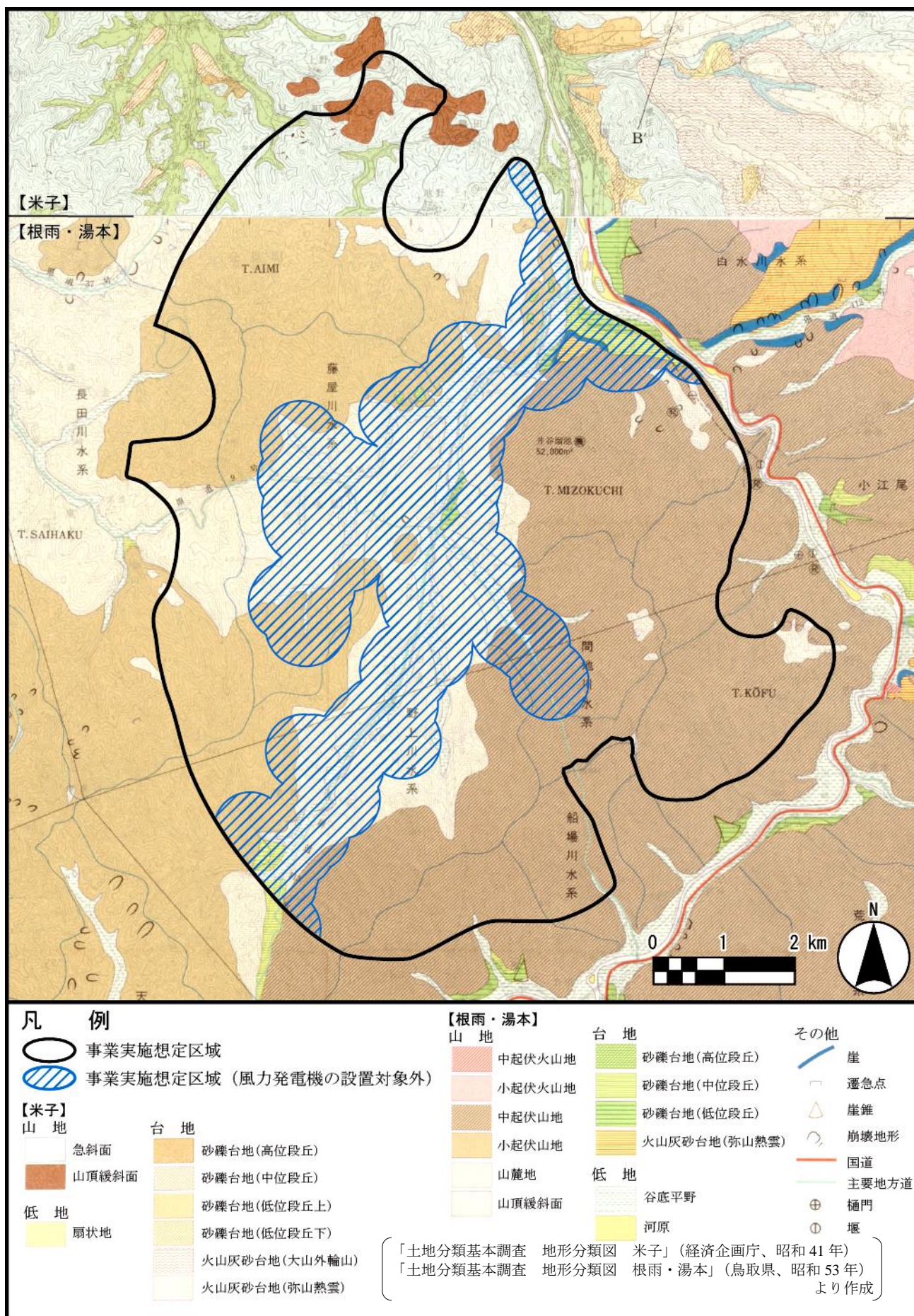
事業実施想定区域及びその周囲における表層地質の状況は第 3.1-18 図のとおりである。事業実施想定区域は主に花崗岩質岩石、黒色片岩からなっている。

3. 重要な地形・地質

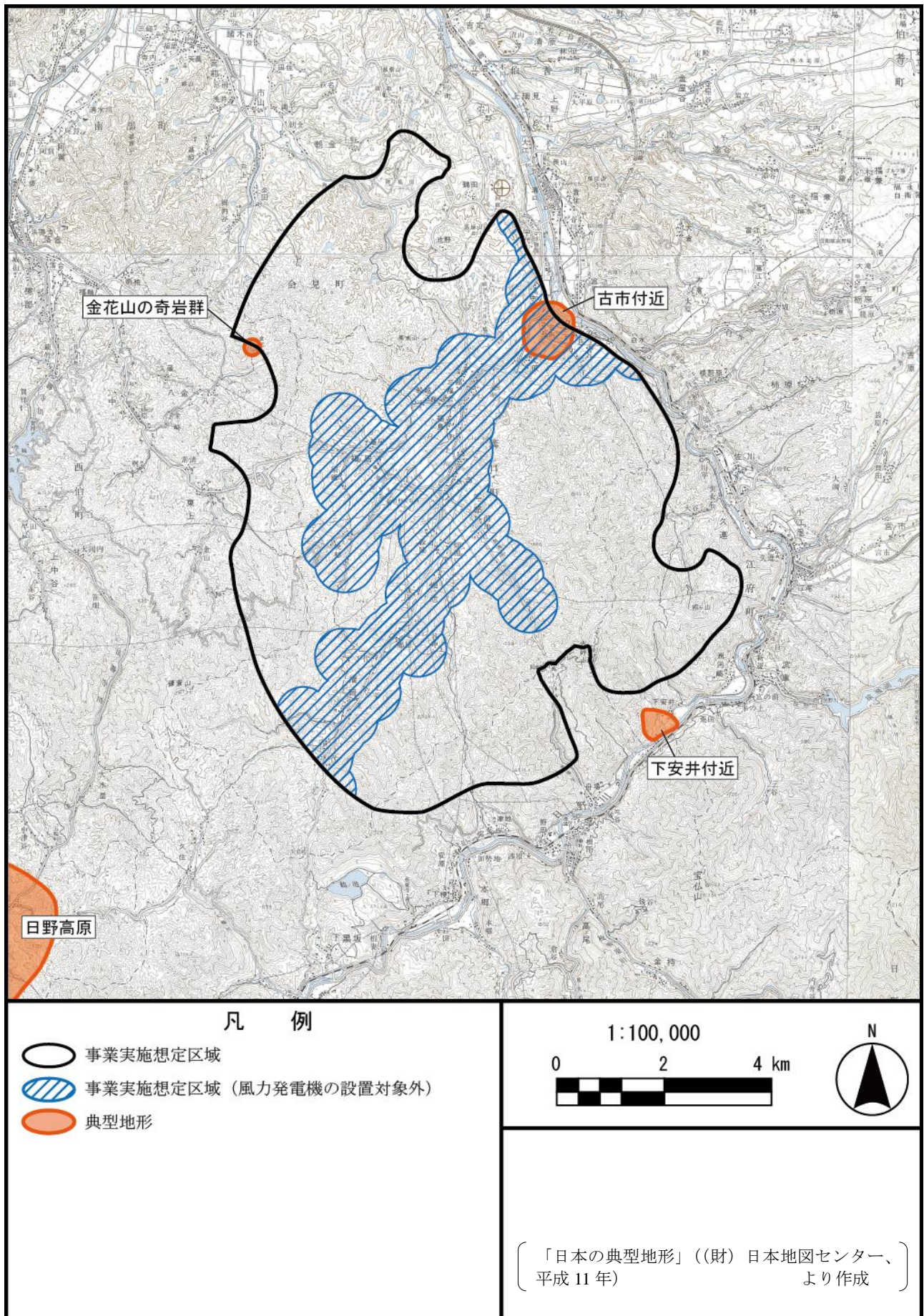
事業実施想定区域及びその周囲には「日本の地形レッドデータブック第 1 集」（日本の地形レッドデータブック作成委員会、平成 12 年）において選定された保存すべき地形は存在しない。

また、「文化財保護法」（昭和 25 年法律第 214 号）により指定されている重要な地質は第 3.1-19 図のとおりであり、事業実施想定区域の周囲に、南部町指定記念物の「金花山※（凝灰角礫岩）」が存在している。

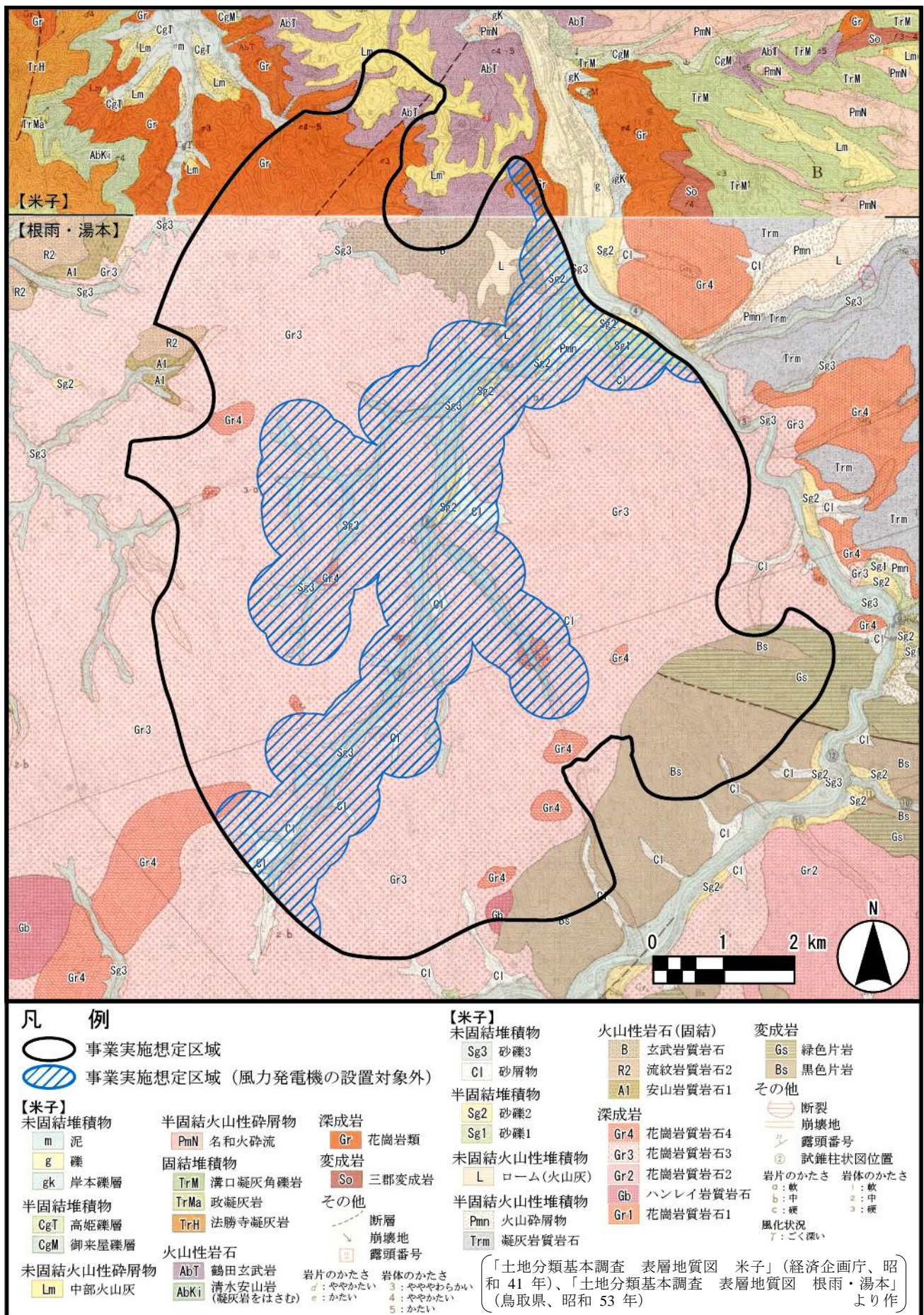
※ 「南部町文化財の保護」（南部町 HP、閲覧：平成 29 年 7 月）及び「とっとり文化財ナビ」（鳥取県 HP、閲覧：平成 29 年 7 月）によると、「金華山」の表記であるが、本頁では出典のとおりに記載した



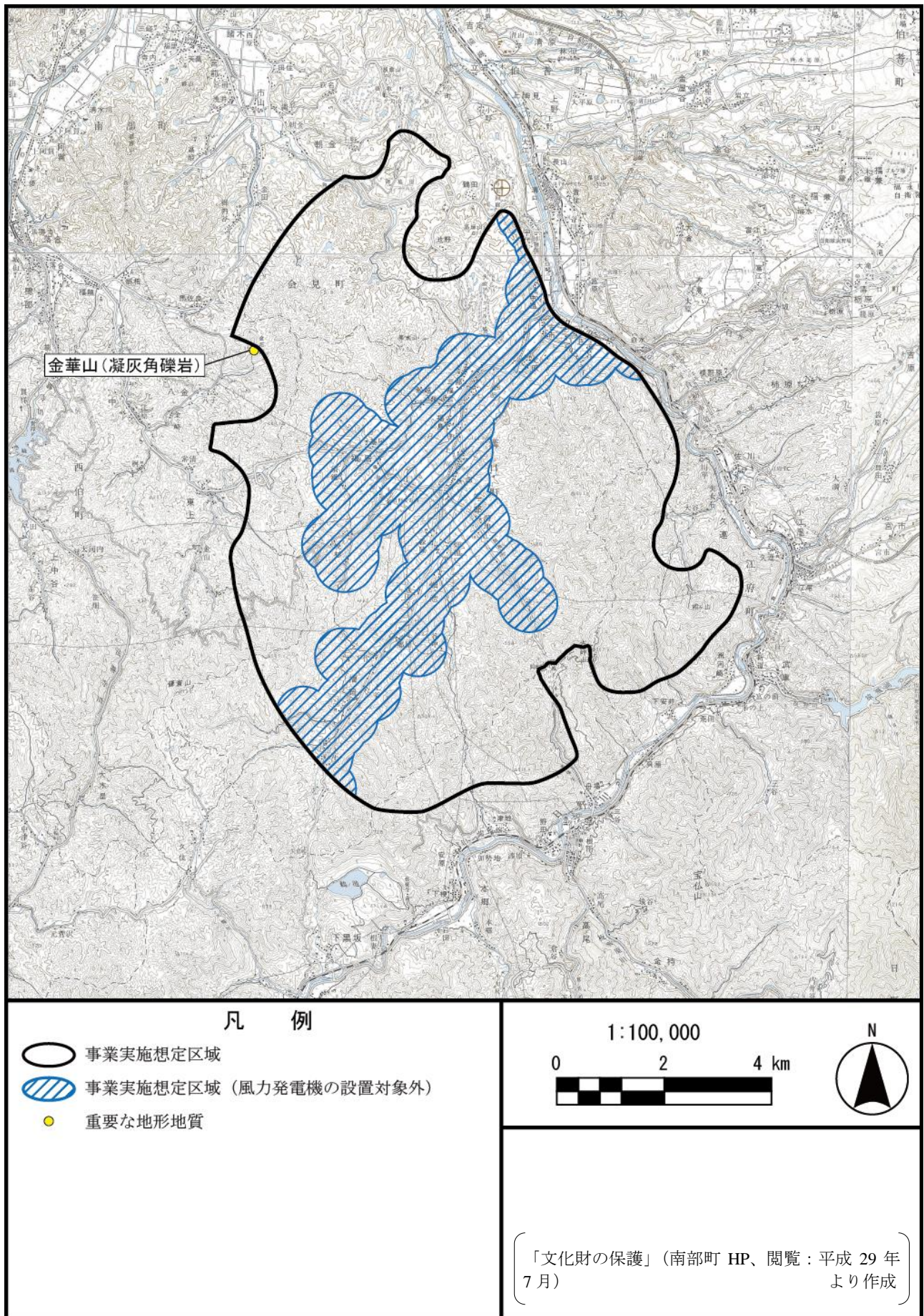
第 3.1-16 図 事業実施想定区域及びその周囲における地形の状況 (地形分類図)



第 3.1-17 図 事業実施想定区域及びその周囲における地形の状況（典型地形）



第 3.1-18 図 表層地質



第 3.1-19 図 重要な地形・地質

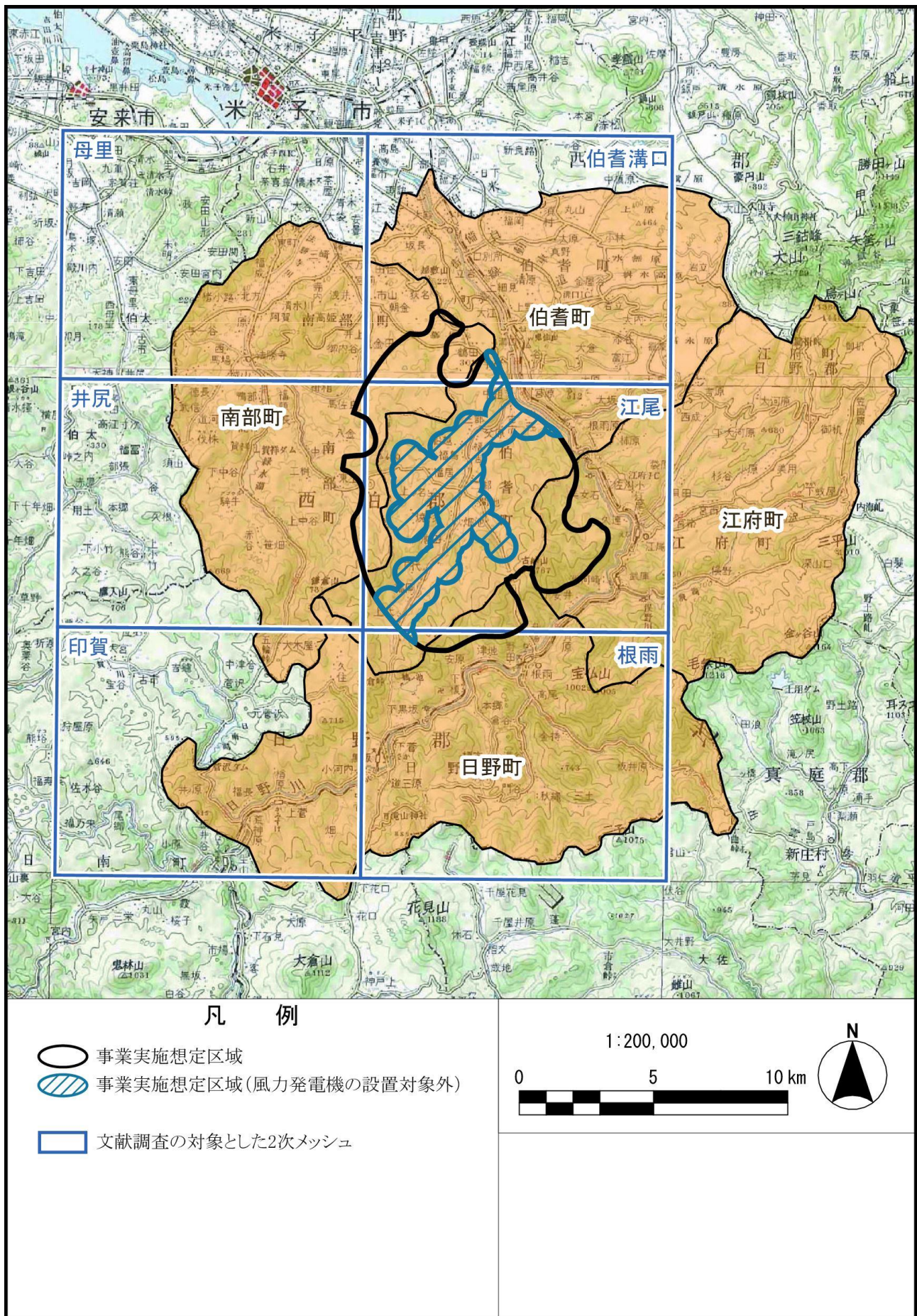
3.1.5 動植物の生息又は生育、植生及び生態系の状況

1. 動物の生息の状況

動物の生息状況は、当該地域の自然特性を勘案し、事業実施想定区域及びその周囲を対象に、文献その他の資料（「レッドデータブックとっとり 改訂版－鳥取県の絶滅のおそれのある野生動植物－」（鳥取県生活環境部自然公園課、平成 24 年）、伯耆町（旧岸本町、溝口町）、南部町（旧西伯町、会見町）、江府町及び日野町の各町誌等）により整理した。なお、会見町誌には動物相の概要整理に資する記述は認められなかった。

また、「自然環境保全基礎調査」については、事業実施想定区域が含まれる 2 次メッシュ^{注)}として、「母里」、「伯耆溝口」、「井尻」、「江尾」、「印賀」及び「根雨」を対象とした。調査範囲は第 3.1-20 図のとおりである。

注：国土地理院発行の 1/25,000 の地形図名称



第 3. 1-20 図 文献その他の資料調査範囲

(1) 動物相の概要

事業実施想定区域及びその周囲の動物相の概要は、第 3.1-24 表のとおりであり、哺乳類 30 種、鳥類 165 種、爬虫類 13 種、両生類 17 種、昆虫類 1,012 種、魚類 55 種及び底生動物 16 種の計 1,308 種が確認されている。

第 3.1-24 表(1) 動物相の概要

分類	文献名	確認 種数	主な確認種
哺乳類	「生物多様性情報システムー基礎調査データベース検索ー（第 2 回動植物分布調査）」（環境省 HP、閲覧：平成 29 年 7 月）	6 種	カワネズミ、アズマモグラ、コキクガシラコウモリ、キクガシラコウモリ、ヤマコウモリ、ニホンザル、ノウサギ、ニホンリス、ホンドモモンガ、ムササビ、ハタネズミ、アカネズミ、ヒメネズミ、ヌートリア、ツキノワグマ、タヌキ、キツネ、テン、イタチ、ニホンアナグマ、イノシシ、ニホンジカ等 (30 種)
	「生物多様性情報システムー基礎調査データベース検索ー（第 4 回動植物分布調査）」（環境省 HP、閲覧：平成 29 年 7 月）	14 種	
	「生物多様性情報システムー基礎調査データベース検索ー（第 5 回動植物分布調査）」（環境省 HP、閲覧：平成 29 年 7 月）	8 種	
	「生物多様性情報システムー基礎調査データベース検索ー（第 6 回動植物分布調査）」（環境省 HP、閲覧：平成 29 年 7 月）	7 種	
	「レッドデータブックとっとり 改訂版ー鳥取県の絶滅のおそれのある野生動植物ー」（鳥取県生活環境部自然公園課、平成 24 年）	7 種	
	「鳥取県のすぐれた自然 動物編」（鳥取県、平成 5 年）	2 種	
	「南部町の生きものたち」（南部町 HP、閲覧：平成 29 年 7 月）	4 種	
	「岸本町誌」（岸本町、昭和 58 年）	19 種	
	「溝口町誌」（溝口町、昭和 48 年）	24 種	
	「西伯町誌」（西伯町、昭和 50 年）	12 種	
	「西伯町誌 完結編」（西伯町、平成 16 年）	4 種	
	「新修江府町史」（江府町、平成 20 年）	1 種	
	「日野町誌」（日野町、昭和 45 年）	9 種	
鳥類	「生物多様性情報システムー基礎調査データベース検索ー（第 2 回動植物分布調査）」（環境省 HP、閲覧：平成 29 年 7 月）	63 種	ヤマドリ、キジ、オシドリ、キジバト、チュウサギ、ホトトギス、ヨタカ、イカルチドリ、オオタカ、サシバ、クマタカ、フクロウ、アオバズク、アカショウビン、ヤマセミ、コゲラ、アオゲラ、ヤイロチョウ、ハヤブサ、ハシボソガラス、コシアカツバメ、ウグイス、ゴジュウカラ、トラツグミ、ジョウビタキ、オオルリ、セグロセキレイ、アトリ、ホオジロ等 (165 種)
	「生物多様性情報システムー基礎調査データベース検索ー（第 3 回動植物分布調査）」（環境省 HP、閲覧：平成 29 年 7 月）	19 種	
	「生物多様性情報システムーガンカモ類の生息調査」（環境省、閲覧：平成 29 年 7 月）	23 種	
	「レッドデータブックとっとり 改訂版ー鳥取県の絶滅のおそれのある野生動植物ー」（鳥取県生活環境部自然公園課、平成 24 年）	51 種	
	「鳥取県のすぐれた自然 動物編」（鳥取県、平成 5 年）	45 種	
	「南部町の生きものたち」（南部町 HP、閲覧：平成 29 年 7 月）	42 種	
	「岸本町誌」（岸本町、昭和 58 年）	71 種	
	「溝口町誌」（溝口町、昭和 48 年）	74 種	
	「西伯町誌」（西伯町、昭和 50 年）	45 種	
	「西伯町誌 完結編」（西伯町、平成 16 年）	7 種	
	「新修江府町史」（江府町、平成 20 年）	29 種	
	「日野町誌」（日野町、昭和 45 年）	67 種	
爬虫類	「生物多様性情報システムー基礎調査データベース検索ー（第 5 回動植物分布調査）」（環境省 HP、閲覧：平成 29 年 7 月）	6 種	ニホンイシガメ、クサガメ、ニホンスッポン、ニホンヤモリ、ニホントカゲ、ニホンカナヘビ、シマヘビ、アオダイショウ、ジムグリ、シロマダラ、ヒバカリ、ヤマカガシ、ニホンマムシ (13 種)
	「レッドデータブックとっとり 改訂版ー鳥取県の絶滅のおそれのある野生動植物ー」（鳥取県生活環境部自然公園課、平成 24 年）	3 種	
	「鳥取県のすぐれた自然 動物編」（鳥取県、平成 5 年）	2 種	
	「日野川の清流を守るために 環境調査報告書」（岸本町、昭和 56 年）	1 種	
	「南部町の生きものたち」（南部町 HP、閲覧：平成 29 年 7 月）	10 種	
	「岸本町誌」（岸本町、昭和 58 年）	10 種	
	「溝口町誌」（溝口町、昭和 48 年）	10 種	
	「西伯町誌」（西伯町、昭和 50 年）	9 種	
	「新修江府町史」（江府町、平成 20 年）	2 種	
	「日野町誌」（日野町、昭和 45 年）	8 種	

注：哺乳類、爬虫類の種名は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 平成 28 年度生物リスト」（河川環境データベース 国土交通省、平成 28 年）、鳥類の種名は、「日本鳥類目録 改訂第 7 版」（日本鳥学会 平成 24 年）に準拠した。

第 3. 1-24 表 (2) 動物相の概要

分類	文献名	確認 種数	主な確認種
両生類	「生物多様性情報システムー基礎調査データベース検索ー（第 4 回動植物分布調査）」 （環境省 HP、閲覧：平成 29 年 7 月）	2 種	カスミサンショウウオ、 ブチサンショウウオ、ヒ ダサンショウウオ、ハコ ネサンショウウオ、オオ サンショウウオ、アカハ ライモリ、ニホンヒキガ エル、ニホンアマガエル 、ニホンアカガエル、 ヤマアカガエル、トノサ マガエル、ウシガエル、 ツチガエル、ヌマガエル 、シュレーゲルアオガ エル、モリアオガエル、 カジカガエル等 (17 種)
	「生物多様性情報システムー基礎調査データベース検索ー（第 5 回動植物分布調査）」 （環境省 HP、閲覧：平成 29 年 7 月）	8 種	
	「レッドデータブックとっとり 改訂版ー鳥取県の絶滅のおそれのある野生動植物ー」 （鳥取県生活環境部自然公園課、平成 24 年）	8 種	
	「鳥取県のすぐれた自然 動物編」（鳥取県、平成 5 年）	7 種	
	「日野川の清流を守るために 環境調査報告書」（岸本町、昭和 56 年）	1 種	
	「南部町の生きものたち」（南部町 HP、閲覧：平成 29 年 7 月）	13 種	
	「岸本町誌」（岸本町、昭和 58 年）	12 種	
	「溝口町誌」（溝口町、昭和 48 年）	11 種	
	「西伯町誌」（西伯町、昭和 50 年）	11 種	
	「西伯町誌 完結編」（西伯町、平成 16 年）	1 種	
	「新修江府町史」（江府町、平成 20 年）	7 種	
	「日野町誌」（日野町、昭和 45 年）	11 種	
昆虫類	「生物多様性情報システムー基礎調査データベース検索ー（第 2 回動植物分布調査）」 （環境省 HP、閲覧：平成 29 年 7 月）	14 種	モンカゲロウ、チラカゲ ロウ、オオアオイトトン ボ、ムカシトンボ、オニ ヤンマ、ヒメアカネ、マ ツムシ、ニシキリギリス 、ショウリョウバッタ モドキ、ハルゼミ、タガ メ、スジグロチャバネセ セリ北海道・本州・九州 亜種、オオミドリシジ ミ、キマダラルリツバ メ、オオヒカゲ、オオム ラサキ、ギフチョウ、コ シロシタバ、ゲンゴロ ウ、ガムシ、ゲンジボタ ル、キンイロネクイハム シ等 (1,012 種)
	「生物多様性情報システムー基礎調査データベース検索ー（第 4 回動植物分布調査）」 （環境省 HP、閲覧：平成 29 年 7 月）	70 種	
	「生物多様性情報システムー基礎調査データベース検索ー（第 5 回動植物分布調査）」 （環境省 HP、閲覧：平成 29 年 7 月）	149 種	
	「レッドデータブックとっとり 改訂版ー鳥取県の絶滅のおそれのある野生動植物ー」 （鳥取県生活環境部自然公園課、平成 24 年）	70 種	
	「鳥取県のすぐれた自然 動物編」（鳥取県、平成 5 年）	29 種	
	「日野川の清流を守るために 環境調査報告書」（岸本町、昭和 56 年）	60 種	
	「南部町の生きものたち」（南部町 HP、閲覧：平成 29 年 7 月）	59 種	
	「鳥取県会見町の昆虫類」（淀江賢一郎ほか、平成 12 年）	733 種	
	「岸本町誌」（岸本町、昭和 58 年）	99 種	
	「溝口町誌」（溝口町、昭和 48 年）	12 種	
	「西伯町誌」（西伯町、昭和 50 年）	13 種	
	「西伯町誌 完結編」（西伯町、平成 16 年）	27 種	
	「新修江府町史」（江府町、平成 20 年）	25 種	
	「日野町誌」（日野町、昭和 45 年）	19 種	
魚類	「生物多様性情報システムー基礎調査データベース検索ー（第 4 回動植物分布調査）」 （環境省 HP、閲覧：平成 29 年 7 月）	16 種	スナヤツメ南方種、カワ ヤツメ、ニホンウナギ、 コイ、ギンブナ、ヤリタ ナゴ、オイカワ、タカハ ヤ、ウグイ、ムギツク、 カマツカ、ドジョウ、ニ シシマドジョウ、ナマ ズ、アカザ、アユ、ゴ ギ、サクラマス、ミナミ メダカ、カマキリ、カジ カ、オヤニラミ、ドン コ、カワヨシノボリ等 (55 種)
	「生物多様性情報システムー基礎調査データベース検索ー（第 5 回動植物分布調査）」 （環境省 HP、閲覧：平成 29 年 7 月）	14 種	
	「レッドデータブックとっとり 改訂版ー鳥取県の絶滅のおそれのある野生動植物ー」 （鳥取県生活環境部自然公園課、平成 24 年）	15 種	
	「鳥取県のすぐれた自然 動物編」（鳥取県、平成 5 年）	1 種	
	「日野川の清流を守るために 環境調査報告書」（岸本町、昭和 56 年）	39 種	
	「南部町の生きものたち」（南部町 HP、閲覧：平成 29 年 7 月）	7 種	
	「岸本町誌」（岸本町、昭和 58 年）	23 種	
	「溝口町誌」（溝口町、昭和 48 年）	26 種	
	「西伯町誌」（西伯町、昭和 50 年）	17 種	
	「西伯町誌 完結編」（西伯町、平成 16 年）	17 種	
	「新修江府町史」（江府町、平成 20 年）	26 種	
	「日野町誌」（日野町、昭和 45 年）	23 種	

注：両生類、昆虫類、魚類の種名は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 平成 28 年度生物リスト」（河川環境データベ
ース 国土交通省、平成 28 年）に準拠した。

第 3. 1-24 表 (3) 動物相の概要

分類	文献名	確認 種数	主な確認種
底生動物	「生物多様性情報システムー基礎調査データベース検索ー（第 4 回動植物分布調査）」 （環境省 HP、閲覧：平成 29 年 7 月）	1 種	ナミウズムシ、オオタニシ、カワニナ、モノアラガイ、マツカサガイ、タガイ、マシジミ、シマイシビル、ミズムシ（甲）、イソコツブムシ、スジエビ、アメリカザリガニ、サワガニ、モクズガニ等 (16 種)
	「生物多様性情報システムー基礎調査データベース検索ー（第 5 回動植物分布調査）」 （環境省 HP、閲覧：平成 29 年 7 月）	0 種	
	「レッドデータブックとっとり 改訂版ー鳥取県の絶滅のおそれのある野生動植物ー」 （鳥取県生活環境部自然公園課、平成 24 年）	0 種	
	「日野川の清流を守るために 環境調査報告書」（岸本町、昭和 56 年）	8 種	
	「南部町の生きものたち」（南部町 HP、閲覧：平成 29 年 7 月）	6 種	
	「岸本町誌」（岸本町、昭和 58 年）	3 種	
	「西伯町誌」（西伯町、昭和 50 年）	7 種	
	「西伯町誌 完結編」（西伯町、平成 16 年）	10 種	
	「新修江府町史」（江府町、平成 20 年）	1 種	
	合計	1,308 種	

注：底生動物の種名は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 平成 28 年度生物リスト」（河川環境データベース 国土交通省、平成 28 年）に準拠した。

事業実施想定区域及びその周囲では、哺乳類は、「生物多様性情報システムー基礎調査データベース検索ー（第 2 回、4 回、5 回、6 回動植物分布調査）」（環境省 HP、閲覧：平成 29 年 7 月）によると、ニホンザル、ヌートリア、タヌキ、キツネ、テン、イタチ、ニホンアナグマ、イノシシ、ニホンジカ等が確認されている。

鳥類は、「生物多様性情報システムー基礎調査データベース検索ー（第 2 回、3 回動植物分布調査）」（環境省 HP、閲覧：平成 29 年 7 月）では、キジバト、ヨタカ、サシバ、アオバズク、ヤマセミ、アオゲラ、ハシボソガラス、トラツグミ、ホオジロ等が確認されている。

「生物多様性情報システム ガンカモ類の生息調査」（環境省 HP、閲覧：平成 29 年 7 月）においては、ガン、カモ、ハクチョウ類の渡来数が掲載されている。事業実施想定区域及びその周囲の北西方向約 15km に位置する米子水鳥公園近傍の調査地点「中海」の結果は、第 3.1-25 表のとおりである。平成 22 年度から平成 26 年度までの調査において、オオハクチョウ、コハクチョウ、コブハクチョウ、マガン、ヒシクイ、マガモ、カルガモ、コガモ、ヨシガモ、オカヨシガモ、ヒドリガモ、オナガガモ、ハシビロガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、スズガモ、トモエガモ、シノリガモ、ホオジロガモ、ウミアイサ、ミコアイサ、ツクシガモ、アメリカヒドリの計 23 種とその他カモ類種不明が確認されている。

「鳥類等に関する風力発電施設立地適正化のための手引き」（環境省、平成 23 年、平成 27 年修正版）によると、第 3.1-21 図のとおり、事業実施想定区域周囲においてノスリの渡り経路が確認されているが、サシバ及びハチクマの渡り経路は第 3.1-22 図、第 3.1-23 図のとおり確認されていない。また、イヌワシ、クマタカの生息については、第 3.1-24 図のとおり、事業実施想定区域を含むメッシュで確認されている。

爬虫類は、「生物多様性情報システムー基礎調査データベース検索ー（第 5 回動植物分布調査）」（環境省 HP、閲覧：平成 29 年 7 月）によると、ニホンイシガメ、ニホンヤモリ、ニホントカゲ、ニホンカナヘビ、アオダイショウ、ジムグリが確認されている。

両生類は、生物多様性情報システムー基礎調査データベース検索ー（第 4 回、5 回動植物分布調査）」（環境省 HP、閲覧：平成 29 年 7 月）によると、アカハライモリ、ニホンヒキガエル、ニホンアマガエル、ニホンアカガエル、トノサマガエル、ツチガエル、シュレーゲルアオガエル等が確認されている。

昆虫類は、生物多様性情報システムー基礎調査データベース検索ー（第 2 回、4 回、5 回動植物分布調査）」（環境省 HP、閲覧：平成 29 年 7 月）によると、オオアオイトトンボ、ムカシトンボ、ハルゼミ、タガメ、オオミドリシジミ、オオヒカゲ、オオムラサキ、ギフチョウ、ゲンゴロウ、オオミズスマシ等が確認されている。

魚類は、「生物多様性情報システムー基礎調査データベース検索ー（第 4 回、5 回動植物分布調査）」（環境省 HP、閲覧：平成 29 年 7 月）によると、スナヤツメ南方種、コイ、ヤリタナゴ、オイカワ、カマツカ、ドジョウ、ニシシマドジョウ、アユ、サクラマス（ヤマメ）、ドンコ、カワヨシノボリ等が確認されている。

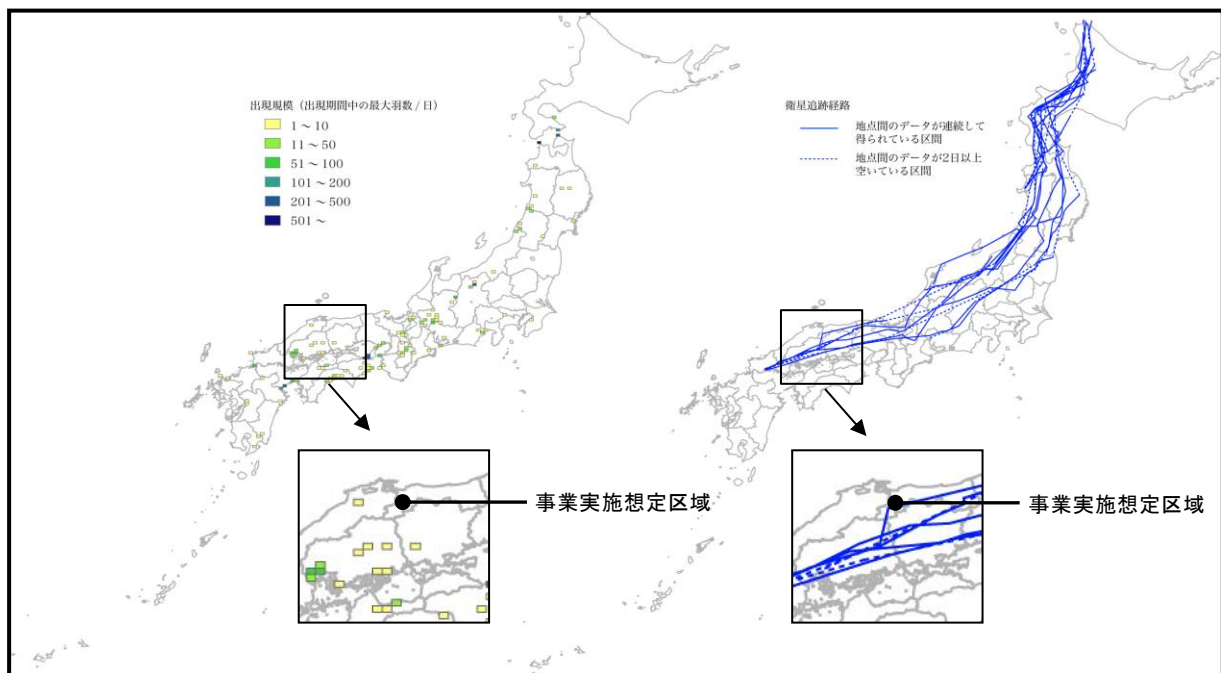
底生動物は、「日野川の清流を守るために 環境調査報告書」（岸本町、昭和 56 年）に

よると、ナミウズムシ、カワニナ、マシジミ、シマイシビル、ミズムシ（甲）、モクズガ
二等が確認されている。

第 3.1-25 表 ガンカモ類の渡来状況

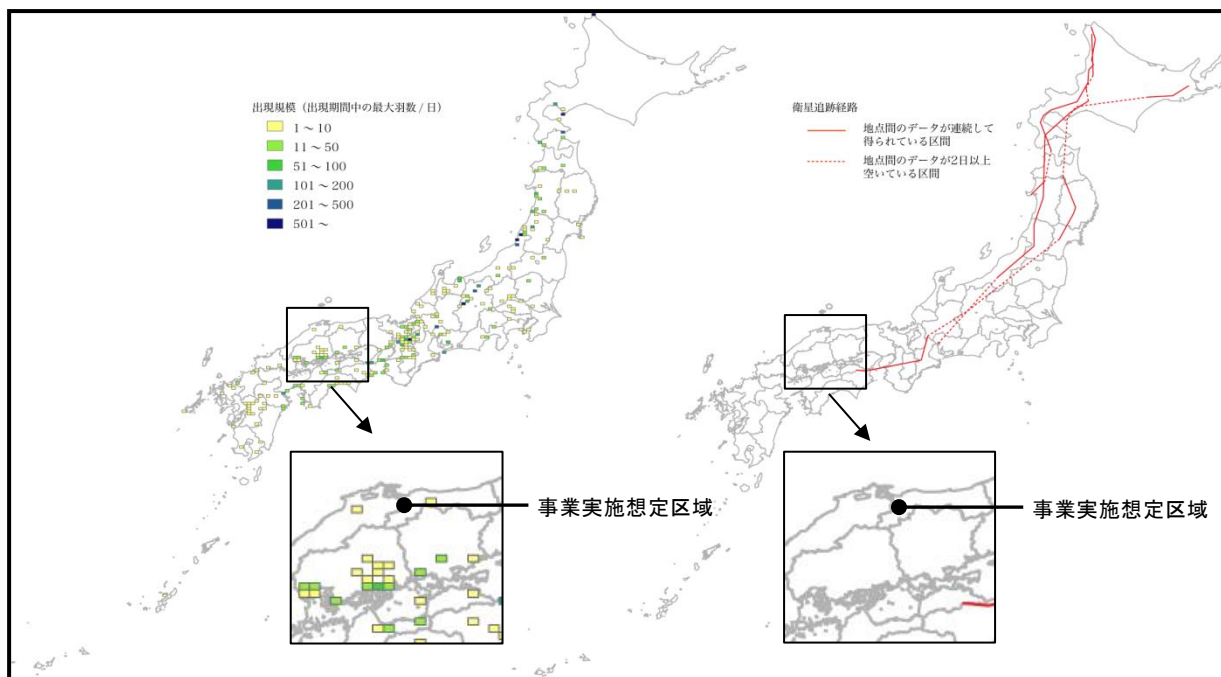
調査地点 (事業実施想 定区域までの およその距 離)	調査年度	オオハクチョウ	コハクチョウ	コブハクチョウ	マガン	ヒシクイ	マガモ	カルガモ	コガモ	ヨシガモ	オカヨシガモ	ヒドリガモ	オナガガモ	ハシビロガモ	ホシハジロ	キンクロハジロ	スズガモ	トモエガモ	シノリガモ	ホオジロガモ	ウミアイサ	ミコアイサ	ツクシガモ	アメリカヒドリ	カモ類種不明
中海 (約 15km)	平成 22 年度		8				364	271	482		34	90	1,763	18	477	1,808	712			47	6	16	1		510
	平成 23 年度		89		9		1,135	635	510	2	54	192	1,928	75	286	758	339	20		46	10	4	2	1	50
	平成 24 年度	6	329		4		395	535	293		62	143	1,028	48	321	712	429			53	3	2	7		270
	平成 25 年度		95	8	72		911	998	293		64	188	446	12	179	461	381	2		75	6	1	11		
	平成 26 年度	4	71		15		889	862	284		77	154	428	18	162	400	230		2	168	8		6		311
	平成 27 年度		61		146	7	657	1,162	190	3	36	115	501	17	156	387	469	8		96	5	5	10		65

「生物多様性情報システム ガンカモ類生息調査」(環境省HP、閲覧：平成 29 年 8 月)
より作成



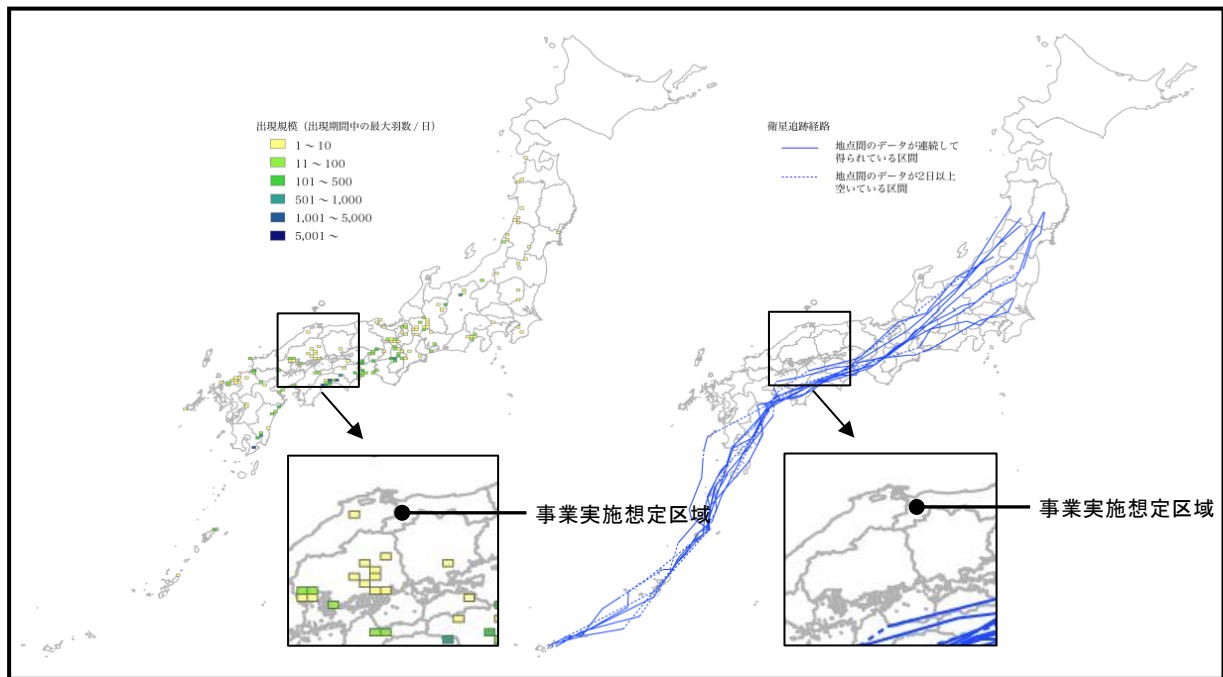
〔「鳥類等に関する風力発電施設立地適正化のための手引き」（環境省、平成 23 年、平成 27 年修正版）より作成〕

第 3.1-21 図(1) ノスリの渡り経路（春季）



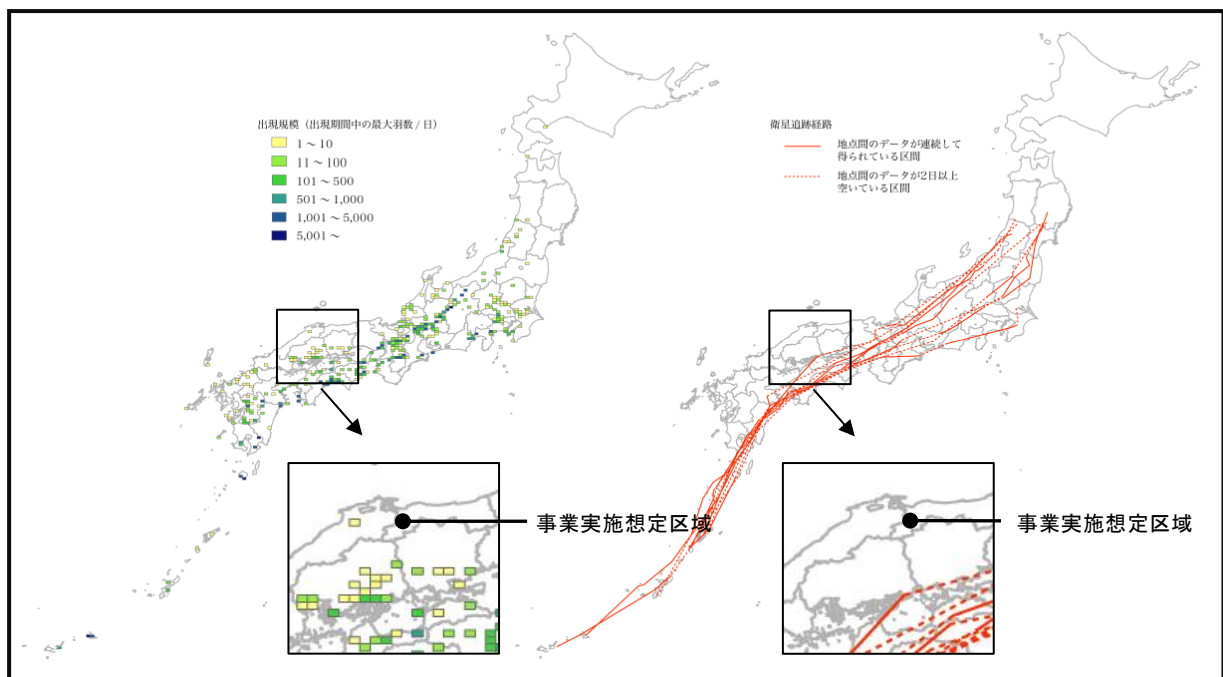
〔「鳥類等に関する風力発電施設立地適正化のための手引き」（環境省、平成 23 年、平成 27 年修正版）より作成〕

第 3.1-21 図(2) ノスリの渡り経路（秋季）



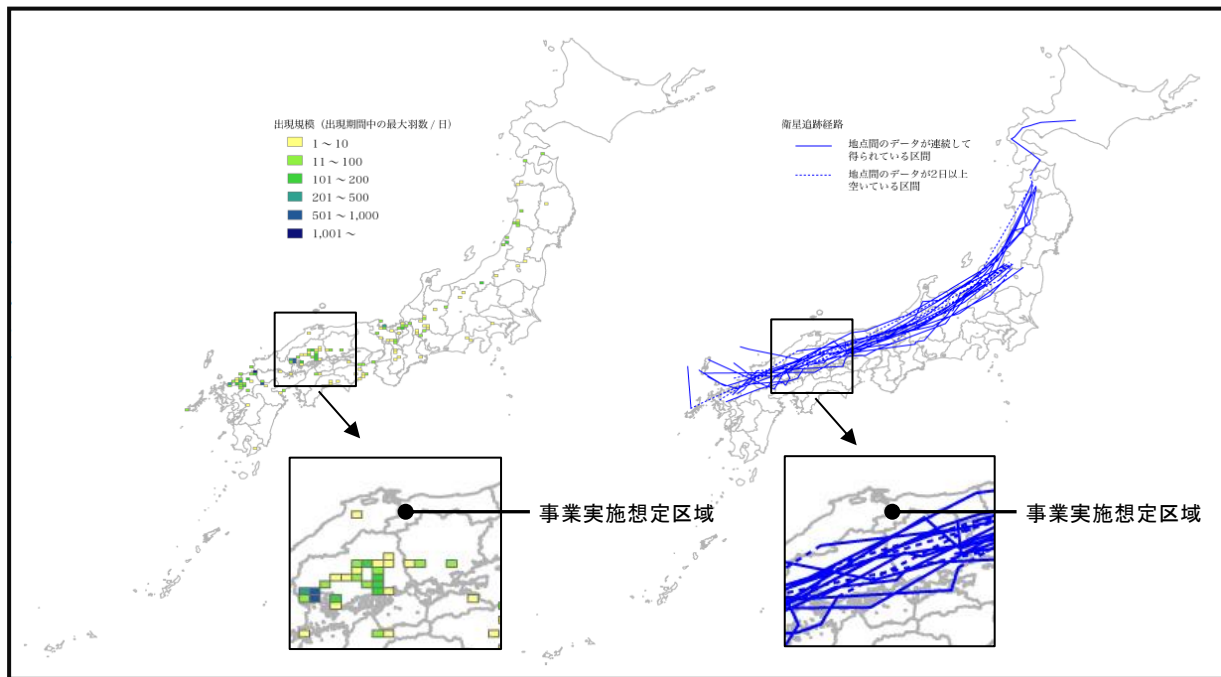
〔「鳥類等に関する風力発電施設立地適正化のための手引き」（環境省、平成 23 年、平成 27 年修正版）より作成〕

第 3.1-22 図(1) サシバの渡り経路（春季）



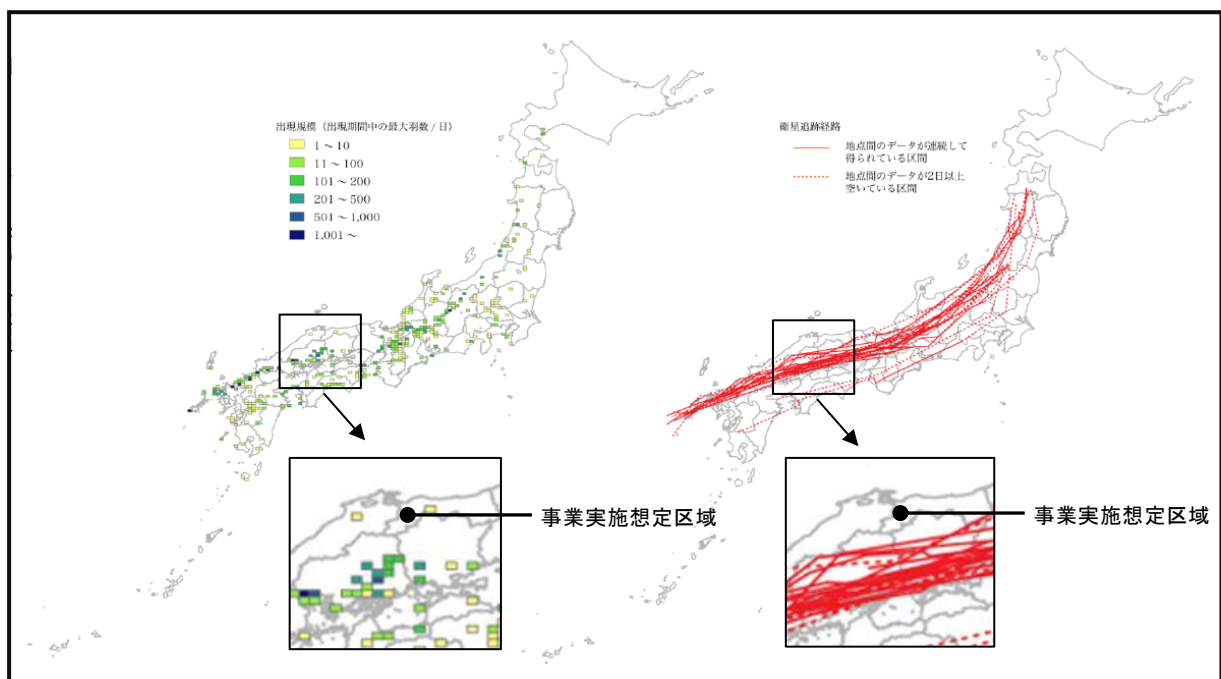
〔「鳥類等に関する風力発電施設立地適正化のための手引き」（環境省、平成 23 年、平成 27 年修正版）より作成〕

第 3.1-22 図(2) サシバの渡り経路（秋季）



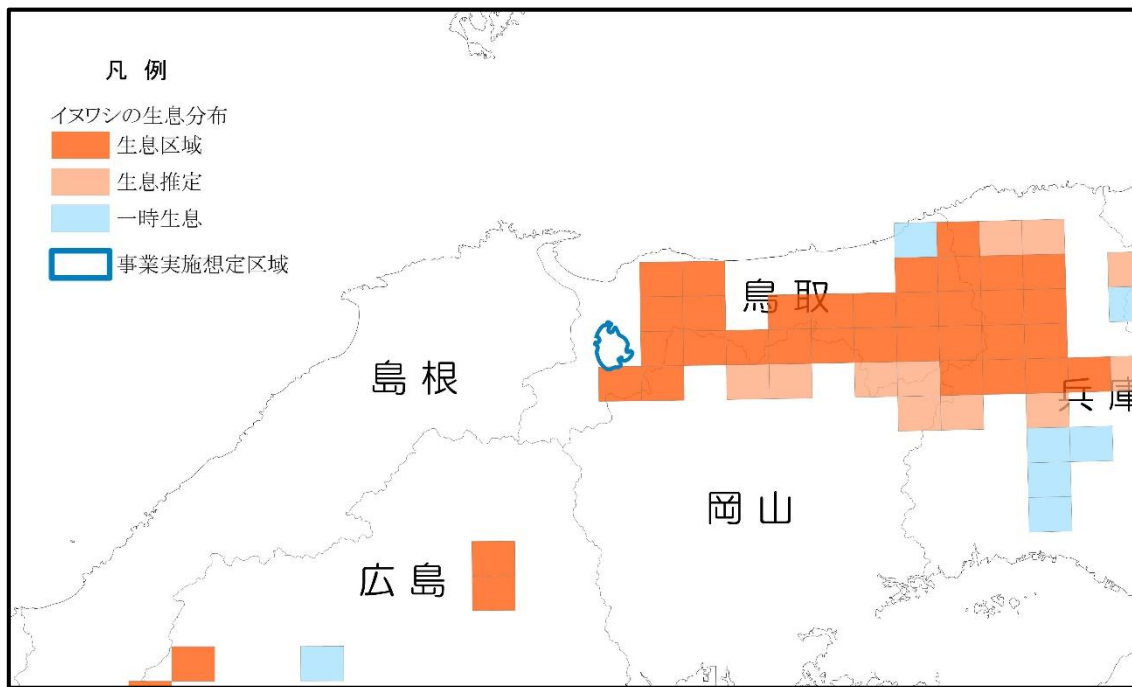
〔「鳥類等に関する風力発電施設立地適正化のための手引き」(環境省、平成 23 年、平成 27 年修正版) より作成〕

第 3.1-23 図(1) ハチクマの渡り経路(春季)



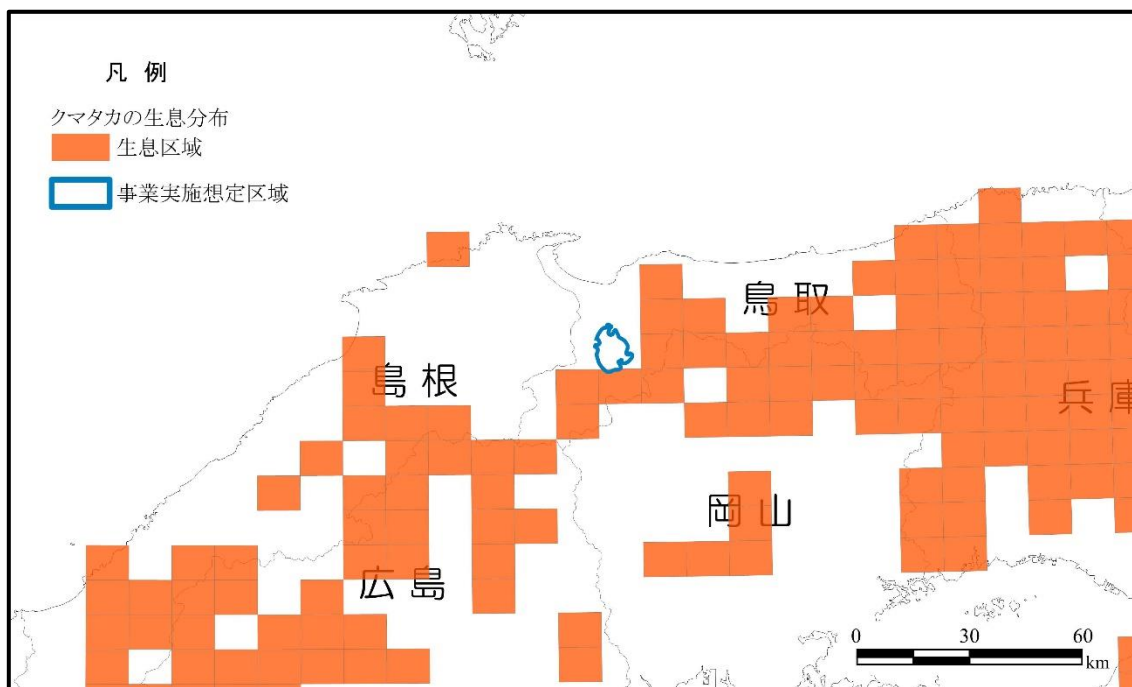
〔「鳥類等に関する風力発電施設立地適正化のための手引き」(環境省、平成 23 年、平成 27 年修正版) より作成〕

第 3.1-23 図(2) ハチクマの渡り経路(秋季)



〔「鳥類等に関する風力発電施設立地適正化のための手引き」(環境省、平成23年、平成27年修正版)より作成〕

第3.1-24 図(1) 2次メッシュにおけるイヌワシの生息分布



〔「鳥類等に関する風力発電施設立地適正化のための手引き」(環境省、平成23年、平成27年修正版)より作成〕

第3.1-24 図(2) 2次メッシュにおけるイクマタカの生息分布

(2) 動物の重要な種

動物の重要な種は、「(1) 動物相の概要」の文献その他の資料で確認された種について、第 3.1-26 表の選定根拠に基づき、学術上または希少性の観点から選定した。その結果は第 3.1-27 表のとおり、哺乳類では、カワネズミ、コキクガシラコウモリ、ヤマコウモリ、ニホンリス、ホンドモモンガ、ムササビ、ツキノワグマ等の 11 種が確認されている。また、鳥類では、オシドリ、チュウサギ、ヨタカ、オオタカ、クマタカ、イヌワシ、ヤマセミ、ブッポウソウ、トラツグミ等の 70 種、爬虫類では、ニホンイシガメ、ニホンスッポン、シロマダラの 3 種、両生類では、カスミサンショウウオ、ブチサンショウウオ、ヒダサンショウウオ、ハコネサンショウウオ、オオサンショウウオ、アカハライモリ、トノサマガエル等の 10 種、昆虫類では、ムカシトンボ、ハルゼミ、タガメ、オオミドリシジミ、オオムラサキ、ゲンゴロウ、ミズスマシ、ガムシ等の 96 種が確認されている。魚類では、スナヤツメ南方種、カワヤツメ、ニホンウナギ、ヤリタナゴ、ゴギ、ミナミメダカ、カジカ等の 21 種が確認されている。底生動物では、オオタニシ、モノアラガイ、マツカサガイ、タガイ、マシジミの 5 種が確認されている。

第 3.1-26 表(1) 動物の重要な種の選定基準

選定基準		文献その他の資料
①	「文化財保護法」(昭和 25 年法律第 214 号)に基づく天然記念物 「鳥取県文化財保護条例」(昭和 34 年条例第 50 号)及び「伯耆町文化財保護条例」(平成 17 年条例第 103 号)、「南部町文化財保護条例」(平成 16 年条例第 91 号)、「江府町文化財保護条例」(昭和 51 年条例第 10 号)、「日野町文化財保護条例」(昭和 51 年条例第 31 号)に基づく指定文化財	特天：特別天然記念物 天：天然記念物
②	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成 4 年法律第 75 号)に基づく国内希少野生動植物種等	国内：国内希少野生動植物種 緊急：緊急指定種
		「国指定文化財等データベース」(文化庁 HP)、「とっとり文化財ナビ」(鳥取県 HP)、「伯耆町指定文化財」(伯耆町 HP)、「南部町文化財の保護」(南部町 HP)、「江府町の指定文化財」(江府町 HP)、「日野町 HP」※いずれも平成 29 年 7 月に閲覧
		「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律施行令」(平成 5 年政令第 17 号)

第 3. 1-26 表(2) 動物の重要な種の選定基準

選定基準			文献その他の資料
③	「環境省レッドリスト 2017」(環境省、平成 29 年)の掲載種	<p>EX: 絶滅…我が国ではすでに絶滅したと考えられる種</p> <p>EW: 野生絶滅…飼育・栽培下でのみ存続している種</p> <p>CR+EN: 絶滅危惧種 I 類…絶滅の危機に瀕している種。 現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、野生での存続が困難なもの</p> <p>CR: 絶滅危惧 IA 類…ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの</p> <p>EN: 絶滅危惧 IB 類…IA 類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの</p> <p>VU: 絶滅危惧 II 類…絶滅の危険が増大している種</p> <p>NT: 準絶滅危惧…現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種</p> <p>DD: 情報不足…評価するだけの情報が不足している種</p> <p>LP: 絶滅のおそれのある地域個体群…地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの</p>	「環境省レッドリスト 2017 の公表について」(環境省、平成 27 年)
④	「レッドデータブックとっとり 改訂版—鳥取県の絶滅のおそれのある野生動植物—」(鳥取県生活環境部自然公園課、平成 24 年)の掲載種	<p>EX: 絶滅…鳥取県では既に絶滅したと考えられる種</p> <p>EW: 野生絶滅…野生では絶滅し、栽培下のみで存続している種</p> <p>CR+EN: 絶滅危惧 I 類…絶滅の危機に瀕している種。現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、野生での存続が困難なもの</p> <p>VU: 絶滅危惧 II 類…絶滅の危機が増大している種。現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧 I 類」のカテゴリーに移行することが確実と考えられるもの</p> <p>NT: 準絶滅危惧…存続基盤が脆弱な種。現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位カテゴリーに移行する要素を有するもの</p> <p>DD: 情報不足…評価するだけの情報が不足している種</p> <p>OT: その他の保護上重要な種…鳥取県の地理的な自然特性等から保護上重要度の高い種</p>	「レッドデータブックとっとり 改訂版—鳥取県の絶滅のおそれのある野生動植物—」(鳥取県生活環境部自然公園課、平成 24 年)
⑤	「鳥取県希少野生動植物の保護に関する条例」(平成 13 年 12 月 21 日鳥取県条例第 51 号)に基づく希少野生動植物等	<p>特定: 特定希少野生動植物…希少野生動植物のうち、特に保護を図る必要があるものとして第 4 条の規定により知事が指定する種に該当するものをいう。</p> <p>希少: 希少野生動植物…県内に生息し、又は生育する動植物の種(亜種又は変種がある種にあっては、その亜種又は変種とする。以下同じ。)のうち、次の各号のいずれかに該当するものとして知事が公告する種に該当するものをいう。</p> <p>(1) 種の存続に支障を来す程度にその個体の数が著しく少ない野生動植物の種</p> <p>(2) その個体の数が著しく減少しつつある野生動植物の種</p> <p>(3) その個体の主要な生息地又は生育地が消滅しつつある野生動植物の種</p> <p>(4) その個体の生息又は生育の環境が著しく悪化しつつある野生動植物の種</p>	「鳥取県希少野生動植物の保護に関する条例」(平成 13 年 12 月 21 日鳥取県条例第 51 号)に基づく希少野生動植物等
⑥	「自然公園法」(昭和 32 年法律第 69 号)に基づく指定動物	指定: 大山隠岐国立公園(大山蒜山地域、三瓶山地域)の指定動物	「国立・国定公園内における動物の保護対策について」(環境省 HP、閲覧: 平成 29 年 7 月)

第 3.1-27 表(1) 文献その他の資料による動物の重要な種

No.	分類群	目名	科名	種名	確認町				選定基準					
					伯耆町	南部町	江府町	日野町	①	②	③	④	⑤	⑥
1	哺乳類	モグラ（食虫）	トガリネズミ	カワネズミ	○							NT		
2			モグラ	アズマモグラ	○	○	○	○				NT		
3		コウモリ（翼手）	キクガシラコウモリ	コキクガシラコウモリ	○							NT		
4				キクガシラコウモリ	○		○	○				DD		
5			ヒナコウモリ	ヤマコウモリ	○		○	○			VU	DD		
6		サル（霊長）	オナガザル	ニホンザル	○	○	○	○				DD		
7		ネズミ（齧歯）	リス	ニホンリス	○	○	○	○			LP※ ¹	NT		
8				ホンドモモンガ	○			○				NT※ ²	希少	
9				ムササビ	○	○	○	○				NT		
10		ネコ（食肉）	クマ	ツキノワグマ	○	○	○	○			LP※ ³	VU	希少	
11			イタチ	イタチ	○	○	○	○				NT※ ⁴		
12	鳥類	キジ	キジ	ウズラ	○						VU			
13		カモ	カモ	ヒシクイ		○			天		VU	VU	希少	
14				マガン	○	○	○	○	天		NT	NT		
15				コハクチョウ		○						NT		
16				オオハクチョウ		○						VU	希少	
17				ツクシガモ							VU	VU		
18				オシドリ	○	○	○	○			DD	NT		
19				ヨシガモ	○	○	○	○				NT		
20				トモエガモ	○	○	○	○			VU	VU	希少	
21				シノリガモ								VU		
22				ホオジロガモ	○	○	○	○				NT		
23				ミコアイサ	○	○	○	○				NT		
24		ペリカン	サギ	ミゾゴイ	○	○	○	○			VU	CR+EN		
25				ササゴイ	○	○	○	○				NT		
26				チュウサギ	○	○	○	○			NT	NT		
27				クロサギ	○	○	○	○				NT		
28			トキ	ヘラサギ	○	○	○	○			DD	CR+EN	希少	
29				クロツラヘラサギ	○	○	○	○			EN	CR+EN	希少	
30		ツル	クイナ	クイナ		○		○				NT		
31				ヒクイナ				○				NT		
32		ヨタカ	ヨタカ	ヨタカ	○	○	○	○			NT	VU		

第 3. 1-27 表(2) 文献その他の資料による動物の重要な種

No.	分類群	目名	科名	種名	確認町				選定基準					
					伯耆町	南部町	江府町	日野町	①	②	③	④	⑤	⑥
33	鳥類	チドリ	チドリ	タゲリ	○	○	○	○				NT		
34				イカルチドリ	○	○	○	○				NT		
35				シロチドリ	○	○					VU			
36			シギ	オオジシギ	○		○				NT	CR+EN		
37				ハマシギ				○			NT			
38			カモメ	シロカモメ	○	○	○	○				NT		
39				コアジサシ	○						VU	CR+EN	特定	
40		タカ	ミサゴ	ミサゴ	○	○	○	○			NT	NT		
41			タカ	ハチクマ	○	○	○	○			NT	NT		
42				オジロワシ	○	○	○	○	天	国内	VU	CR+EN	希少	
43				チュウヒ	○	○	○	○			EN	VU	希少	
44				ハイイロチュウヒ	○	○	○	○				VU	希少	
45				ツミ	○	○	○	○				NT		
46				ハイタカ	○	○	○	○			NT	NT		
47				オオタカ	○	○	○	○		国内	NT	NT	希少	
48				サシバ	○	○	○	○			VU	VU		
49				ノスリ	○	○	○	○				NT		
50				イヌワシ	○		○	○	天	国内	EN	CR+EN	特定	
51				クマタカ	○	○	○	○		国内	EN	CR+EN	特定	
52		フクロウ	フクロウ	コノハズク	○	○	○	○				VU	希少	
53				フクロウ	○	○	○	○				NT		
54				アオバズク	○	○	○	○				NT		
55		ブッポウソウ	カワセミ	アカショウビン	○	○	○	○				NT		
56				ヤマセミ	○	○	○	○				NT		
57		ブッポウソウ	ブッポウソウ	ブッポウソウ	○	○	○	○			EN	CR+EN	特定	
58		キツツキ	キツツキ	オオアカゲラ		○						NT		
59		ハヤブサ	ハヤブサ	コチョウゲンボウ	○	○	○	○				NT		
60				ハヤブサ	○	○	○	○		国内	VU	VU	希少	
61		スズメ	ヤイロチョウ	ヤイロチョウ	○					国内	EN	CR+EN	希少	
62			サンショウクイ	サンショウクイ	○	○	○	○			VU	NT		

第 3. 1-27 表 (3) 文献その他の資料による動物の重要な種

No.	分類群	目名	科名	種名	確認町				選定基準					
					伯耆町	南部町	江府町	日野町	①	②	③	④	⑤	⑥
63	鳥類	スズメ	カササギヒタキ	サンコウチョウ	○	○	○	○				NT		
64			カラス	ホシガラス	○		○	○				VU	希少	
65			キクイタダキ	キクイタダキ	○	○	○	○				NT		
66			ツバメ	コシアカツバメ	○	○	○	○				VU		
67			ムシクイ	亜種メボソムシクイ	○		○	○				CR+EN ※5		
68				エゾムシクイ			○					DD		
69			セッカ	セッカ	○	○	○	○				NT		
70			ゴジュウカラ	ゴジュウカラ	○	○	○	○				NT		
71			ヒタキ	マミジロ				○				NT		
72				トラツグミ	○	○	○	○				NT		
73				コマドリ	○			○				NT		
74				コルリ	○		○	○				NT		
75				ルリビタキ			○	○				DD		
76			セキレイ	ビンズイ	○			○				NT		
77			アトリ	ベニヒワ	○	○	○	○				NT		
78			ホオジロ	ホオアカ			○					CR+EN		
79				ノジコ		○					NT			
80				クロジ		○	○					NT		
81				コジュリン				○			VU			
82	爬虫類	カメ	イシガメ	ニホンイシガメ	○	○		○			NT	NT		
83			スッポン	ニホンスッポン	○	○	○	○			DD	DD		
84		有鱗	ナミヘビ	シロマダラ		○	○					DD		
85	両生類	有尾	サンショウウオ	カスミサンショウウオ	○	○	○				VU	VU	希少	
86				ブチサンショウウオ	○	○	○	○			NT	NT		
87				ヒダサンショウウオ	○	○	○	○			NT	NT		
88				ハコネサンショウウオ	○	○	○	○				NT		
89			オオサンショウウオ	オオサンショウウオ	○	○	○	○	特天		VU	VU	希少	
90			イモリ	アカハライモリ	○	○	○	○			NT	OT ^{※6}		
91		無尾	ヒキガエル	ニホンヒキガエル	○	○	○	○				OT		
92			アカガエル	ニホンアカガエル	○	○	○	○				NT		

第 3.1-27 表(4) 文献その他の資料による動物の重要な種

No.	分類群	目名	科名	種名	確認町				選定基準					
					伯耆町	南部町	江府町	日野町	①	②	③	④	⑤	⑥
93	両生類	無尾	アカガエル	トノサマガエル	○	○		○			NT			
94			アオガエル	カジカガエル	○	○	○	○				OT		
95	昆虫類	トンボ (蜻蛉)	アオイトトンボ	オツネントンボ			○	○				DD		
96			イトトンボ	モートンイトトンボ		○					NT	DD		
97			カワトンボ	アオハダトンボ	○	○	○	○			NT	NT		
98				ニホンカワトンボ	○	○	○	○				OT		
99				アサヒナカワトンボ	○	○	○	○				OT		
100			ムカシトンボ	ムカシトンボ	○	○	○	○	天※32					
101			ヤンマ	ルリボシヤンマ	○		○	○				NT		
102			サナエトンボ	ホンサナエ	○	○	○	○				NT		
103				オグマサナエ	○	○	○	○			NT	VU		
104			ムカシヤンマ	ムカシヤンマ	○	○	○	○				DD		
105			エゾトンボ	キイロヤマトンボ		○					NT	VU	希少	
106				ハネビロエゾトンボ	○	○	○	○			VU	VU	希少	
107				エゾトンボ	○	○	○	○				NT		
108			トンボ	ハッチョウトンボ	○	○	○	○				VU	希少	
109				コノシメトンボ	○	○	○	○				NT		
110				ヒメアカネ	○	○	○	○				NT		
111		バッタ (直翅)	キリギリス	ダイセンササキリモドキ			○					OT		
112			マツムシ	カヤコオロギ	○							VU		
113			バッタ	ショウリョウバッタモドキ	○	○	○	○				NT		
114			イナゴ	ヤマトフキバッタ	○	○	○	○				OT※7		
115		カメムシ (半翅)	セミ	ヒメハルゼミ	○	○	○	○				NT		
116				アカエゾゼミ				○				DD		
117				ハルゼミ	○	○	○	○				NT		
118			キジラミ	エノキカイガラキジラミ			○	○			NT	DD		
119			ミズムシ (昆)	ホッケミズムシ		○					NT	DD		
120				オオミズムシ		○					NT	NT		
121			コオイムシ	コオイムシ	○	○					NT	NT		
122				タガメ	○	○	○	○			VU	VU	希少	

第 3. 1-27 表 (5) 文献その他の資料による動物の重要な種

No.	分類群	目名	科名	種名	確認町				選定基準					
					伯耆町	南部町	江府町	日野町	①	②	③	④	⑤	⑥
123	昆虫類	カメムシ (半翅)	タイコウチ	ヒメミズカマキリ				○				DD		
124		ヘビトンボ	センブリ	ヤマトセンブリ		○					DD			
125		チョウ (鱗翅)	セセリチョウ	ホシチャバネセセリ			○	○			EN	CR+EN	希少	
126				キバネセセリ	○		○	○				VU	希少	
127				ギンイチモンジセセリ	○		○	○			NT	NT		
128				コキマダラセセリ			○					VU	希少	
129				スジグロチャバネセセリ北海道・本州・九州亜種	○	○	○	○			NT ^{※8}	NT ^{※9}		
130			シジミチョウ	オナガシジミ			○					OT		
131				スギタニルリシジミ本州亜種			○					NT ^{※10}		
132				キリシマミドリシジミ本州以南亜種			○					NT ^{※11}		
133				ヒサマツミドリシジミ	○							NT		
134				ヒロオビミドリシジミ	○	○	○	○				NT		
135				オオミドリシジミ	○	○	○	○				NT		
136				ウラジロミドリシジミ	○	○	○	○				NT		
137				クロミドリシジミ			○					NT		
138				ミヤマカラスシジミ	○			○				NT		
139				ウラナミアカシジミ	○	○	○	○				CR+EN	希少	
140				ミドリシジミ	○	○	○	○				NT		
141				クロシジミ	○		○	○			EN	CR+EN	希少	
142				ゴマシジミ中国・九州亜種	○	○	○	○			EN ^{※13}	VU ^{※12}	希少 ^{※12}	
143				ヒメシジミ本州・九州亜種	○		○				NT	VU ^{※14}	希少 ^{※14}	
144				キマダラルリツバメ	○	○	○				NT	NT	希少	
145				シルビアシジミ	○	○	○	○			EN	CR+EN	希少	
146			タテハチョウ	ウラギンスジヒョウモン	○	○	○	○			VU	CR+EN	希少	
147				ヒメヒカゲ本州西部亜種	○		○	○			EN ^{※16}	CR+EN	希少 ^{※15}	
148				メスグロヒョウモン	○	○	○	○				CR+EN	希少	
149				キマダラモドキ	○		○	○			NT	VU	希少	
150				ウスイロヒョウモンモドキ	○		○	○		国内	CR	CR+EN	特定	指定
151				ヒョウモンモドキ	○		○			国内	CR	EX		
152				クモガタヒョウモン	○		○	○				VU	希少	

第 3.1-27 表(6) 文献その他の資料による動物の重要な種

No.	分類群	目名	科名	種名	確認町				選定基準					
					伯耆町	南部町	江府町	日野町	①	②	③	④	⑤	⑥
153	昆虫類	チョウ（鱗翅）	タテハチョウ	ミスジチョウ	○		○	○				DD		
154				オオヒカゲ	○	○	○	○				NT		
155				シータテハ	○	○						EX		
156				オオムラサキ	○	○	○	○			NT	NT		
157			アゲハチョウ	ジャコウアゲハ本土亜種	○	○	○	○				NT※17		
158				ギフチョウ	○	○	○	○			VU	NT		
159			シロチョウ	ツマグロキチョウ	○	○	○	○			EN	NT	希少	
160				スジボソヤマキチョウ	○	○	○	○				VU		
161			スズメガ	モンホソバズメ	○	○	○	○				DD		
162			ヤガ	コシロシタバ	○	○	○	○			NT	DD		
163		コウチュウ（鞘翅）	ハンミョウ	ホソハンミョウ			○				VU	VU	希少	
164			ゲンゴロウ	クロゲンゴロウ	○	○	○	○			NT	VU		
165				ゲンゴロウ	○	○	○	○			VU	CR+EN	希少	
166				コガタノゲンゴロウ	○	○	○	○			VU	CR+EN	特定	
167				マルガタゲンゴロウ	○	○	○	○			VU	VU		
168				シマゲンゴロウ	○	○					NT			
169				ケシゲンゴロウ	○	○	○	○			NT			
170				シャープツブゲンゴロウ	○	○	○	○			NT			
171				ヒメシマチビゲンゴロウ			○	○				DD		
172			ミズスマシ	オオミズスマシ	○	○					NT			
173				ミズスマシ	○	○					VU			
174			ガムシ	ガムシ		○					NT			
175			クワガタムシ	オオクワガタ		○					VU	VU	希少	
176			コガネムシ	ダイコクコガネ	○		○	○			VU	CR+EN	希少	
177				ミヤマダイコクコガネ	○		○	○				CR+EN	希少	
178				オオチャイロハナムグリ	○		○	○			NT	NT		
179			ヒメドロムシ	ヨコミゾドロムシ	○	○	○	○			VU	NT	希少	
180				ハガマルヒメドロムシ				○			EN	DD		
181				セマルヒメドロムシ				○			VU	DD		
182				ケスジドロムシ	○	○	○	○			VU	NT		

第 3.1-27 表 (7) 文献その他の資料による動物の重要な種

No.	分類群	目名	科名	種名	確認町				選定基準						
					伯耆町	南部町	江府町	日野町	①	②	③	④	⑤	⑥	
183	昆虫類	コウチュウ（鞘翅）	ジョウカイボン	ジョウカイボン西日本亜種	○	○	○	○				OT※18			
184			ホタル	ヒメボタル		○						DD			
185			ハムシ	クロガネネクイハムシ				○	○				VU		
186				キンイロネクイハムシ			○				NT	DD			
187				ツヤネクイハムシ			○	○				VU			
188				キヌツヤミズクサハムシ			○	○				VU※19	希少※19		
189		ハチ（膜翅）	ドロバチモドキ	ニッポンハナダカバチ			○				VU	VU	希少		
190			アナバチ	フクイアナバチ			○				NT	DD			
191	魚類	ヤツメウナギ	ヤツメウナギ	スナヤツメ南方種	○	○	○	○				VU	VU※20	希少※20	
192				カワヤツメ	○	○	○	○				VU	DD		
193				カワヤツメ属	○							VU※21	VU,DD ※22		
194		ウナギ	ウナギ	ニホンウナギ	○	○		○				EN			
195		コイ	コイ	ヤリタナゴ	○	○	○	○				NT	NT		
196				ミナミアカヒレタビラ	○	○	○	○				CR	CR+EN	特定※23	
197			ドジョウ	ドジョウ	○	○	○	○				DD			
198				サンインコガタスジシマドジョウ	○	○	○	○				EN	NT※24		
199				ナガレホトケドジョウ	○			○				EN	CR+EN		
200		ナマズ	アカザ	アカザ	○	○	○	○				VU	CR+EN	希少	
201		サケ	サケ	ニッコウイワナ	○	○	○	○				DD	NT		
202				ゴギ	○	○	○	○				VU	VU	希少	
203				サクラマス	○	○	○	○				NT※25	NT※26		
				サクラマス（ヤマメ）	○	○	○	○				NT	NT※26		
204				サツキマス（アマゴ）			○					NT			
205		ダツ	メダカ	ミナミメダカ	○	○	○	○				VU	VU※27	希少※27	
206		カサゴ	カジカ	カマキリ	○	○	○	○				VU※28	NT※29		
207				カジカ	○	○	○	○				NT※30	VU※30	希少	
208				カジカ属	○		○	○				EN、NT ※31	VU※30		
209		スズキ	ケツギョ	オヤニラミ	○	○	○	○				EN	DD		
210			カワアナゴ	カワアナゴ	○	○	○	○					NT		

第 3.1-27 表 (8) 文献その他の資料による動物の重要な種

No.	分類群	目名	科名	種名	確認町				選定基準					
					伯耆町	南部町	江府町	日野町	①	②	③	④	⑤	⑥
211	魚類	スズキ	ハゼ	オオヨシノボリ	○	○	○	○				NT		
212	底生動物	原始紐舌	タニシ	オオタニシ		○					NT	NT		
213		基眼	モノアラガイ	モノアラガイ		○					NT	NT		
214		イシガイ	イシガイ	マツカサガイ		○					NT	CR+EN		
215				タガイ		○						VU		
216		マルスダレガイ	シジミ	マシジミ	○	○	○				VU	NT		
合計	7 類	40 目	99 科	216 種	165 種	151 種	165 種	162 種	6 種	8 種	114 種	198 種	56 種	1 種

注：1. 哺乳類、爬虫類、両生類、昆虫類及び魚類の種名は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 平成 28 年度生物リスト」（河川環境データベース 国土交通省、平成 28 年）、鳥類の種名は、「日本鳥類目録 改訂第 7 版」（日本鳥学会、平成 24 年）に準拠した。

2. 選定基準は、第 3.1-26 表に対応する。各選定基準の原記載は次のとおりである。

※1：中国地方のニホンリスで掲載、※2：ニホンモモンガで掲載、※3：西中国地域のツキノワグマで掲載、※4：ニホンイタチで掲載、※5：メボソムシクイで記載、※6：アカハライモリ(イモリ)で掲載、※7：セトウチフキバツタで掲載、※8：スジグロチャバネセセリ名義タイプ亜種で掲載、※9：スジグロチャバネセセリで掲載、※10：スギタニルリシジミで掲載、※11：キシマミドリシジミで掲載、※12：ゴマシジミで掲載、※13：ゴマシジミ中国地方・九州亜種で掲載、※14：ヒメシジミで掲載、※15：ヒメヒカゲで掲載、※16：ヒメヒカゲ本州中部・近畿・中国地方亜種で掲載、※17：ジャコウアゲハで掲載、※18：ジョウカイボンで掲載、※19：スゲハムシで掲載、※20：スナヤツメで掲載、※21：スナヤツメ南方種、カワヤツメで掲載、※22：スナヤツメ、カワヤツメで掲載、※23：アカヒレタビラで掲載、※24：スジシマドジョウ种群小型種山陰型で掲載、※25：サクラマス（ヤマメ）で掲載、※26：ヤマメ・サクラマスで掲載、※27：メダカで掲載、※28：カマキリ（アユカケ）で掲載、※29：アユカケで掲載、※30：カジカ大卵型で掲載、※31：カジカ中卵型、カジカ大卵型で掲載、※32：「江府町文化財保護条例」（昭和 51 年条例第 31 号）による天然記念物。

(3) 動物の注目すべき生息地

動物に係る天然記念物の一覧は第 3.1-28 表のとおりである。

事業実施想定区域の周囲に位置する 4 町では、「鳥取県のすぐれた自然 動物編」（鳥取県、平成 5 年）及び「レッドデータブックとっとり 改訂版－鳥取県の絶滅のおそれのある野生動植物－」（鳥取県生活環境部自然公園課、平成 24 年）によると特別天然記念物であるオオサンショウウオの生息情報がある。また、同文献によると、ヒシクイ、マガン、オジロワシは米子水鳥公園など海岸沿いが主要な生息地であり、日野川沿いに確認記録がある。それに加え、「鳥取県のすぐれた自然 動物編」（鳥取県、平成 5 年）によると、江府町、日野町、伯耆町（旧溝口町）でムカシトンボの生息が確認されている。

動物の注目すべき生息地としては、「鳥取県のすぐれた自然 動物編」（鳥取県、平成 5 年）によると、事業実施想定区域の南側に位置する鵜ノ池周辺及び毛無山～宝仏山が挙げられている。鵜ノ池周辺は、県鳥であるオシドリが集団越冬地であり、鳥類ではミヤマホオジロ、クマタカ、サシバ、ハチクマ、オオルリ等、爬虫類ではニホンマムシ、アオダイショウ等、両生類ではニホンイモリ、モリアオガエル等、昆虫類ではヒロオビミドリシジミ、クロシジミ等の生息地となっており、毛無山～宝仏山ではワシ・タカ類やヤマドリ、コルリ等の生息が確認されている。

第 3.1-28 表 天然記念物（動物関係）

指定	名称	指定年月日	所在地
特別天然記念物	オオサンショウウオ	昭和 27 年 3 月 29 日	地域を限らず
天然記念物	ヒシクイ	昭和 46 年 6 月 28 日	地域を限らず
	マガン	昭和 46 年 6 月 28 日	地域を限らず
	オジロワシ	昭和 45 年 1 月 23 日	地域を限らず
	イヌワシ	昭和 40 年 5 月 12 日	地域を限らず
町	ムカシトンボ	昭和 55 年 12 月 15 日	日野郡江府町

「国指定文化財等データベース」（文化庁 HP、閲覧：平成 29 年 7 月）
「江府町の指定文化財 江府町の町指定文化財」（江府町 HP、閲覧：平成 29 年 7 月）より作成

2. 植物の生育及び植生の状況

植物相及び植生の状況は、当該地域の自然特性を勘案し、事業実施想定区域及びその周囲を対象に、文献その他の資料（「レッドデータブックとっとり 改訂版－鳥取県の絶滅のおそれのある野生動植物－」（鳥取県生活環境部自然公園課、平成 24 年）、伯耆町（旧岸本町、溝口町）、南部町（旧西伯町、会見町）、江府町及び日野町の各町誌等）により整理した。なお、会見町誌には植物相の概要整理に資する記述は認められなかった。

また、「自然環境保全基礎調査（植生調査）」については、主に事業実施想定区域が含まれる 2 次メッシュとして「母里」、「伯耆溝口」、「井尻」、「江尾」、「印賀」及び「根雨」を対象とした。調査範囲は第 3.1-20 図に示す。

(1) 植物相の概要

事業実施想定区域及びその周囲の植物相の概要は第 3.1-29 表のとおりであり、維管束植物（シダ植物及び種子植物）632 種が確認されている。

第 3.1-29 表 植物相の概要

分 類				主な確認種
シダ植物				スギナ、ゼンマイ、ワラビ、コタニワタリ、ベニシダ、ヘイケイヌワラビ、マメツタ、ノキシノブ等 (54 種)
種子植物	裸子植物			モミ、アカマツ、クロマツ、スギ、ヒノキ、ネズ、アスナロ、イチイ、キャラボク、カヤ等 (19 種)
	被子植物	双子葉類	離弁花類	オニグルミ、カワヤナギ、ミヤマハンノキ、ブナ、コナラ、エノキ、ケヤキ、ミズヒキ、ホオノキ、ヤブニッケイ、アケビ、ヒサカキ、ウツギ、モウセンゴケ、ワレモコウ、イヌザンショウ、ナナカマド、ネムノキ、ウリハダカエデ、トチノキ、タラノキ等 (289 種)
			合弁花類	イワカガミ、ギンリョウソウ、リョウブ、ヤマツツジ、サクラソウ、リンドウ、センブリ、クサギ、ナンバンギセル、オミナエシ、マツムシソウ、キキョウ、ノアザミ、ヨモギ、フキ、コウリンカ等 (169 種)
		単子葉類		ヒルムシロ、カタクリ、ササユリ、サルトリイバラ、バイケイソウ、ススキ、ネザサ、ミクリ、サンカクイ、エビネ、シュンラン、セッコク等 (101 種)
合 計				632 種

「レッドデータブックとっとり 改訂版－鳥取県の絶滅のおそれのある野生動植物－」（鳥取県生活環境部自然公園課、平成 24 年）
「鳥取県のすぐれた自然 植物編」（鳥取県、平成 5 年）
「鳥取県のすぐれた自然 動物編」（鳥取県、平成 5 年）
「南部町の生きものたち」（南部町 HP、閲覧：平成 29 年 7 月）
「岸本町誌」（岸本町、昭和 58 年）
「溝口町誌」（溝口町、昭和 48 年）
「西伯町誌」（西伯町、昭和 50 年）
「西伯町誌 完結編」（西伯町、平成 16 年）
「新修江府町史」（江府町、平成 20 年）
「日野町誌」（日野町、昭和 45 年）
より作成

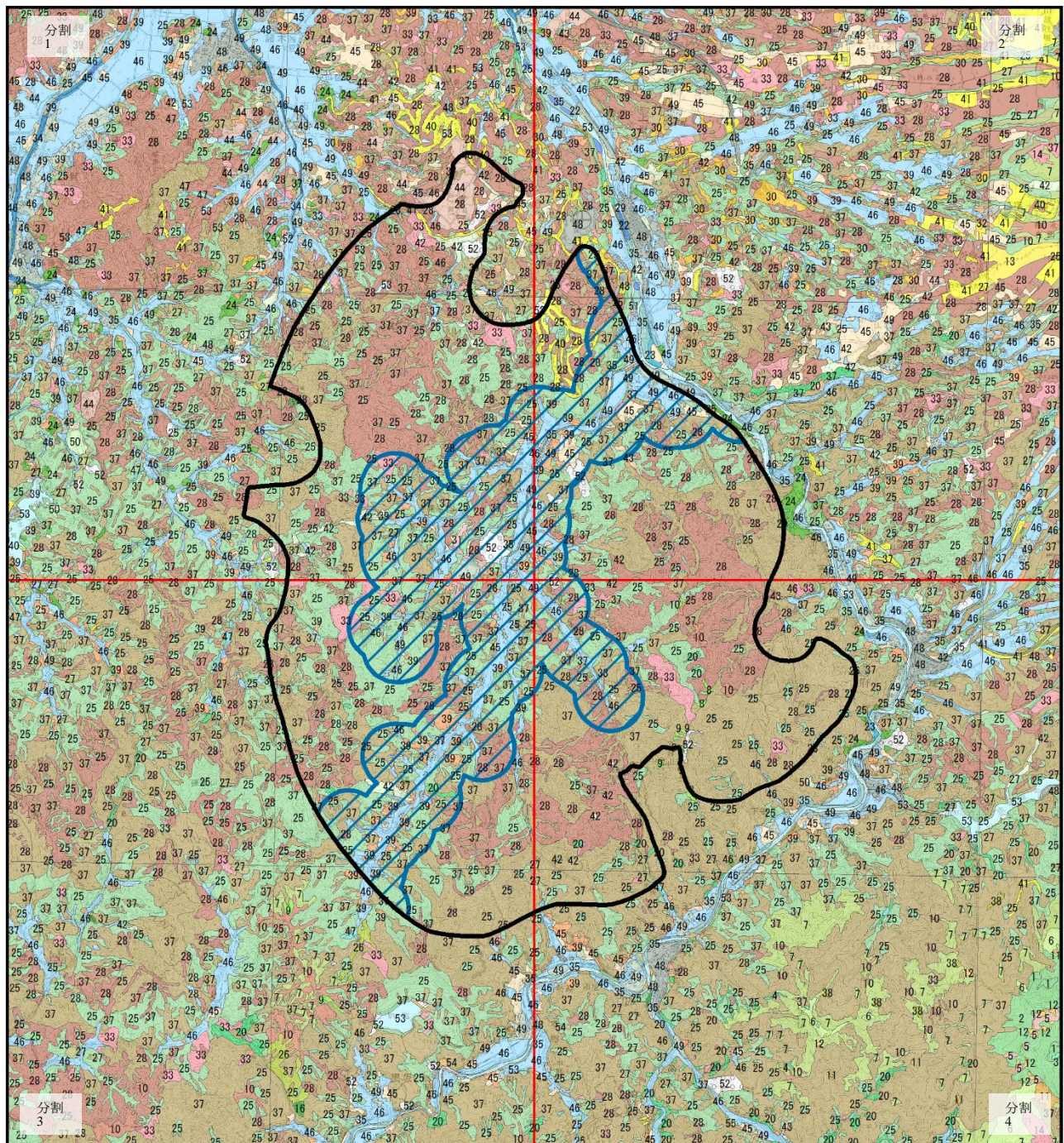
(2) 植生の概要

事業実施想定区域及びその周囲の現存植生図は第 3.1-25 図のとおりである。



中国山地の脊梁部では、一部に自然植生であるスギ・ブナ群落やクロモジ・ブナ群落が残されているが、大部分はコナラ群落や、アカマツ群落等の二次林、スギ・ヒノキ・サワラ植林等の植林地に置き換わっている。その他にも、代償植生である低木群落やススキ群団、ササ群落等がパッチ状に分布している。事業実施想定区域及びその周囲は、照葉樹林帯（ヤブツバキクラス域）から落葉広葉樹林帯（ブナクラス域）の下部に位置しており、特異な立地に成立する植生である溪畔林のケヤキ群落が事業実施想定区域の南部から宝仏山の周辺に小規模に点在する。

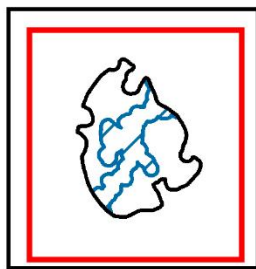
谷底平野の平坦地や緩傾斜地は主に水田や、畑等耕作地が分布しており、市街地等が点在している。

事業実施想定区域には、代償植生であるコナラ群落やアカマツ群落のほか、伐採跡群落、ツルヨシ群集、スギ・ヒノキ・サワラ植林等が分布している。分布面積が最も大きいのはスギ・ヒノキ・サワラ植林であり、次がコナラ群落、次いでアカマツ群落となっている。また、水田や畑、果樹園など耕作地もある程度まとまった面積を占めている。



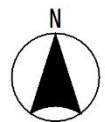
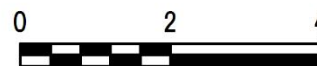
凡 例

-  事業実施想定区域
-  事業実施想定区域（風力発電機の設置対象外）



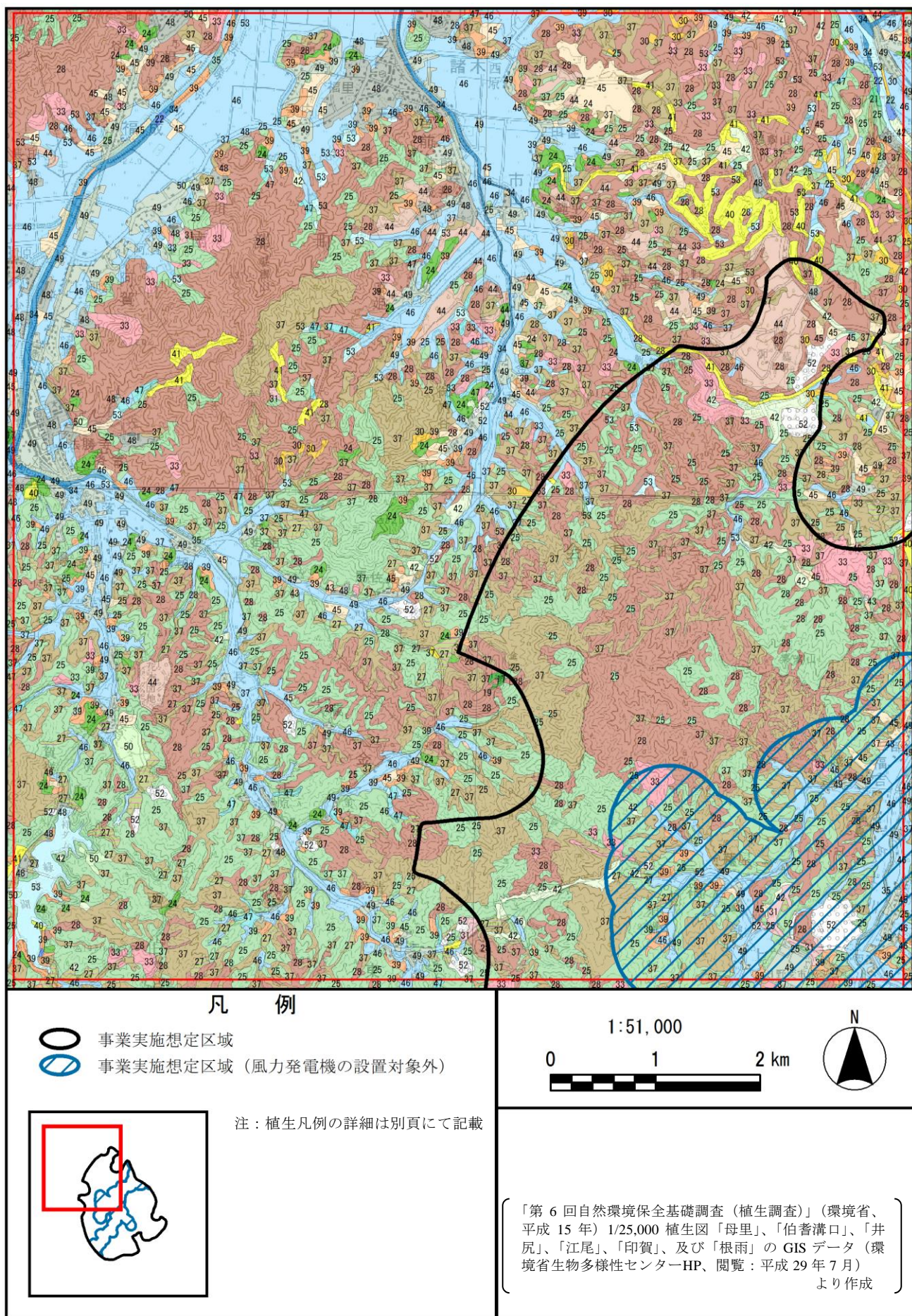
注：植生凡例の詳細は別頁にて記載

1:100,000

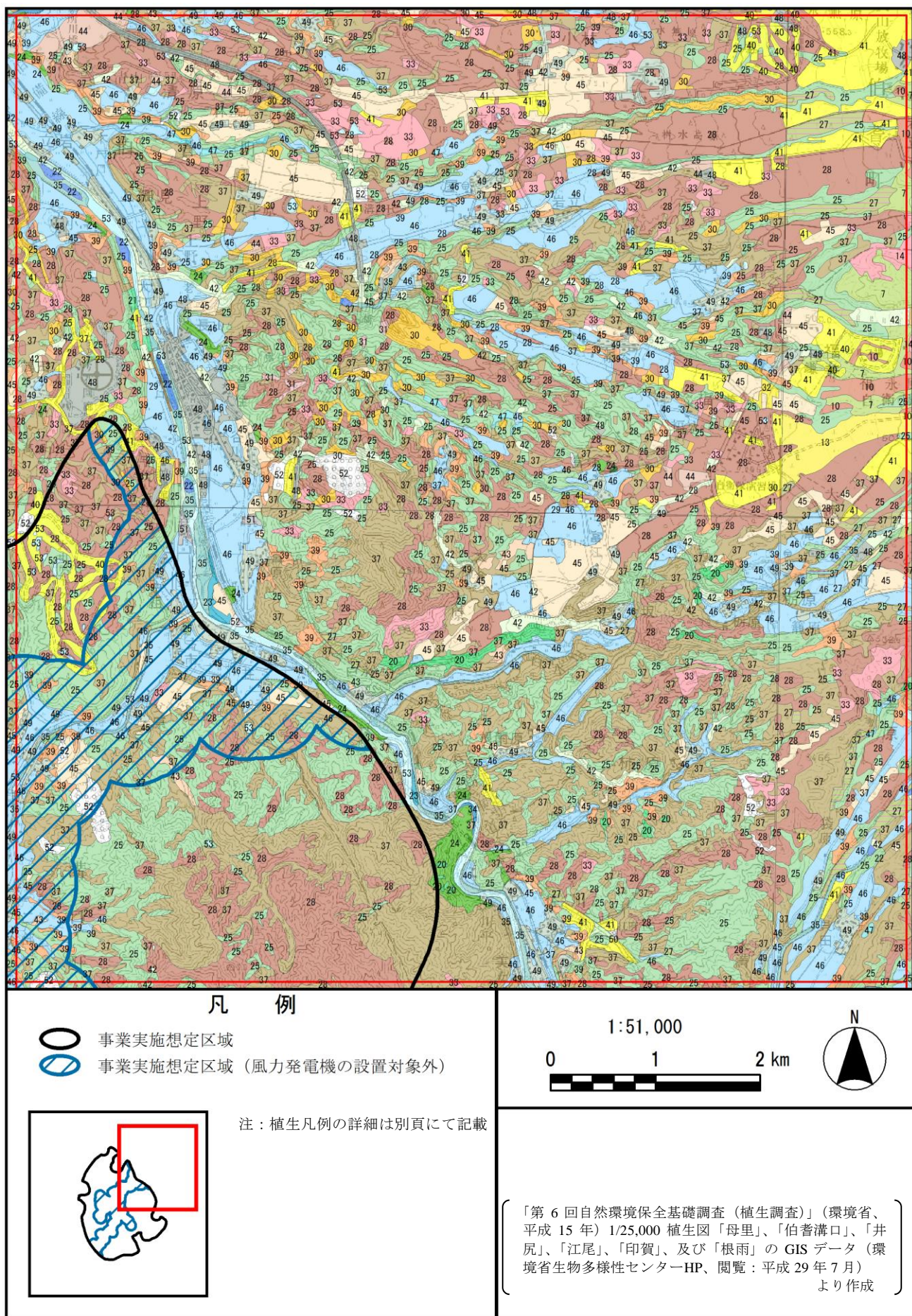


「第 6 回自然環境保全基礎調査（植生調査）」（環境省、平成 15 年）1/25,000 植生図「母里」、「伯耆溝口」、「井尻」、「江尾」、「印賀」、及び「根雨」の GIS データ（環境省生物多様性センターHP、閲覧：平成 29 年 7 月）より作成

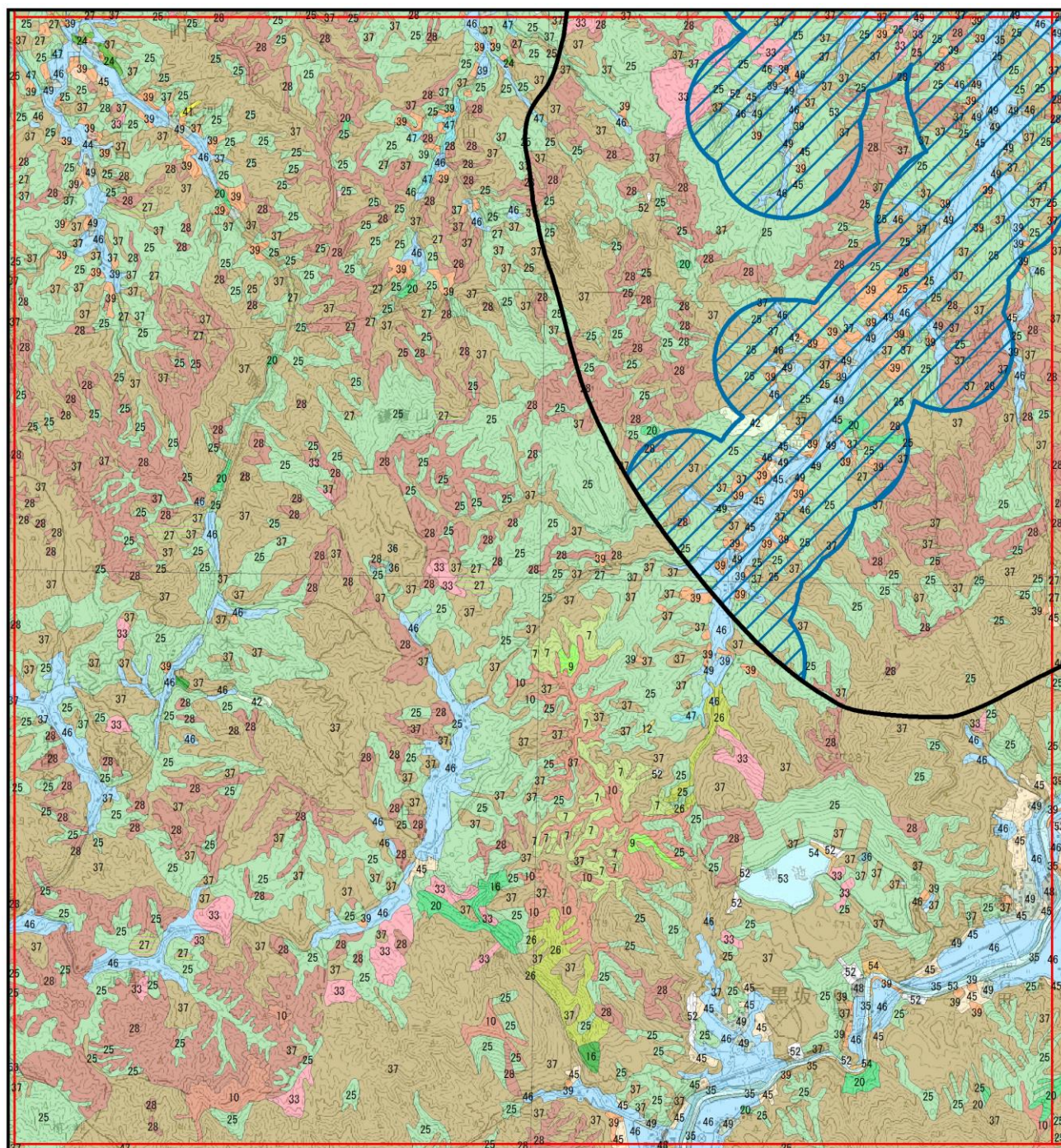
第 3.1-25 図（1） 文献その他の資料による現存植生図（全体）





第 3.1-25 図 (2) 文献その他の資料による現存植生図（分割 1）

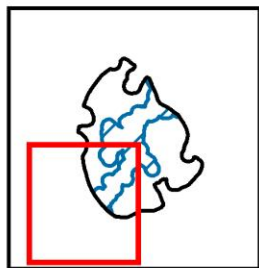


第3.1-25 図 (3) 文献その他の資料による現存植生図 (分割2)



凡 例

-  事業実施想定区域
-  事業実施想定区域（風力発電機の設置対象外）



注：植生凡例の詳細は別頁にて記載

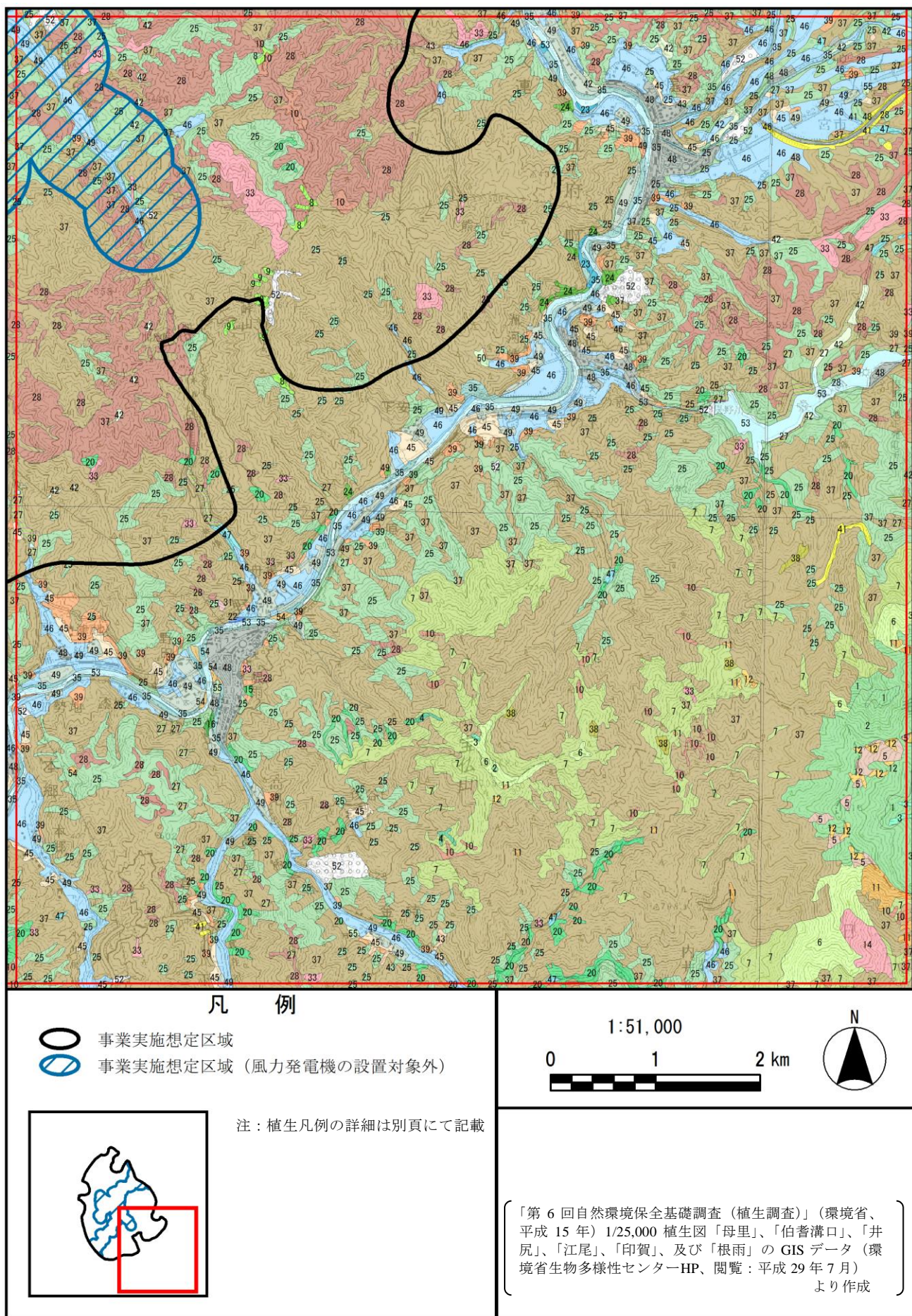
1:51,000

0 1 2 km


































「第 6 回自然環境保全基礎調査（植生調査）」（環境省、平成 15 年）1/25,000 植生図「母里」、「伯耆溝口」、「井尻」、「江尾」、「印賀」、及び「根雨」の GIS データ（環境省生物多様性センターHP、閲覧：平成 29 年 7 月）より作成

第 3.1-25 図（4） 文献その他の資料による現存植生図（分割 3）











第 3.1-25 図 (5) 文献その他の資料による現存植生図 (分割 4)

第 3.1-30 表 (1) 現存植生図凡例

植生区分	図中No.	凡例名	統一凡例No.
ブナクラス域自然植生	 1	スギ・ブナ群落	110103
	 2	クロモジ・ブナ群落	110104
	 3	ジュウモンジシダー・サワグルミ群落	160101
	 4	ケヤキ群落 (I V)	160400
	 5	なだれ地自然低木群落	200000
ブナクラス域代償植生	 6	ブナ・ミズナラ群落	220100
	 7	クレーミズナラ群落	220102
	 8	コナラ群落 (V)	220500
	 9	アカシダー・イヌシダ群落 (V)	220700
	 10	アカマツ群落 (V)	230100
	 11	タニウツギ・ノリウツギ群落	240102
	 12	ササ群落 (V)	250100
	 13	ススキ群落 (V)	250200
	 14	伐採跡地群落 (V)	260000
ヤブツバキクラス自然植生	 15	シラカシ群落	270100
	 16	ウラジログシ群落	270500
	 17	スダジイ群落	271200
	 18	モミ群落 (VI)	280100
	 19	アカマツ群落 (VI)	290100
	 20	ケヤキ群落 (VI)	300100
	 21	ムクノキ・エノキ群落	300200
	 22	ヤナギ高木群落 (VI)	320100
	 23	ヤナギ低木群落 (VI)	320200
ヤブツバキクラス域代償植生	 24	シイ・カシ二次林	400100
	 25	コナラ群落 (VII)	410100
	 26	アカシダー・イヌシダ群落 (VII)	410400
	 27	クサギ・アカメガシワ群落	411400
	 28	アカマツ群落 (VII)	420100
	 29	タケ・ササ群落	430000
	 30	低木群落	440000
	 31	クズ群落	440200
	 32	ススキ群落 (VII)	450100
	 33	伐採跡地群落 (VII)	460000
河辺・湿原・塩沼地・砂丘植生等	 34	ヨシクラス	470400
	 35	ツルヨシ群落	470501
	 36	ヒルムシロクラス	470600
植林地・耕地植生	 37	スギ・ヒノキ・サワラ植林	540100
	 38	カラマツ植林	540700
	 39	竹林	550000
	 40	ゴルフ場・芝地	560100
	 41	牧草地	560200
	 42	路傍・空地雑草群落	570100
	 43	放棄畑雑草群落	570101
	 44	果樹園	570200
	 45	畑雑草群落	570300
	 46	水田雑草群落	570400
	 47	放棄水田雑草群落	570500

第 3.1-30 表 (2) 現存植生図凡例

植生区分	図中No.		凡例名	統一凡例No.
その他		48	市街地	580100
		49	緑の多い住宅地	580101
		50	残存・植栽樹群をもった公園、墓地等	580200
		51	工場地帯	580300
		52	造成地	580400
		53	開放水域	580600
		54	自然裸地	580700
		55	残存・植栽樹群地	580800

- 注：1. 図中 No.は第 3.1-25 図の現存植生図内の番号に対応する。
2. 統一凡例番号とは、「生物多様性情報システム自然環境保全基礎調査 植生調査（植生自然度調査）」（環境省 HP）の 1/25,000 現存植生図に示される 6 桁の統一凡例番号（凡例コード）である。

(3) 植物の重要な種及び重要な群落

植物の重要な種及び重要な群落の選定基準は第 3.1-31 表のとおりである。

また、文献その他の資料により確認された植物の重要な種は第 3.1-32 表、重要な植物群落及びその分布位置は第 3.1-33 表及び第 3.1-26 図のとおりである。

事業実施想定区域及びその周囲では、シノブ、イチイ、ミヤマハンノキ、オキナグサ、モウセンゴケ、イワカガミ、サクラソウ、キキョウ、ミクリ、シュンラン等の 191 種の重要な植物種が確認されている。また、重要な植物群落は、事業実施区域に隣接した金華山熊野神社社叢のほか、日野町に 3 ヶ所、日野町・伯耆町・江府町に各 1 ヶ所の群落が確認されている。

第 3.1-31 表(1) 植物の重要な種及び重要な群落の選定基準

選定基準			文献その他の資料	重要な種	重要な群落
①	「文化財保護法」(昭和 25 年法律第 214 号)に基づく天然記念物 「鳥取県文化財保護条例」(昭和 34 年条例第 50 号)及び「伯耆町文化財保護条例」(平成 17 年条例第 103 号)、「南部町文化財保護条例」(平成 16 年条例第 91 号)、「江府町文化財保護条例」(昭和 51 年条例第 10 号)、「日野町文化財保護条例」(昭和 51 年条例第 31 号)に基づく指定文化財	特天：特別天然記念物 天：天然記念物	「国指定文化財等データベース」(文化庁 HP)、「とっとり文化財ナビ」(鳥取県 HP)、「伯耆町指定文化財」(伯耆町 HP)、「南部町文化財の保護」(南部町 HP)、「江府町の指定文化財」(江府町 HP)、日野町 HP ※いずれも平成 29 年 7 月に閲覧	○	
②	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成 4 年法律第 75 号)に基づく国内希少野生動植物種等	国内：国内希少野生動植物種 緊急：緊急指定種	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律施行令」(平成 5 年政令第 17 号)	○	
③	「環境省レッドリスト 2017」(環境省、平成 29 年)の掲載種	EX：絶滅・・・我が国ではすでに絶滅したと考えられる種 EW：野生絶滅・・・飼育・栽培下でのみ存続している種 CR+EN：絶滅危惧種 I 類・・・絶滅の危機に瀕している種。現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、野生での存続が困難なもの CR：絶滅危惧 IA 類・・・ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの EN：絶滅危惧 IB 類・・・IA 類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの VU：絶滅危惧 II 類・・・絶滅の危険が増大している種 NT：準絶滅危惧・・・現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種 DD：情報不足・・・評価するだけの情報が不足している種 LP：絶滅のおそれのある地域個体群・・・地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの	「環境省レッドリスト 2017」の公表について」(環境省、平成 29 年)	○	

第 3.1-31 表 (2) 植物の重要な種及び重要な群落の選定基準

選定基準			文献その他の資料	重要な種	重要な群落
④	「レッドデータブックとっとり 改訂版－鳥取県の絶滅のおそれのある野生動植物－」（鳥取県生活環境部自然公園課、平成 24 年）の掲載種	EX：絶滅…鳥取県では既に絶滅したと考えられる種 EW：野生絶滅…野生では絶滅し、栽培下のみで存続している種 CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類…絶滅の危惧に瀕している種。現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、野生での存続が困難なもの VU：絶滅危惧Ⅱ類…絶滅の危惧が増大している種。現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧Ⅰ類」のカテゴリーに移行することが確実と考えられるもの NT：準絶滅危惧…存続基盤が脆弱な種。現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位カテゴリーに移行する要素を有するもの DD：情報不足…評価するだけの情報が不足している種 OT：その他の保護上重要な種…鳥取県の地理的な自然特性等から保護上重要度の高い種	「レッドデータブックとっとり 改訂版－鳥取県の絶滅のおそれのある野生動植物－」（鳥取県生活環境部自然公園課、平成 24 年）	○	
⑤	「鳥取県希少野生動植物の保護に関する条例」（平成 13 年 12 月 21 日鳥取県条例第 51 号）に基づく希少野生動植物等	特定：特定希少野生動植物…希少野生動植物のうち、特に保護を図る必要があるものとして第 4 条の規定により知事が指定する種に該当するものをいう。 希少：希少野生動植物…県内に生息し、又は生育する動植物の種（亜種又は変種がある種にあつては、その亜種又は変種とする。以下同じ。）のうち、次の各号のいずれかに該当するものとして知事が公告する種に該当するものをいう。 (1) 種の存続に支障を来す程度にその個体の数が著しく少ない野生動植物の種 (2) その個体の数が著しく減少しつつある野生動植物の種 (3) その個体の主要な生息地又は生育地が消滅しつつある野生動植物の種 (4) その個体の生息又は生育の環境が著しく悪化しつつある野生動植物の種	「鳥取県希少野生動植物の保護に関する条例」（平成 13 年 12 月 21 日鳥取県条例第 51 号）に基づく希少野生動植物等	○	
⑥	「自然公園法」（昭和 32 年法律第 69 号）に基づく指定植物	指定：大山隠岐国立公園の指定植物	「国立・国定公園における植物の保護対策について（指定植物）」（環境省 HP、閲覧：平成 29 年 7 月）	○	
⑦	「第 2 回 自然環境保全基礎調査 特定植物群落調査報告書」（環境庁、昭和 54 年）、「第 3 回 自然環境保全基礎調査 特定植物群落調査報告書」（環境庁、昭和 63 年）、「第 5 回 自然環境保全基礎調査 特定植物群落調査報告書」（環境庁、平成 12 年）に掲載されている特定植物群落	A：原生林もしくはそれに近い自然林 B：国内若干地域に分布するが、極めて稀な植物群落または個体群 C：比較的普通に見られるものであっても、南限・北限・隔離分布など分布限界になる産地に見られる植物群落または個体群 D：砂丘、断崖地、塩沼地、湖沼、河川、湿地、高山、石灰岩地などの特殊な立地に特有な植物群落または個体群で、その群落の特徴が典型的なもの E：郷土景観を代表する植物群落で、特にその群落の特徴が典型的なもの F：過去において人工的に植栽されたことが明らかな森林であっても、長期にわたって伐採などの手が入っていないもの G：乱獲、その他人為の影響によって、当該都道府県内で極端に少なくなるおそれのある植物群落または個体群 H：その他、学術上重要な植物群落	「第 2 回 自然環境保全基礎調査 特定植物群落調査報告書」（環境庁、昭和 54 年）、「第 3 回 自然環境保全基礎調査 特定植物群落調査報告書」（環境庁、昭和 63 年）、「第 5 回 自然環境保全基礎調査 特定植物群落調査報告書」（環境庁、平成 12 年）		○

第 3.1-31 表(3) 植物の重要な種及び重要な群落の選定基準

選定基準			文献その他の資料	重要な種	重要な群落
⑧	「植物群落レッドデータ・ブック」(NACS-J・WWF Japan、平成 8 年)に掲載の植物群落	4: 緊急に対策必要 3: 対策必要 2: 破壊の危機 1: 要注意	「植物群落レッドデータ・ブック」(NACS-J・WWF Japan、平成 8 年)		○
⑨	「鳥取県のすぐれた自然植物編」(鳥取県、平成 5 年)に掲載の植物群落	低木林・草原、貴重植物群生地	「鳥取県のすぐれた自然植物編」(鳥取県、平成 5 年)		○

第 3.1-32 表(1) 文献その他の資料による植物の重要な種

No.	分類	科名	種名	確認町				重要種選定基準					
				伯耆町	南部町	江府町	日野町	①	②	③	④	⑤	⑥
1	シダ植物	イワヒバ	カタヒバ			○	○				NT		
2			イワヒバ	○		○	○				NT	希少	指定
3		ミズニラ	ミズニラ		○					NT	VU	希少	
4		ハナヤスリ	ハマハナヤスリ				○				CR+EN		指定
5		ゼンマイ	ヤシャゼンマイ				○				CR+EN		
6		コバノイシカグマ	フジンダ		○						VU	希少	
7		シノブ	シノブ				○				NT		指定
8		チャセンシダ	コタニワタリ		○		○						指定
9		オシダ	ミヤコヤブソテツ			○					VU	希少	
10			ヒロハヤブソテツ			○					CR+EN	希少	
11		メシダ	ヘイケイヌワラビ			○				VU	CR+EN	希少	指定
12		ウラボシ	サジラン	○							NT		指定
13			クリハラン	○							NT	希少	
14			ヤノネシダ		○								指定
15			アオネカズラ				○				VU	希少	
16			ビロードシダ	○							VU	希少	指定
17	裸子植物	マツ	ツガ				○				NT		
18		イチイ	イチイ	○		○					OT		
19			キャラボク	○		○					OT		指定
20	離弁花類	ヤマモモ	ヤマモモ		○						NT		
21		カバノキ	ミヤマハンノキ			○					VU	希少	指定
22			カワラハンノキ	○		○	○				NT	希少	
23		イラクサ	サンショウソウ		○						CR+EN	希少	
24		タデ	ヤナギヌカボ	○	○	○	○			VU	CR+EN	希少	
25		ナデシコ	オオヤマフスマ				○				NT		
26		キンボウゲ	タンナトリカブト		○						NT	希少	指定
27			ミチノクフクジュソウ	○		○				NT	CR+EN		
28			イチリンソウ	○									指定
29			キクザキイチゲ		○	○					NT		指定
30			アズマイチゲ			○	○				NT		

第 3.1-32 表 (2) 文献その他の資料による植物の重要な種

No.	分類	科名	種名	確認町				重要種選定基準					
				伯耆町	南部町	江府町	日野町	①	②	③	④	⑤	⑥
31	離弁花類	キンボウゲ	ヤマオダマキ	○							VU	希少	指定
32			トリガタハンショウヅル		○						VU	希少	指定
33			サンインシロカネソウ	○	○	○	○				OT		指定
34			オキナグサ	○		○	○			VU	VU	特定	指定
35			オトコゼリ				○				CR+EN	希少	
36			ミヤマカラマツ			○					VU	希少	指定
37		メギ	トキワイカリソウ			○	○						指定
38		スイレン	ジュンサイ	○	○		○				VU	希少	
39			コウホネ		○		○				NT		
40			ヒツジグサ	○	○		○				NT		指定
41		ウマノスズクサ	フタバアオイ				○				NT		
42			ウスバサイシン	○	○	○	○				NT		指定
43		ボタン	ヤマシャクヤク	○	○	○	○			NT	NT		指定
44			ベニバナヤマシャクヤク	○	○	○	○			VU	CR+EN		指定
45		オトギリソウ	トモエソウ			○					NT		
46		モウセンゴケ	モウセンゴケ	○	○		○						指定
47		アブラナ	ミヤマハタザオ			○					VU	希少	指定
48		マンサク	コウヤミズキ	○	○						CR+EN	希少	
49			アテツマンサク	○	○	○	○			NT	OT		
50		ユキノシタ	ウメバチソウ	○		○					NT		指定
51			バイカウツギ				○				NT		
52			ヤシャビシャク			○				NT	NT	希少	指定
53		バラ	シモツケソウ	○		○							指定
54			ズミ		○		○				NT		
55			オオウラジロノキ	○	○	○	○				NT		
56			イヌザクラ		○	○	○				NT		
57			リンボク		○						VU	希少	
58			ヤマイバラ	○	○						NT		
59			ミヤマニガイチゴ			○					NT		
60			シモツケ				○						指定

第 3.1-32 表 (3) 文献その他の資料による植物の重要な種

No.	分類	科名	種名	確認町				重要種選定基準					
				伯耆町	南部町	江府町	日野町	①	②	③	④	⑤	⑥
61	離弁花類	バラ	コゴメウツギ	○							NT		
62		マメ	タヌキマメ	○		○					CR+EN	希少	指定
63			ツルフジバカマ	○							VU	希少	
64		フウロソウ	イヨフウロ	○			○			NT	NT ^{※1}		指定
65		トウダイグサ	ナツトウダイ				○				NT		
66			ヒトツバハギ			○					CR+EN	希少	
67		ミカン	コクサギ	○			○				NT		
68			フユザンショウ	○	○						NT		
69		ヒメハギ	ヒナノカンザシ	○	○	○	○				CR+EN	希少	
70		モチノキ	ミヤマウメモドキ				○				VU	希少	
71		ニシキギ	クロヅル			○					NT		
72		クロウメモドキ	ヨコグラノキ			○	○				VU	希少	
73		ジンチョウゲ	カラスシキミ			○					VU	希少	指定
74		スミレ	ダイセンキスミレ	○		○					OT		指定
75			サクラスミレ			○					CR+EN	希少	指定
76			ケマルバスミレ				○				VU		指定
77			アカネスミレ	○	○	○	○				NT		
78			アケボノスミレ				○				NT		
79			ヒゴスミレ	○	○	○	○				NT		
80		ミソハギ	エゾミソハギ	○							NT		
81		アカバナ	イワアカバナ	○							VU		指定
82	合弁花類	イワウメ	イワカガミ	○			○						指定
83			オオイワカガミ				○						指定
84		イチヤクソウ	シャクジョウソウ	○	○	○	○				DD		指定
85			アキノギンリョウソウ	○	○	○	○				DD ^{※2}		指定 ^{※2}
86			ギンリョウソウ	○			○						指定
87			マルバイイチヤクソウ			○					VU ^{※3}	希少	指定 ^{※3}
88		ツツジ	アカモノ				○						指定
89			シラタマノキ			○	○				NT		指定
90			コヨウラクツツジ			○					VU	希少	

第 3.1-32 表 (4) 文献その他の資料による植物の重要な種

No.	分類	科名	種名	確認町				重要種選定基準					
				伯耆町	南部町	江府町	日野町	①	②	③	④	⑤	⑥
91	合弁花類	ツツジ	ホンシヤクナゲ				○						指定
92			レンゲツツジ	○			○						指定
93			ゲンカイツツジ				○			NT	VU	希少	
94			ダイセンミツバツツジ	○	○	○	○				OT		指定
95			コバノミツバツツジ		○		○						指定
96			キシツツジ	○		○	○				OT		
97		サクラソウ	サクラソウ			○	○			NT	CR+EN	特定	指定
98		ハイノキ	クロバイ		○						VU	希少	
99		リンドウ	リンドウ	○			○						指定
100			イヌセンブリ			○				VU	CR+EN		指定
101			センブリ	○			○						指定
102		ガガイモ	スズサイコ	○						NT	VU	希少	指定
103			コカモメヅル	○							DD		
104		アカネ	ホソバオオアリドオシ		○						NT※4		
105			オオバノヨツバムグラ			○					NT		
106			イナモリソウ		○						VU	希少	指定
107			オオキヌタソウ			○					NT		指定
108		ムラサキ	ホタルカズラ	○							VU	希少	指定
109		クマツヅラ	カリガネソウ				○				VU	希少	
110		シソ	ジュウニヒトエ	○							VU		
111			ジャコウソウ			○					NT		
112			ヒメナミキ				○				VU	希少	
113		ゴマノハグサ	マルバノサワトウガラシ	○	○	○	○			VU	NT	希少	
114			キュウシュウコゴメグサ			○					OT		指定
115			オオバミゾホオズキ	○	○	○	○				CR+EN	希少	
116			ヒキヨモギ			○					NT		
117			ダイセンクワガタ	○							OT		指定
118			ナンゴククガイソウ			○				VU	NT		指定
119		ハマウツボ	ナンバンギセル	○	○	○					NT		
120			オオナンバンギセル			○					VU		指定

第 3.1-32 表 (5) 文献その他の資料による植物の重要な種

No.	分類	科名	種名	確認町				重要種選定基準					
				伯耆町	南部町	江府町	日野町	①	②	③	④	⑤	⑥
121	合弁花類	タヌキモ	イヌタヌキモ		○		○			NT	VU	希少	指定
122			タヌキモ	○			○			NT			
123			ムラサキミミカキグサ		○					NT	VU	希少	指定
124		マツムシソウ	マツムシソウ	○		○	○				NT	希少	指定
125		キキョウ	フクシマシャジン			○					CR+EN	希少	指定
126			サワギキョウ				○				NT		
127			キキョウ	○		○	○			VU	NT	希少	指定
128		キク	ウスゲタマブキ			○					NT		
129			テリハアザミ	○	○	○	○			NT	CR+EN	希少	
130			ムラクモアザミ	○	○	○	○				DD		
131			マアザミ	○									指定※5
132			サンベサワアザミ			○	○				CR+EN	希少	指定
133			ヤナギタンポポ	○		○					CR+EN	希少	指定
134			カセンソウ			○					NT		
135			マルバダケブキ			○					VU	希少	
136			オタカラコウ			○							指定
137			ハンカイソウ				○						指定
138			ミヤコアザミ			○	○				NT		
139			ヒメヒゴタイ	○	○	○	○			VU	CR+EN	希少	指定
140			ハンゴンソウ			○					NT		
141			コウリンカ	○		○	○			VU	CR+EN	希少	指定
142			サワオグルマ		○								指定
143			ヤマザトタンポポ	○			○			NT	NT		指定
144			クシバタンポポ			○					NT		指定
145		オモダカ	アギナシ				○			NT	VU	希少	
146	単子葉類	トチカガミ	ミズオオバコ	○	○					VU	CR+EN	希少	
147		ユリ	カタクリ			○					NT	希少	指定
148			ショウジョウバカマ	○		○							指定
149			ササユリ	○	○								指定
150			エンレイソウ				○						指定

第 3.1-32 表 (6) 文献その他の資料による植物の重要な種

No.	分類	科名	種名	確認町				重要種選定基準					
				伯耆町	南部町	江府町	日野町	①	②	③	④	⑤	⑥
151	単子葉類	ユリ	バイケイソウ			○	○				NT		
152		アヤメ	ヒオウギ				○				NT		
153			ノハナショウブ		○	○	○				NT		指定
154			カキツバタ	○	○					NT	NT		
155		サトイモ	ムサシアブミ	○									指定
156			ナンゴクウラシマソウ		○						CR+EN	希少	
157			ウラシマソウ	○		○					NT		
158		ミクリ	ミクリ	○			○			NT	NT	希少	指定
159			ヤマトミクリ				○			NT	CR+EN	希少	指定
160		カヤツリグサ	ウキヤガラ				○				NT		
161			ベニイトスゲ				○				VU		指定
162			クロカワズスゲ			○					NT		
163			ダイセンスゲ	○	○	○	○				OT		指定
164			オニスゲ				○				NT		
165			オタルスゲ		○	○	○				NT		指定
166			マシカクイ	○							VU		指定
167			コマツカサススキ				○				VU	希少	
168		ラン	ヒナラン				○			EN	CR+EN	特定	指定
169			ムギラン		○					NT	CR+EN	希少	指定
170			エビネ	○	○	○	○			NT	NT	希少	指定
171			キンセイラン	○	○	○	○			VU	CR+EN		指定
172			ナツエビネ	○	○	○	○			VU	NT	希少	指定
173			キエビネ	○	○	○	○			EN	CR+EN	特定	指定
174			ユウシュンラン		○	○				VU	CR+EN	特定	指定
175			キンラン	○	○	○	○			VU	VU	希少	指定
176			ササバギンラン			○					CR+EN	特定	指定
177			シュンラン	○	○								指定
178			クマガイソウ	○	○	○	○			VU	CR+EN	特定	指定
179			セッコク			○	○				VU	特定	指定
180			オニノヤガラ	○							NT		指定

第 3.1-32 表 (7) 文献その他の資料による植物の重要な種

No.	分類	科名	種名	確認町				重要種選定基準					
				伯耆町	南部町	江府町	日野町	①	②	③	④	⑤	⑥
181	単子葉類	ラン	ミヤマウズラ	○	○	○	○				NT		指定
182			ジガバチソウ			○	○				CR+EN		指定
183			クモキリソウ	○	○	○	○				NT		指定
184			コ克蘭	○	○						NT		指定
185			フウラン	○	○					VU	VU	希少	指定
186			ウチョウラン	○	○	○	○			VU	CR+EN	特定	
187			コバノトンボソウ			○					CR+EN	希少	指定
188			トキシウ			○				NT	VU	希少	指定
189			ヤマトキシウ			○	○				CR+EN	希少	指定
190			マツラン	○	○	○	○			VU	CR+EN		指定
191			ヒトツボクロ			○					VU		指定
合計	5 類	65 科	191 種	87 種	67 種	100 種	100 種	0 種	0 種	42 種	165 種	77 種	110 種

注：1. 種名については「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 平成 28 年度生物リスト」（河川環境データベース 国土交通省、平成 28 年）に準拠した。

2. 選定基準は、第 3.1-31 表に対応する。各選定基準の原記載は次のとおりである。

※1：イヨフウロ（シコクフウロ）で掲載、※2：ギンリョウソウモドキで掲載、※3：マルバノイチヤクソウで掲載、※4：ホソバオオアリドシ（ホソバニセジュズネノキ）で掲載、※5：キセルアザミで掲載。

第 3.1-33 表 重要な植物群落

所在町	名称	選定基準			
		⑦		⑧	⑨
		ランク	面積 (ha)	ランク	
南部町	金華山熊野神社社叢	E	1.00	1	
日野町	ウラジロガシ・イヌブナ群落 (※1)	-	-	2	
日野町	アカマツ群落 (※1)	-	-	2	
日野町	黒坂のキシツツジ群落 (※2)	-	-	3	
日野町、伯耆町 (旧溝口町)、江府町	日野川のキシツツジ群落				○

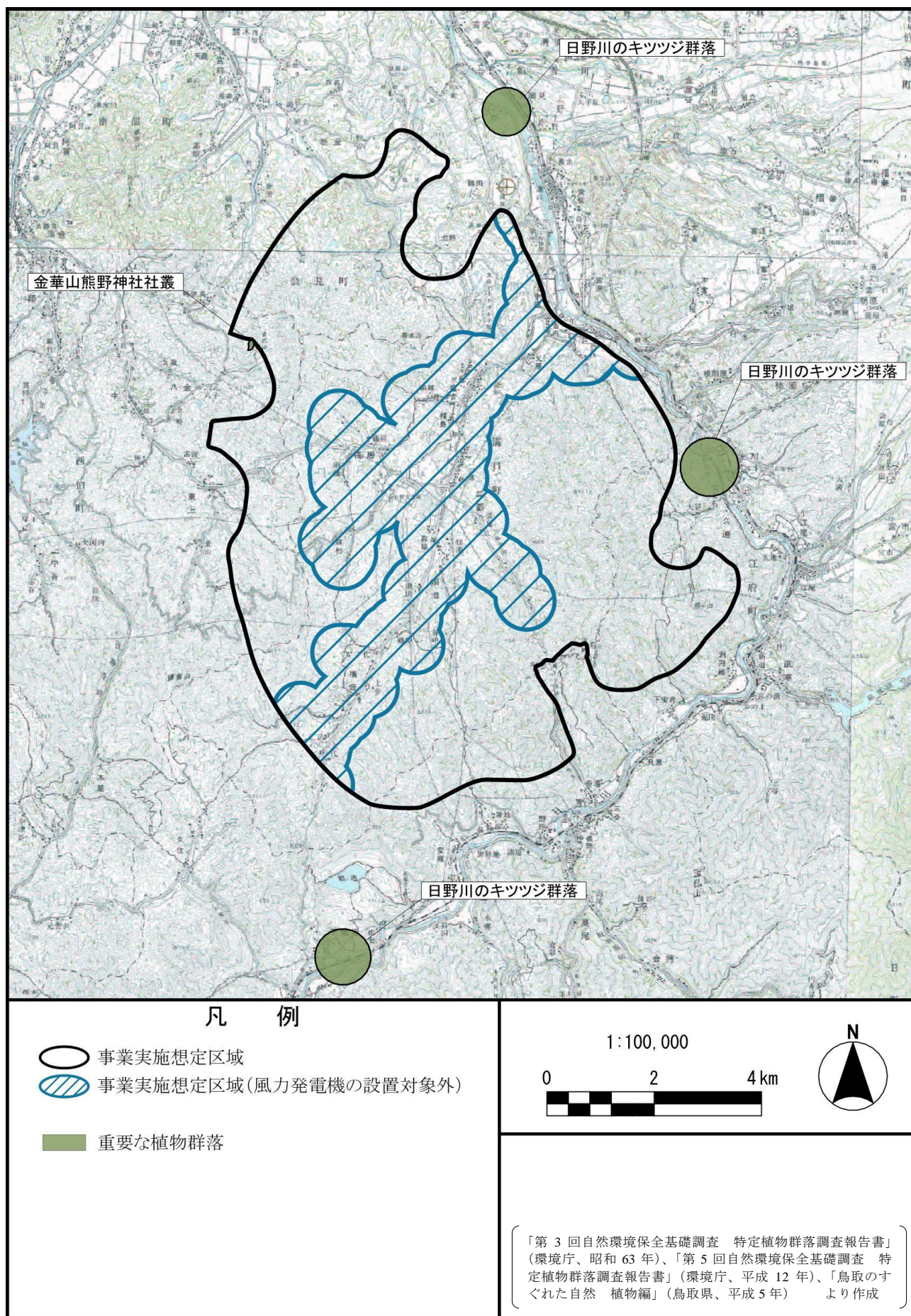
注：1. 選定基準は、第 3.1-31 表に対応する。

2. ※1: 詳細な位置が不明である。

※2：詳細な位置は不明だが、黒坂は日野川沿いの地名で、日野川のキシツツジ群落の内に含まれる可能性がある。

「第 3 回自然環境保全基礎調査 特定植物群落調査報告書」 (環境庁、昭和 63 年)
 「第 5 回自然環境保全基礎調査 特定植物群落調査報告書」 (環境庁、平成 12 年)
 「植物群落レッドデータ・ブック」 (NACS-J・WWF Japan、平成 8 年)
 「鳥取県のすぐれた自然 植物編」 (鳥取県、平成 5 年)

より作成



第 3.1-26 図 重要な植物群落の分布位置

(4) 巨樹・巨木林・天然記念物

事業実施想定区域及びその周囲の植物に係る天然記念物を第 3.1-34 表に、巨樹・巨木林を第 3.1-35 表に示す。また、それぞれの分布位置は第 3.1-27 図のとおりである。

事業実施想定区域の周囲には、県指定 6、町指定 8、計 14 の天然記念物が分布している。また、「第 4 回自然環境保全基礎調査 巨樹・巨木林 中国・四国版」(環境庁、平成 3 年)、「第 6 回自然環境保全基礎調査 巨樹・巨木林」(環境省、平成 13 年)の GIS データ(環境省生物多様性センターHP、閲覧:平成 29 年 7 月)及び「巨樹・巨木林データベース」(環境省 HP、閲覧:平成 29 年 7 月)によると、事業実施想定区域の周囲には、樹林 14、単木 51、計 65 の巨樹・巨木林が分布している。

なお、事業実施想定区域には伯耆町の天然記念物である「椿」が分布している。

第 3.1-34 表 天然記念物(植物関係)

指定	名称	指定年月日	所在地
県	佐伯氏のクロガネモチ	昭和 36 年 2 月 3 日	南部町福成
	金華山熊野神社社叢	昭和 57 年 4 月 9 日	南部町八金
	長寿寺・落合神社の社叢	昭和 60 年 6 月 25 日	南部町落合
	根雨神社社叢	昭和 59 年 2 月 21 日	日野町根雨
	武庫の七色ガシ	昭和 48 年 3 月 30 日	江府町武庫
	洲河崎のカツラ	平成元年 4 月 18 日	江府町洲河崎
町	椿	平成元年 9 月 30 日	伯耆町上代城跡付近
	岩立神社巨樹群	平成元年 9 月 30 日	伯耆町岩立字神田平
	栃(とちのき)	平成 16 年 10 月 1 日	南部町田住
	天宮さん(極相林)	平成 16 年 10 月 1 日	南部町御内容
	洲河崎のカヤの木	平成 7 年 5 月 16 日	江府町州河崎
	貝田のタブノ木	平成 11 年 9 月 10 日	江府町貝田
	貝田のサワラ	平成 11 年 9 月 10 日	江府町貝田
	武庫・上ヶ市の七色ガシ	平成 9 年 8 月 4 日	江府町大字武庫

「国指定文化財等データベース」(文化庁 HP、閲覧:平成 29 年 7 月)
「とっとり文化財ナビ」(鳥取県 HP、閲覧:平成 29 年 7 月)
「伯耆町指定文化財」(伯耆町 HP、閲覧:平成 29 年 7 月)
「南部町文化財の保護」(南部町 HP、閲覧:平成 29 年 7 月)
「江府町の指定文化財」(江府町 HP、閲覧:平成 29 年 7 月)
江府町教育委員会へのヒアリング(平成 29 年 7 月)
伯耆町教育委員会へのヒアリング(平成 29 年 8 月)

より作成

第 3.1-35 表(1) 巨樹・巨木林

町名	区分	名称	樹種	幹周 (cm)	樹高 (m)
伯耆町	単木	金屋谷	クロマツ	570	25
	単木	榊水	クロマツ	510	25
	単木	亀山神社	スダジイ	670	15
	単木	吉定	エノキ	310	23
	単木	小町	クロマツ	470	25
	単木	上細見神社	エノキ	310	25
	単木	真野神社	シラカシ	310	24
	単木	番原墓	スダジイ	380	15
	単木	北平神社	スダジイ	710	25

第 3. 1-35 表 (2) 巨樹・巨木林

町名	区分	名称	樹種	幹周 (cm)	樹高 (m)
伯耆町	樹林	北平神社	スダジイ	710	25
	樹林	北平神社	タブノキ	330	21
	樹林	立岩神社	タブノキ	440	28
	単木	林ヶ原さいの神	シラカシ	310	17
南部町	単木	朝金神社	スギ	370	25
	単木	朝金浅井家	エノキ	780	25
	単木	朝金大森神社	タブノキ	500	17
	単木	落合 (※1)	イチョウ	302	13
	単木	鴨部 (※1)	タブノキ	430	20
	単木	金山	エノキ	412	20
	単木	金山	エノキ	417	20
	単木	金田	スダジイ	400	10
	単木	金田	スダジイ	570	10
	単木	金田	タブノキ	320	15
	樹林	御内谷神社	スダジイ	400	12
	単木	佐伯氏のクロガネモチ	クロガネモチ	300	30
	単木	三崎神社	スダジイ	320	15
	樹林	市山神社	タブノキ	370	9
	樹林	寺内赤岩	スダジイ	330	15
	単木	赤谷	ギンモクセイ	302	8
	単木	早田	スダジイ	880	12
	単木	谷川	クロガネモチ	300	30
	樹林	池野神社	スダジイ	400	15
	樹林	天萬神社	スダジイ	600	17
	単木	ー (※2)	エノキ	420	20
	単木	ー (※3)	エノキ	400	20
日野町	樹林	下菅神社	スギ	615	27
	樹林	下菅神社	スギ	845	22
	単木	金持神社	サワラ	355	23
	樹林	元高尾神社	シラカシ	433	20
	単木	長楽寺	ヒメコマツ	315	15
	単木	ー (※4)	ケヤキ	455	18
	単木	ー (※4)	ケヤキ	435	18
日野町、江府町	樹林	毛無山	ブナ	401	17
江府町	樹林	江美神社	ケヤキ	580	30
	単木	貝田	エノキ	460	28
	樹林	貝田神社	ケヤキ	420	28
	単木	神奈川神社	エノキ	350	ー
	単木	神奈川神社	エノキ	380	ー
	単木	神奈川神社	スギ	300	ー
	単木	神奈川神社	スギ	320	ー
	単木	神奈川神社	ムクノキ	390	ー
	単木	佐川神社	タブノキ	300	ー
	単木	佐川神社	タブノキ	330	ー
	単木	佐川神社	ムクノキ	310	ー

第 3.1-35 表(3) 巨樹・巨木林

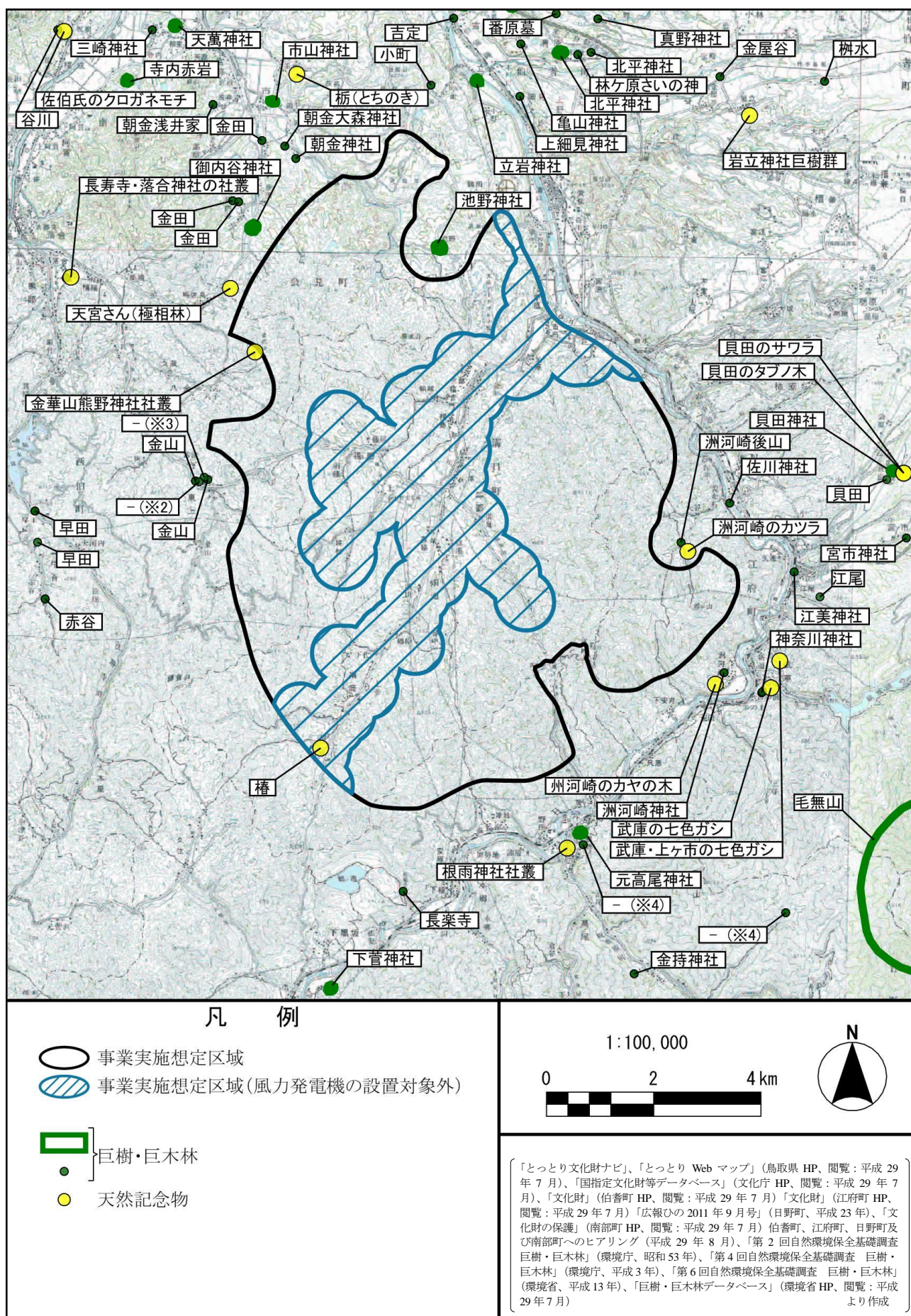
町名	区分	名称	樹種	幹周 (cm)	樹高 (m)
江府町	単木	佐川神社	ムクノキ	460	—
	単木	洲河崎神社	ムクノキ	670	25
	単木	宮市神社	スギ	380	—
	単木	宮市神社	モミ	350	—
	単木	宮市神社	モミ	380	—
	単木	洲河崎後山	カツラ	1,170	28
	単木	武庫の七色ガシ	シラカシ	300	16
	単木	江尾	ケヤキ	580	30
	単木	江尾	ケヤキ	570	30
	単木	江尾	ケヤキ	470	20
	単木	江尾	ケヤキ	420	20

注：1. 区分が樹林の場合、樹種、幹周及び樹高は、幹周が最大の個体のものを示す。

2. ※1：詳細な位置は不明だが、名称により図郭範囲内（事業実施想定区域外）にあると考えられるものを示す。

※2～4：確認位置は図中表記と対応しており、名称未登録のため「—」と表示した。

「第4回自然環境保全基礎調査 巨樹・巨木林 中国・四国版」（環境庁、平成3年）
「第6回自然環境保全基礎調査 巨樹・巨木林」（環境省、平成13年）のGISデータ
（環境省生物多様性センターHP、閲覧：平成29年7月）
「巨樹・巨木林データベース」（環境省HP、閲覧：平成29年7月）
「新修 江府町史」（江府町、平成20年）より作成



第 3.1-27 図 天然記念物等の位置

3. 生態系の状況

(1) 環境類型区分

事業実施想定区域及びその周囲の環境類型区分の概要を第 3.1-31 表に、その分布状況を第 3.1-24 図に示す。

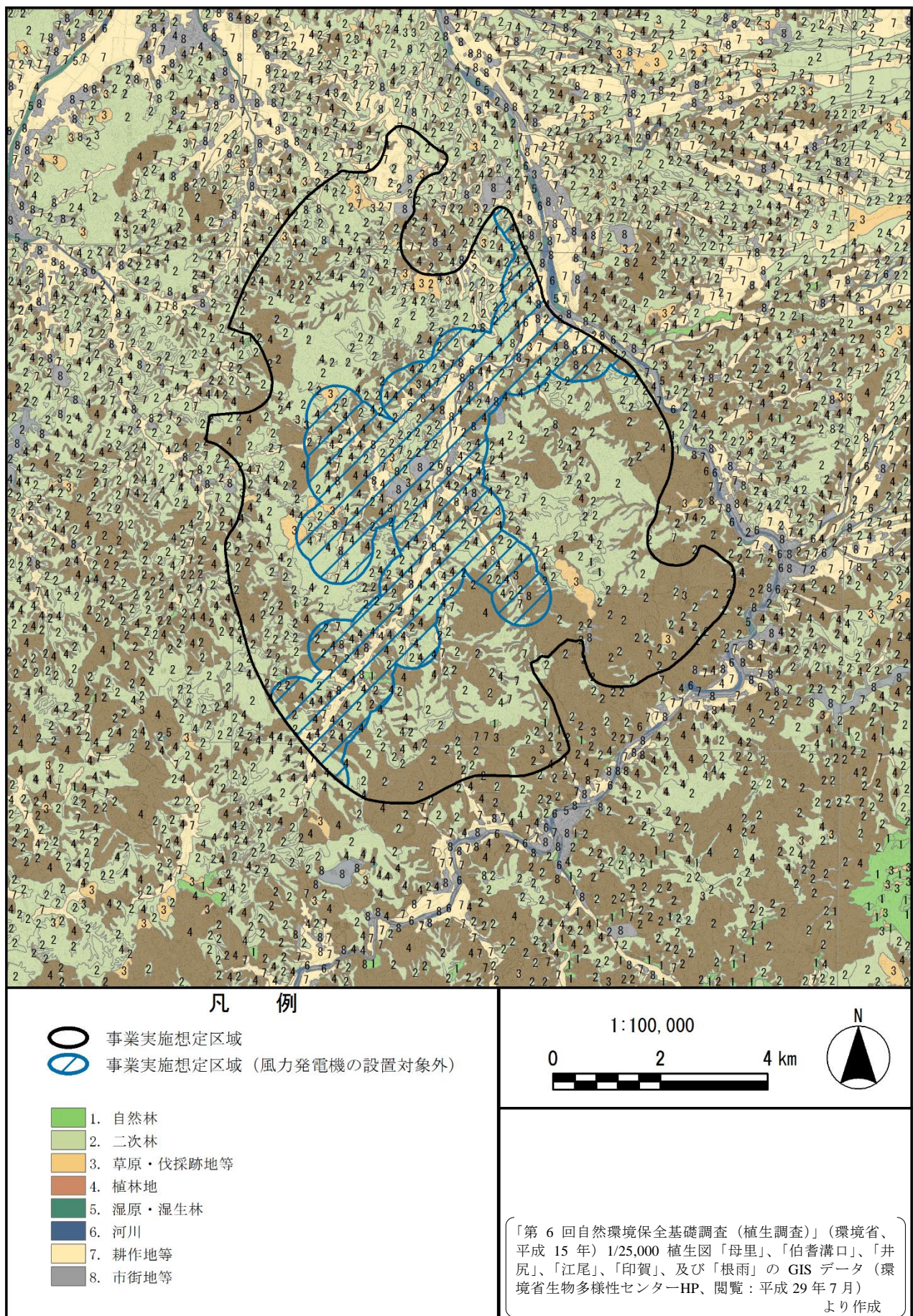
事業実施想定区域及びその周囲の地形は主に山地及び丘陵地、谷底平野からなり、植生区分との対応関係により、自然林、二次林、草原・伐採跡地等、植林地、湿原・湿生林、河川、耕作地等及び市街地等の 8 つの環境類型区分に分類される。山地及び丘陵地の大部分は二次林及び植林地、谷底平野の大部分は耕作地等であり、自然林、湿原・湿生林の分布はわずかである。

事業実施想定区域の環境類型区分は主に二次林、植林地、草原・伐採跡地等であり、南部にわずかに自然林が分布する。

第 3.1-36 表 環境類型区分の概要

類型区分	主な地形	植生区分
自然林	山 地 丘陵地	落葉広葉樹林（日本海型）（スギ-ブナ群落、クロモジ-ブナ群落）、溪畔林（ジユウモンジンダ-サワグルミ群落、ケヤキ群落）、常緑広葉樹林（シラカシ群落、ウラジロガシ群落、スダジイ群落）、落葉広葉樹林（ケヤキ群落、ムクノキ-エノキ群落）、なだれ地自然低木群落、暖温帯針葉樹林（モミ群落）、岩角地・海岸断崖地針葉樹林（アカマツ群落）
二次林		落葉広葉樹二次林（ブナ-ミズナラ群落、クリ-ミズナラ群落、コナラ群落、アカシデ-イヌシデ群落、クサギ-アカメガシワ群落）、常緑針葉樹二次林（アカマツ群落）、常緑広葉樹二次林（シイ・カシ二次林）、落葉広葉樹低木群落（タニウツギ-ノリウツギ群落）、低木群落
草原・伐採跡地等	谷 底 平 野	二次草原（ササ群落、ススキ群落）、伐採跡地群落、タケ・ササ群落、クズ群落
植林地		スギ・ヒノキ・サワラ植林、カラマツ植林、竹林
湿原・湿生林		河辺林（ヤナギ高木群落、ヤナギ低木群落）、湿原・河川・池沼植生（ヨシクラス、ヒルムシロクラス）
河川		湿原・河川・池沼植生（ツルヨシ群落）
耕作地等		ゴルフ場・芝地、牧草地、路傍・空地雑草群落、放棄畑雑草群落、果樹園、畑雑草群落、水田雑草群落、放棄水田雑草群落
市街地等		市街地、緑の多い住宅地、残存・植栽樹群をもった公園、墓地等、工場地帯、造成地、開放水域、自然裸地、残存・植栽樹群地

注：植生区分は現存植生図（第 3.1-25 図参照）による。



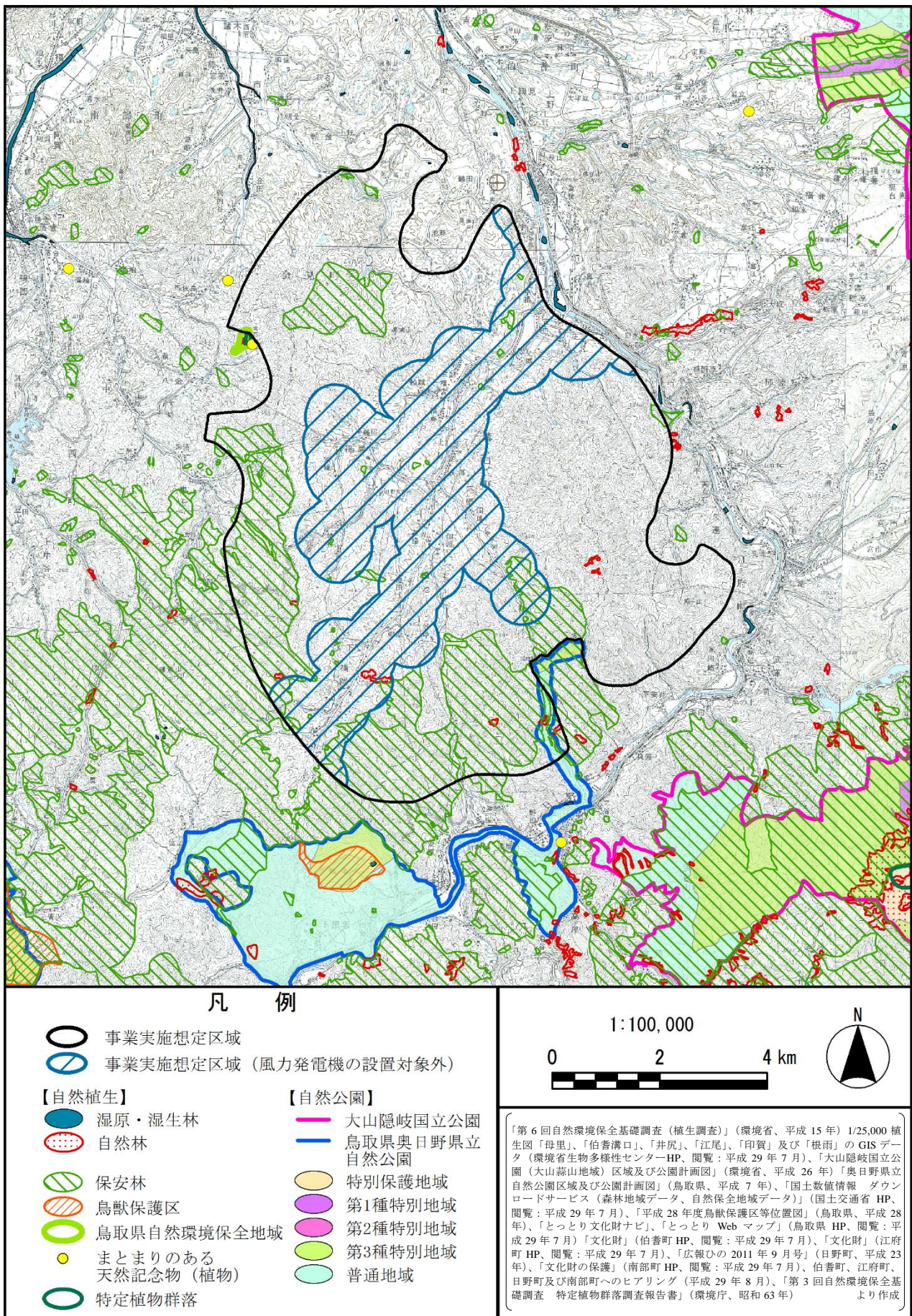
第 3.1-28 図 環境類型区分

(2) 重要な自然環境のまとまりの場

事業実施想定区域及びその周囲の自然環境について、重要な自然環境のまとまりの場の抽出を行った。抽出された重要な自然環境のまとまりの場は第 3.1-37 表、その分布状況は第 3.1-29 図のとおりである。

第 3.1-37 表 重要な自然環境のまとまりの場

No.	重要な自然環境のまとまりの場		抽出理由
1	自然植生	湿原・湿生林	環境省植生図によるヤナギ高木群落、ヨシクラス等の湿原・湿生林である。
		自然林	環境省植生図によるケヤキ群落等のまとまりのある自然林である。
2	自然公園	大山隠岐国立公園 (大山・蒜山地域)	大山隠岐国立公園は、大山から蒜山、毛無山、船上山を含む山岳地帯及び三徳山一帯、島根半島の海岸部分、三瓶山一帯、隠岐諸島の 4 つの地域から成る。大山蒜山地域では、大山の風衝低木林帯一帯が特別保護地区に、大山の山腹の自然林及び特別保護地区を取り囲む二次林が第 1 種特別区域に、大山の山腹から蒜山、毛無山にかけての一体の二次林周辺が第 2 種特別区域に指定されている。
		鳥取県 奥日野県立 自然公園	日野川上流域にある山地、溪谷を主体とした地域が指定されている。古峠山、鶴ノ池、滝山～花見山、石霞溪、日野高原が特別地域に指定されている。
3	保安林		水源涵養林や土砂崩壊防止機能を有する緑地等、地域において重要な機能を有する自然環境である。
4	鳥獣保護区		鳥獣の保護を図るため、保護の必要があると認められる地域である。
5	特定植物群落		自然環境保全基礎調査において定められた「特定植物群落選定基準」に該当する植物群落である。
6	鳥取県自然環境保全地域		自然的社会的諸条件からみてその区域における自然環境を保全することが特に必要な地域として指定された区域である。
7	まとまりのある天然記念物（植物）		植物に関する天然記念物のうち社叢等まとまりのあるものである。学術上価値の高い植物（自生地を含む。）が指定されており、そのうち単木等を除くまとまりのあるものである。



第 3.1-29 図 重要な自然環境のまとまりの場

3.1.6 景観及び人と自然との触れ合いの活動の状況

1. 景観の状況

事業実施想定区域は鳥取県西部の山地に位置しており、北側は丘陵地、南側は中国山地となっている。

鳥取県は、現にある良好な景観の保全と新たな良好な景観の創造を推進していくため、平成 26 年に「鳥取県景観計画」（平成 26 年）を策定しており、伯耆町、江府町、日野町及び南部町は全域が景観計画区域に指定されている。

(1) 主要な眺望点の分布及び概要

事業実施想定区域及びその周囲の主要な眺望点は、第 3.1-38 表及び第 3.1-30 図のとおりである。

第 3.1-38 表 主要な眺望点

番号	眺望点	眺望点の概要
①	母塚山展望台	車でアクセス出来る展望台から大山と弓ヶ浜半島を見渡せる。天気のいい日には日本海に遠く隠岐の島が見えることもある。
②	榊水原	標高 700～800m の高原で、眼前には大山を、眼下には日本海に伸びる弓ヶ浜を見られる。自然探勝、スキーなどのレクリエーションの拠点となっている。夏季も観光用にリフトが運用されており、斜面の上部にアクセス出来る。大山隠岐国立公園の集団施設地区に指定されている。
③	道の駅 奥大山	周辺の産物を販売する直売所と周辺の産物を食べられるレストランがある。周辺の観光情報を入手出来る。
④	古峠山	標高 767m の山頂から、大山、毛無山、宝仏山が一望出来る。奥日野県立自然公園の展望施設に指定されている。
⑤	鎌倉山	標高約 730m の山頂からは、奥日野の連山や大山、島根半島が遠望出来る。
⑥	毛無山	大山隠岐国立公園内にあり、カタクリの花が群生する標高 1,218m の山頂からは大山、蒜山、弓ヶ浜半島を一望出来る。毛無山ブナ林は水源の森 100 選にも選定されている。
⑦	鵜の池公園	標高 400m の高原にある湖の畔に位置する公園。キャンプ場や丸太遊具などの施設が整備されており、新緑や紅葉、野鳥を見ることが出来る。奥日野県立自然公園の園地に指定されている。
⑧	宝仏山	大山隠岐国立公園内にあり、標高 1,005m の山頂の平地からは毛無山、大山、奥日野の山々を遠望出来る。
⑨	明地展望台	峠の中腹に位置する標高 650m の展望台からは、眼前に大山を望むことが出来る。眼下に雲海が見られることもある。

「大山榊水高原」（伯耆町 HP、閲覧：平成 29 年 7 月）

「道の駅 奥大山」（江府町商工会 HP、閲覧：平成 29 年 7 月）

「鎌倉山」（南部町 HP、閲覧：平成 29 年 7 月）

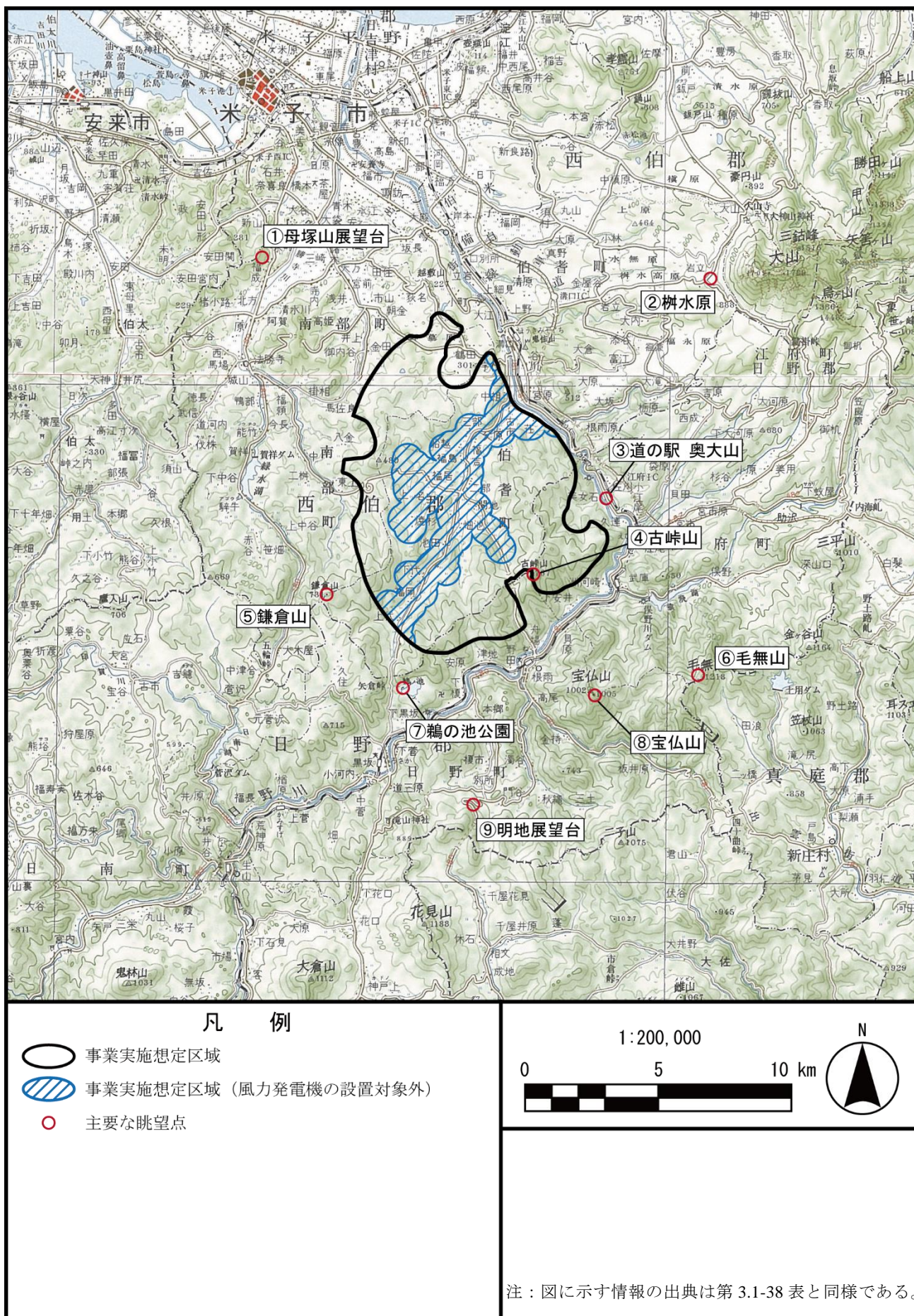
「母塚山」（南部町役場 HP、閲覧：平成 29 年 7 月）

「鵜の池公園」「明地峠」「宝仏山マップ」（日野町 HP、閲覧：平成 29 年 7 月）

「日野郡観光ガイドマップ」（鳥取県 HP、閲覧：平成 29 年 7 月）

「毛無山」（環境省大山国立公園 HP、閲覧：平成 29 年 7 月）

より作成



第 3.1-30 図 主要な眺望点の状況

(2) 景観資源

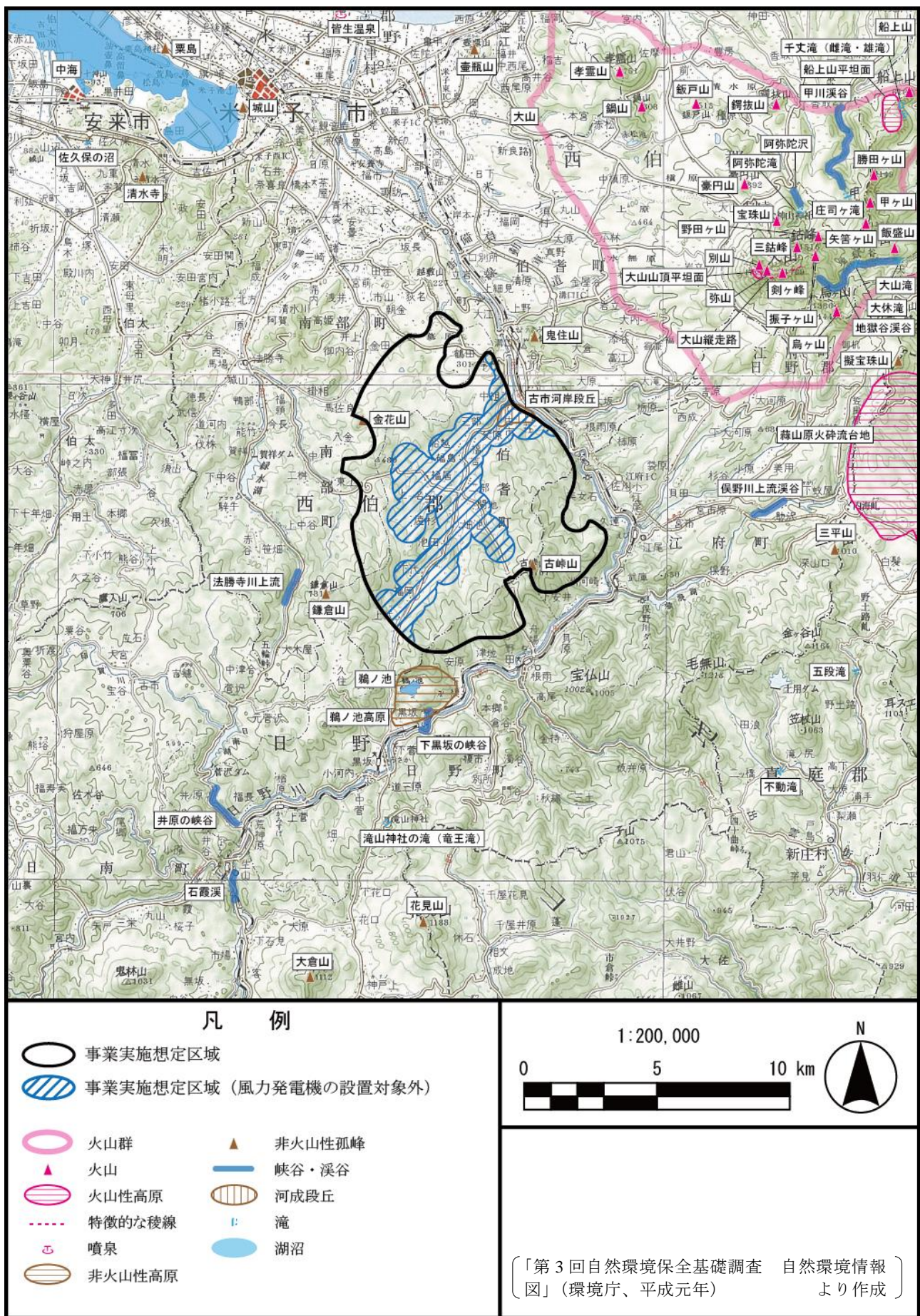
「第 3 回自然環境保全基礎調査 自然環境情報図」(環境庁、平成元年)による自然景観資源は、第 3.1-39 表及び第 3.1-31 図のとおりである。事業実施想定区域には「古峠山」、「古市河岸段丘」がある。

第 3.1-39 表 自然景観資源

自然景観資源名	名 称	自然景観資源名	名 称	
火山群	大 山	非火山性孤峰	栗 島	
火 山	鏢拔山		三平山	
	飯戸山		壺瓶山	
	豪円山		城 山	
	孝霊山		鬼住山	
	鍋 山		金花山※	
	弥 山		古峠山	
	別 山		鎌倉山	
	剣ヶ峰		花見山	
	三鈷峰		大倉山	
	振子ヶ山		擬宝珠山	
	野田ヶ山		清水寺	
	宝珠山		峡谷・溪谷	甲川溪谷
	船上山			阿弥陀沢
	勝田ヶ山	地獄谷溪谷		
	甲ヶ山	俣野川上流溪谷		
	矢筈ヶ山	下黒坂の峡谷		
	飯盛山	井原の峡谷		
	鳥ヶ山	法勝寺川上流		
	火山性高原	船上山平坦面		石霞溪
大山山頂平坦面		河成段丘		
蒜山原火砕流台地		滝	古市河岸段丘	
特徴的な稜線	大山縦走路		千丈滝（雌滝）	
噴 泉	皆生温泉		千丈滝（雄滝）	
非火山性高原	鵜ノ池高原		庄司ヶ滝	
			阿弥陀滝	
			大山滝	
			大休滝	
			滝山神社の滝（竜王滝）	
			不動滝	
		五段滝		
		湖沼	中 海	
			鵜ノ池	
			佐久保の沼	

〔「第 3 回自然環境保全基礎調査 自然環境情報図」(環境庁、平成元年)より作成〕

※ 「南部町文化財の保護」(南部町 HP、閲覧：平成 29 年 7 月)及び「とっとり文化財ナビ」(鳥取県 HP、閲覧：平成 29 年 7 月)によると、「金華山」の表記であるが、本頁では出典のとおりに記載した



第 3.1-31 図 景観資源の状況

2. 人と自然との触れ合いの活動の場の状況

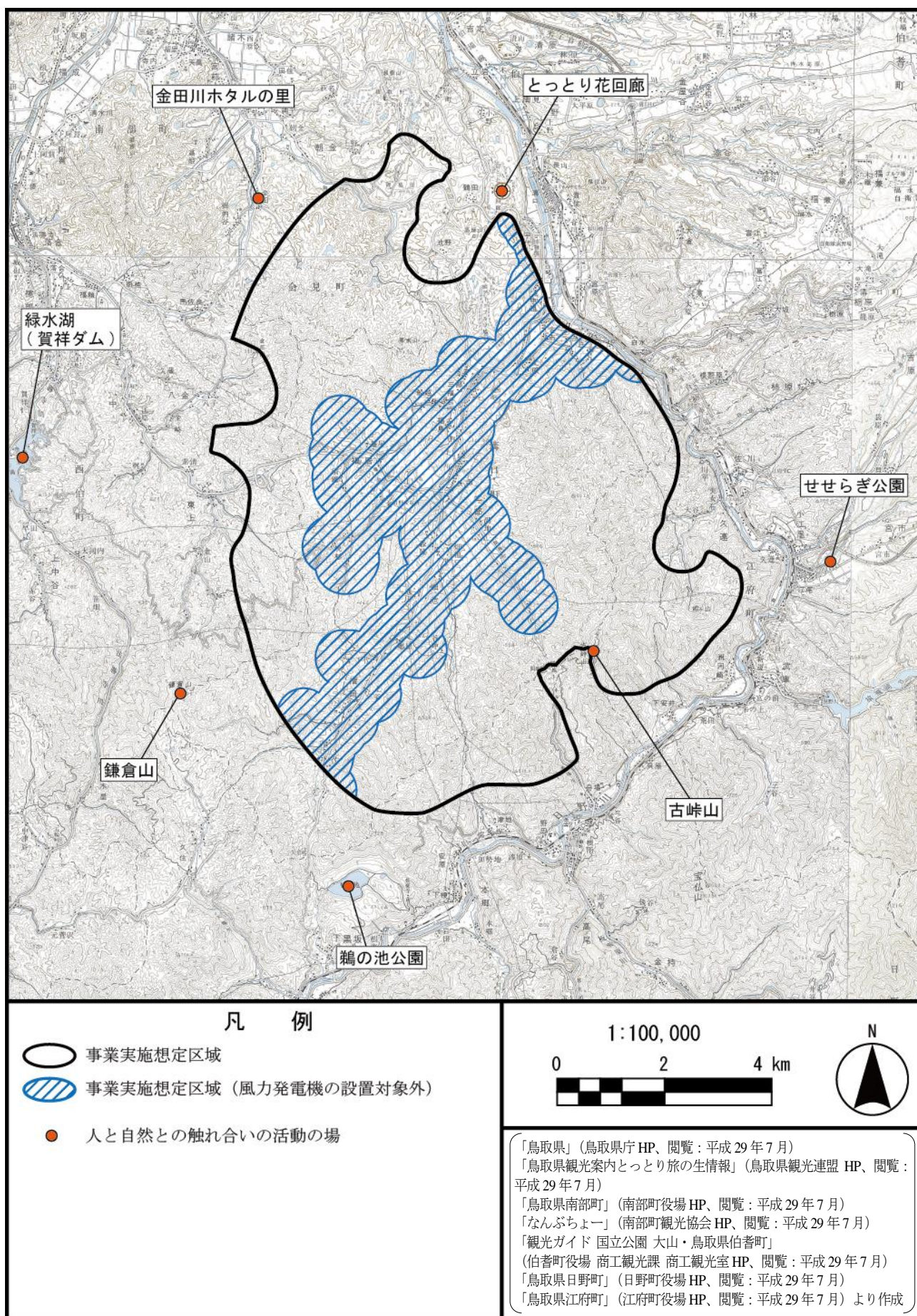
事業実施想定区域及びその周囲における人と自然との触れ合いの活動の場の状況は第 3.1-40 表及び第 3.1-32 図のとおりであり、とっとり花回廊、古峠山等がある。

第 3.1-40 表 人と自然との触れ合いの活動の場

名 称	概 要
とっとり花回廊	秀峰大山を望む、西日本最大のフラワーパーク。天候や季節に左右されずに花や植物を楽しめる大温室や展示館があり、いつでも花を楽しむことが出来る。ユリの花をメインフラワーとして一年中展示してあり、日本に自生する野生ユリ 15 品種すべてが保有・展示してある。
金田川ホテルの里	「金田川」は南部町の山あいには流れる川で、金田公民館奥に続く川沿いには現在たくさんのホテルが生息している。毎年 6 月上旬の土曜日には「ホテルまつり」が開催されている。
緑水湖（賀祥ダム）	総貯水量 745 万 m ³ 、洪水調節や水道用水の確保を目的とする多目的ダム「賀祥ダム」が、通称「緑水湖」と呼ばれており、周辺に森林公園、キャンプ場、オートキャンプ場、散策道、サイクリングコース等が整備されている。
鎌倉山	南部町内で最も高い山で、標高は約 730m。登山道は、南部町内金山集落からの道と日野町久住集落からの植林道がある。
古峠山	奥日野県立自然公園内に位置する山で、標高は 766.8m。県道 35 号線から山頂まで舗装道がある。
せせらぎ公園	旧江尾地区の上水道の水源と配水地があった場所に誕生した自然観察池。植物の移植や生物の放流等は行わず、自然にまかせたビオトープで、ビオトープ資料展示や休憩室等の施設がある。
鵜の池公園	「鵜の池」は周囲 2.3km の湖で、奥日野県立自然公園内に位置している。ハイキング・キャンプ・釣り等を楽しむことが出来る。

「鳥取県」（鳥取県庁 HP、閲覧：平成 29 年 7 月）
「鳥取県観光案内とっとり旅の生情報」（鳥取県観光連盟 HP、閲覧：平成 29 年 7 月）
「観光ガイド 国立公園 大山・鳥取県伯耆町」（伯耆町役場 商工観光課 商工観光室 HP、閲覧：平成 29 年 7 月）
「鳥取県江府町」（江府町役場 HP、閲覧：平成 29 年 7 月）
「鳥取県日野町」（日野町役場 HP、閲覧：平成 29 年 7 月）
「鳥取県南部町」（南部町役場 HP、閲覧：平成 29 年 7 月）
「なんぶちよー」（南部町観光協会 HP、閲覧：平成 29 年 7 月）

より作成



第 3.1-32 図 人と自然との触れ合いの活動の場の状況

3.1.7 一般環境中の放射性物質の状況

鳥取県では 9 か所にモニタリングポストを設置し、24 時間連続で空間放射線量率を測定している。事業実施想定区域の最寄りの測定地点は南部町法勝寺庁舎及び日野振興センターであり、その位置は第 3.1-33 図のとおりである。

平成 28 年度における空間放射線量率は第 3.1-41 表のとおりであり、年平均は南部町法勝寺庁舎で 0.055 μ Sv/h、日野振興センターで 0.057 μ Sv/h である。

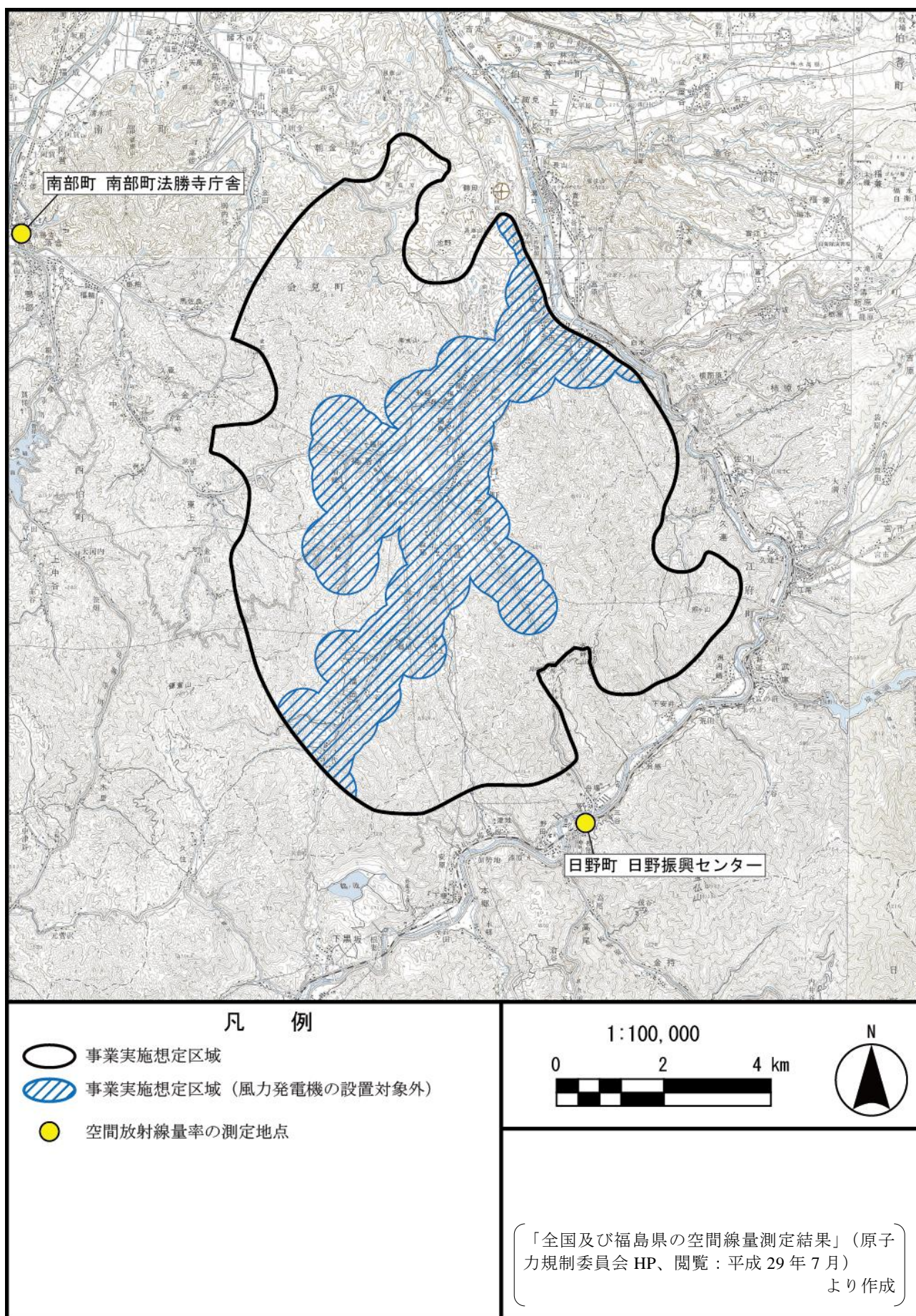
第 3.1-41 表 モニタリングポストによる空間放射線量率の測定結果

(単位： μ Sv/h)

測定期間		南部町 南部町法勝寺庁舎	日野町 日野振興センター
平成 28 年	4 月	0.054	0.058
	5 月	0.054	0.058
	6 月	0.054	0.059
	7 月	0.054	0.057
	8 月	0.056	0.059
	9 月	0.055	0.059
	10 月	0.054	0.057
	11 月	0.055	0.058
	12 月	0.058	0.060
平成 29 年	1 月	0.053	0.050
	2 月	0.053	0.049
	3 月	0.054	0.058
年平均		0.055	0.057

注：1. モニタリングポスト設置高さは、地上 1m である。

2. モニタリングポストでは空気吸収線量率 μ Gy/h（マイクログレイ毎時）で測定しており、出典元では環境放射線モニタリング指針（原子力安全委員会）に基づき、1 μ Gy/h（マイクログレイ毎時）=1 μ Sv/h（マイクロシーベルト毎時）と換算し、実効線量を表示している。
 [「全国及び福島県の空間線量測定結果」（原子力規制委員会 HP、閲覧：平成 29 年 7 月）より作成]



第 3.1-33 図 空間放射線量率の測定地点